

<b>科目名</b>	宗教学		<b>対象 単位数 必選</b>	短期大学部 文化学科 1年 2単位 選択/短期大学部 文化学科 1年 2単位 必修/短期大学部 家政科福祉情報専攻 1年 2単位 選択/短期大学部 家政科福祉情報専攻 1年 2単位 必修/短期大学部 幼児教育学科 1年 2単位 選択/短期大学部 家政科食物栄養専攻 1年 2単位 選択/短期大学部 家政科食物栄養専攻 1年 2単位 必修/短期大学部 幼児教育学科 1年 2単位 必修/短期大学部 音楽科 1年 2単位 選択/短期大学部 生活芸術科 1年 2単位 必修/短期大学部 音楽科 1年 2単位 選択
<b>担当教員</b>	福島 寅太郎			
<b>開講期</b>	I			
<b>授業概要</b>	<p>〔授業の目的・ねらい〕</p> <p>①本学の建学精神を理解するために必要な教養的知識を習得させる。</p> <p>②教養のある現代人として宗教に関する必要な知識を身につけさせる。</p> <p>〔授業の概要〕</p> <p>本講義は本学の建学精神に基づいた全学科・専攻の必修科目である。</p> <p>宗教は人間生活のあるところ、どの時代にもどの場所にも影響を及ぼしており、現在の私たちもまた日常生活の中で常にそれらと関わっている。グローバル化が進み、異文化間の相互理解が求められる現代において、宗教は果たしてどのような役割を果たすことができるのであろうか。</p> <p>本講義は、諸宗教の思想や信仰、特に現代日本およびアジアの諸宗教におけるさまざまな事例を取り上げ、宗教学的観点から探ることを目的とする。授業への理解を深めるために、アニメなどの映像を数多く取り扱う予定である。ちなみに「トトロはオスですか、それともメスですか」。素朴な疑問が学問への重要な一歩である。</p> <p>本年度は、本学の学問の特徴である「生活学」に焦点を当て、宗教と生活との関わりを考えてみたい。具体的には、当該当該問題に関連した最新の研究書を教科書として用い、当該教科書の読解を通じて理解を深めていきたいと考えている。</p> <p>〔到達目標〕</p> <p>①宗教学的“ものの見方”を理解する。</p> <p>②宗教が身近な存在であることを再確認し、「宗教」に対する偏りのない理解ができることを目指す。</p> <p>③紹介された諸事例を通じて、「宗教」と「宗教的なもの」との異同を理解する。</p>			
<b>達成目標</b>	<p>〔到達目標〕</p> <p>①宗教学的“ものの見方”を理解する。</p> <p>②宗教が身近な存在であることを再確認し、「宗教」に対する偏りのない理解ができることを目指す。</p> <p>③紹介された諸事例を通じて、「宗教」と「宗教的なもの」との異同を理解する。</p>			
<b>受講資格</b>	特になし	<b>成績評価方法</b>	試験成績60点、授業における発表20%、授業における参加態度20%など。理解度8割で、合とする。	
<b>教科書</b>	『中国仏教と生活禅』（浄慧著、東京・山喜房佛書林、2017年）。購買部で買い求めることができる。教室でも販売する。			
<b>参考書</b>	特になし			
<b>学生への要望</b>	ノートをごまめにとること。			
<b>オフィスタイム</b>	月曜日から金曜日（火曜日を除く）昼休みの時（12時～12時40分）。担当教員の研究室（創学館No. 5）			
<b>自学自習</b>	・事前に1時間程度の予習をすること。 ・事後にノート整理などのために1時間程度の復習をすること。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ガイダンス	授業の進み方、建学精神との関連について述べるとともに、テストや成績評価などについて紹介する。教科書についても案内する予定である。
2	生活と宗教（1）一禅の教えと歴史	具体的には禅を取り上げる。禅の歴史や基本的な教えについて、教科書に沿って述べる。アップルの創始者・ジョブズ氏は敬虔な禅の実践者である。シンプルさを追求したアップル製品を話題にしなが、生活における禅の役割を考える。
3	生活と宗教（2）一生活の中の「禅」	前回の続き。教科書に沿って、禅とは何かを、身近な話題を通して考える。
4	生活と宗教（3）一「生活禅」とは何か	「生活禅」とは何か。教科書を通して学びながら、一緒に考えてみる。
5	生活と宗教（4）一だるまさん・ダルマと達磨	「達磨さんが転んだ」という鬼ごっこをみんなは一度ぐらい遊んだことがある。ここに出てくる達磨さんとは誰のことであろうか。歴史上の達磨さんと民間信仰のそれとの異同を明らかにしてみたい。
6	生活と宗教（5）一般若心経	『般若心経』と生活禅について述べる。日常生活の中で、『般若心経』に触れる場面があると思う。ここでは教科書を用いながら『般若心経』とはどんなお経なのかを学ぶと共に、生活禅との関係を理解する。
7	生活と宗教（6）一こころと心	心とは何か。宗教は人間の不可視的なものを可視的にするものである。ここでは宗教から見た人間の心とは何かを、禅における心のとらえ方を通して理解する。
8	生活と宗教（7）一禅マンガについて	前回の続き。具体的には『十牛図』という最古のマンガを通して理解を深める。
9	生活と宗教（8）一宗教における悩みの対処法	悩みとは何か。禅における悩みの対処法を、教科書を通して理解する。
10	生活と宗教（9）一アニメにおける宗教的要素 其の一	気分転換のために、アニメにおける宗教的要素について考察する。具体的には『となりのトトロ』を取り上げる。
11	生活と宗教（10）一アニメにおける宗教的要素 其の二	前回の続き。ちなみに、トトロの性別はオスか、それともメスか。素朴な疑問が学問への重要な第一歩である。
12	生活と宗教（11）一生活と宗教との関わり 其の一	再び教科書に戻る。「生活の中で修行し、修行の中で生活する」という教科書の著者の言葉を理解しながら、生活と宗教との関わりを考える。
13	生活と宗教（12）一生活と宗教との関わり 其の二	前回の続き。「人間らしく生きるためにはどうしたらいいか」「人間の本質とは何か」などの問題について、教科書を参考にしつつ考えてみる。
14	生活と宗教（13）一まとめ	これまでの授業の全体についてまとめると共に、期末テストについて説明する。
15	最終回一まとめ其②	授業の内容を踏まえつつ、本学の建学精神である「尊敬・責任・自由」の意義を再び考えてみることにする。

<b>科目名</b>	宗教学	<b>対象 単位教 必選</b>	短期大学部 文化学科 1年 2単位 選択/短期大学部 文化学科 1年 2単位 必修/短期大学部 家政科福祉情報専攻 1年 2単位 選択/短期大学部 家政科福祉情報専攻 1年 2単位 必修/短期大学部 幼児教育学科 1年 2単位 選択/短期大学部 家政科食物栄養専攻 1年 2単位 選択/短期大学部 家政科食物栄養専攻 1年 2単位 必修/短期大学部 幼児教育学科 1年 2単位 必修/短期大学部 生活芸術科 1年 2単位 選択/短期大学部 音楽科 1年 2単位 選択/短期大学部 生活芸術科 1年 2単位 必修/短期大学部 音楽科 1年 2単位 必修
<b>担当教員</b>	福島 寅太郎		
<b>開講期</b>	I		
<b>授業概要</b>	[授業の目的・ねらい] ①本学の建学精神を理解するために必要な教養的知識を習得させる。 ②教養のある現代人として宗教に関する必要な知識を身につけさせる。 [授業の概要] 本講義は本学の建学精神に基づいた全学科・専攻の必修科目である。 宗教は人間生活のあるところ、どの時代にもどの場所にも影響を及ぼしており、現在の私たちもまた日常生活の中で常にそれらと関わっている。グローバル化が進み、異文化間の相互理解が求められる現代において、宗教は果たしてどのような役割を果たすことができるのだろうか。 本講義は、諸宗教の思想や信仰、特に現代日本およびアジアの諸宗教におけるさまざまな事例を取り上げ、宗教学的観点から探ることを目的とする。授業への理解を深めるために、アニメなどの映像を数多く取り扱う予定である。ちなみに「トトロはオスですか、それともメスですか」。素朴な疑問が学問への重要な一歩である。 本年度は、本学の学問の特徴である「生活学」に焦点を当て、宗教と生活との関わりを考えてみたい。具体的には、当該問題に関連した最新の研究書を教科書として用い、当該教科書の読解を通じて理解を深めていきたいと考えている。 [到達目標] ①宗教学的“ものの見方”を理解する。 ②宗教が身近な存在であることを再確認し、「宗教」に対する偏りのない理解ができることを目指す。 ③紹介された諸事例を通じて、「宗教」と「宗教的なもの」との異同を理解する。		
<b>達成目標</b>	[到達目標] ①宗教学的“ものの見方”を理解する。 ②宗教が身近な存在であることを再確認し、「宗教」に対する偏りのない理解ができることを目指す。 ③紹介された諸事例を通じて、「宗教」と「宗教的なもの」との異同を理解する。		
<b>受講資格</b>	特になし	<b>成績評価方法</b>	試験成績60点、レポート提出20%、小テスト20%など。理解度8割で、合とする。
<b>教科書</b>	『中国仏教と生活禅』（浄慧著、東京・山喜房佛書林、2017年）。購買部で買い求めることができる。教室でも販売する。		
<b>参考書</b>	特になし。		
<b>学生への要望</b>	ノートをこまめにとること。		
<b>オフィスタイム</b>	月曜から金曜（火曜日を除く）昼休みの時(12時～12時40分)。担当教員の研究室（創学館5階No. 5）		
<b>自学自習</b>	・事前に1時間程度の予習をすること。 ・事後にノートの整理などのために、1時間程度の復習をすること。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ガイダンス	授業の進み方、建学精神との関連について述べるとともに、テストや成績評価などについて紹介する。教科書についても案内する予定である。
2	生活と宗教（1）一禅の教えと歴史	具体的には禅を取り上げる。禅の歴史や基本的な教えについて、教科書に沿って述べる。アップルの創始者・ジョブズ氏は敬虔な禅の実践者である。シンプルさを追求したアップル製品を話題にしなが、生活における禅の役割を考える。
3	生活と宗教（2）一生活の中の「禅」	前回の続き。教科書に沿って、禅とは何かを、身近な話題を通して考える。
4	生活と宗教（3）一「生活禅」とは何か	「生活禅」とは何か。教科書を通して学びながら、一緒に考えてみる。
5	生活と宗教（4）一だるまさん・ダルマと達磨	「達磨さんが転んだ」という鬼ごっこをみんなは一度ぐらい遊んだことがある。ここに出てくる達磨さんとは誰のことだろうか。歴史上の達磨さんと民間信仰のそれとの異同を明らかにしてみたい。
6	生活と宗教（5）一般若心経	『般若心経』と生活禅について述べる。日常生活の中で、『般若心経』に触れる場面があると思う。ここでは教科書を用いながら『般若心経』とはどんなお経なのかを学ぶと共に、生活禅との関係を理解する。
7	生活と宗教（6）一こころと心	心とは何か。宗教は人間の不可視的なものを可視化するものである。ここでは宗教から見た人間の心とは何かを、禅における心のとらえ方を通して理解する。
8	生活と宗教（7）一禅マンガについて	前回の続き。具体的には『十牛図』という最古のマンガを通して理解を深める。
9	生活と宗教（8）一宗教における悩みの対処法	悩みとは何か。禅における悩みの対処法を、教科書を通して理解する。
10	生活と宗教（9）一アニメにおける宗教的要素 其の一	気分転換のために、アニメにおける宗教的要素について考察する。具体的には『となりのトトロ』を取り上げる。
11	生活と宗教（10）一アニメにおける宗教的要素 其の二	前回の続き。ちなみに、トトロの性別はオスか、それともメスか。素朴な疑問が学問への重要な第一歩である。
12	生活と宗教（11）一生活と宗教との関わり 其の一	再び教科書に戻る。「生活の中で修行し、修行の中で生活する」という教科書の著者の言葉を理解しながら、生活と宗教との関わりを考える。
13	生活と宗教（12）一生活と宗教との関わり 其の二	前回の続き。授業の内容を踏まえつつ、本学の建学精神である「尊敬・責任・自由」の意義を再び考えてみることにする。
14	生活と宗教（13）	質疑応答を含め、前期授業について討論する。
15	最終回	これまでの授業の全体についてまとめると共に、期末テストについて説明する。

<b>科目名</b>	哲学・倫理学	<b>対象 単位数 必選</b>	短期大学部 文化学科 1年 2単位 選択/短期大学部 家政科福祉情報専攻 1年 2単位 選択/短期大学部 家政科食物栄養専攻 1年 2単位 選択/短期大学部 幼児教育学科 1年 2単位 選択/短期大学部 生活芸術科 1年 2単位 選択/短期大学部 音楽科 1年 2単位 選択
<b>担当教員</b>	小阪 康治		
<b>開講期</b>	Ⅱ		
<b>授業概要</b>	この講義の目的は、人間のあり方について、人間のいちばん本質的なところから、自分で考えてみることにあります。この講義では思想の中心としての哲学を取り上げて、それによって生活するなかで起こるいろいろな身の回りの出来事を考えてみます。思想や哲学はもともと人間の生き方を考えるものでした。その過程で、何が善なのか、何が本当のことなのか、何が理想なのかなどの問題が出てきました。そこでこの講義では、具体的な事例から話を始めます。それから理論的な問題との関係を教えるだけでなく、受講者が自分自身で、人間や人間社会について考えることを訓練します。 【履修カルテの評価項目】 ① 思想的な知識は身についたか。 ② 思想的なものごとの考え方についてどの程度理解できたか。 ③ 思想的に考えを書くことがどの程度できるようになったか。		
<b>達成目標</b>	この講義の目的は、人間のあり方について、人間のいちばん本質的なところから、自分で考えてみることにあります。この講義では思想の中心としての哲学を取り上げて、それによって生活するなかで起こるいろいろな身の回りの出来事を考えてみます。思想や哲学はもともと人間の生き方を考えるものでした。その過程で、何が善なのか、何が本当のことなのか、何が理想なのかなどの問題が出てきました。そこでこの講義では、具体的な事例から話を始めます。それから理論的な問題との関係を教えるだけでなく、受講者が自分自身で、人間や人間社会について考えることを訓練します。 【履修カルテの評価項目】 ① 思想的な知識は身についたか。 ② 思想的なものごとの考え方についてどの程度理解できたか。 ③ 思想的に考えを書くことがどの程度できるようになったか。		
<b>受講資格</b>	特になし	<b>成績評価 方法</b>	最終成績は、時々行う小論文、講義時間内の発言などの積極性、提出物を加算して、最終成績にします。出席回数は規定通りに適用します。 評価の方法。 小論文。60% 講義中の積極的発言。30% 提出物。10%
<b>教科書</b>	受講生と相談して決める。		
<b>参考書</b>	必要に応じて指示する。		
<b>学生への要望</b>	現在の社会は、積極性のある人材を望んでいるので、なによりも積極的に発言し、ときどき課す小論文などでも、前向きな思考法身につけるつもりで講義に臨んで欲しい。 前期の講義の反応、学生諸君の興味、関心などを考え合わせ、また社会状況におうじて、講義のテーマや内容は、変えることもあります。		
<b>オフィスタイム</b>	火、水曜日昼休み。研究室		
<b>自学自習</b>	予習より復習を重視して欲しい。各回のテーマの中から試験問題が出るので、講義後、ノートの整理だけでなく、テーマについての自分の考え方をまとめておくと試験時に良い結果が出ると思う。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	講義の内容、目的、方法の説明	学問としての哲学的人間学を概観します。哲学的人間学というと、ものものしいのですが、ようするに人間が生きていくときに遭遇するいろいろな問題を、きちんと考えようとする学問です。 そこで15回分の講義の内容を概略説明します。 それから講義の進め方、ノートの取り方、講義中の積極性、小論文練習の役割、出欠、これらの評価にもとづいて成績を付けるときの基準などを説明します。
2	どうしたら幸せになれるか	おそらくすべての学問は、人間が幸せになることをひとつの目標としています。この回では、哲学的に考えて幸せになるとはどういうことかを、考えてみます。 私は甘いものが好きで、チョコレートパフェをおなか一杯食べると幸せだろうとおもうが、そんなことはできない。ダイエットばかり気にしているのもストレスがたまって、これまた幸せじゃない。 なにが、どういう行為が、どういう精神状態が幸せなのか、これについても哲学は長い時代にわたって、いろいろ考えてきました。
3	赤い花は赤いか	思想や哲学というのは、数学のようにきちんと回答が出るものではありません。しかしそれではただの評論になるので、確実な知識を求めていくと、こういう問題も出てきました。 ひとつの赤い花をおおげいが見ると、座ってる角度や距離によって、おなじ赤でもすしずつちがって見えているはずで、どうやったらおなじ赤を全員が見ることができるのか。赤とはどういう色なのか、などの問題が出てくるわけです。 これは屁理屈ではなく、ものごとをきちんと考えようとする、こういう方向に深まっていくというひとつの例なのです。
4	なぜ嘘をついてはいけないのか	嘘をついてはいけないのは、当たり前のことになっています。だがどうして嘘をついてはいけないのか、その根拠をはっきり言える人は、どれくらいいるでしょうか。どうして他人のものを盗んではいけないのか、どうして人殺しをしてはいけないのか、なども同じ問題です。これらの疑問を分析しながら、その根拠を考えてみます。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
5	論文練習	3～4回に1回くらい、これまでの時間の内容について、論文練習をします。この練習の目的は、学生の側からは、①これまでの講義をどれだけ理解できているかを自分で振り返ってみる。②論文練習をすることで、学期末の試験の練習になる。③採用試験時の筆記試験の対策にもなる。 教える側からすると、①なによりだいたいなのは、自分の頭で物事を考える訓練になる、②みんなで答案を検討するので、論文の書き方を具体的に理解させることができる、③教えたことをどれだけ理解しているかを点検できる、などです。
6	ビッグ・アイはなぜあるか	子どものころ、なぜなぜというのか、とんち話というのがありました。大阪城はだれがつくったか。「豊臣秀吉」と答えると間違いで、「大工さん」が正解でした。 郡山の駅を降りるとビッグ・アイがあります。ビッグ・アイはだれがつくったのか？「大工さん」だけではできない。これに似たことを、紀元前300年も前に、アリストテレスという人が言っている。この話は、いったいものがあるのはなぜなのか、どうしてもものがあると言えるのか、など哲学の本格的な課題につながっていきます。
7	北枕	古い時代の、古そうな考え方にもやっぱり哲学的な考え方はあります。日本の周りの文化では、北はけっして忌むべき方角ではないのに、なぜ日本だけ北枕がいけないとされるようになったか。発掘調査によってこれは仏教思想の影響ではないことがはっきりしました。 ここにはやはり古代人の哲学的な思考と、歴史の経過の中でのその変更があるのです。 この回は、古いものなかに潜む思想の見分け方を取り上げます。
8	バービーちゃんは何を教えているか。	アメリカではバービーちゃん、日本ではリカちゃんが一番売れています。アメリカの保守的な大人の男性は、女児がバービーちゃん遊ぶのを嫌がっています。日本の大人は、子どもにリカちゃんを買い与えるかどうか、悩みはしません。ここにはどういう問題があるのでしょうか。 これは単に好き好きによるものではありません。ここには両国社会の文化的、倫理的価値観の現われが見られるのです。本学は教育系の学生もおおきるので、このテーマで、子どもとおもちゃ、おもちゃと社会の関係について考えてみます。
9	哲について	哲学はむずかしいとよく言われます。いろいろ原因はありますが、そのひとつに「哲」という漢字の意味が分からないことがあるようです。この字は、哲夫君とか哲太郎君というように、固有名詞では使いますが、それ以外ではほとんど見ない。女性で哲子さんという名だと、付き合いたくないなあというイメージにもなります。 哲学は明治になって西洋から来た学問なので、英語のPhilosophyなどの外国語を訳したのですが、それ以前にも哲学的な考えが日本になかったわけではありません。それで漢字の「哲」の字を当てはめて訳語としたのです。 この回は、哲学とはどういうものかという、哲学の一番本質の意味について講義します。
10	論文練習	これまでの4回分について、先に述べた目的で、小論文の練習をします。
11	私は誰か	さまざまなことを考えたり、行動したり、他人と付き合ったりするのは自分です。ここには自分があるという前提がある。しかし仏教思想では、自分というものさえないのだ、と語られています。わざわざ仏教思想を持ち出さなくても、諸行無常という言葉に代表される考えは、おおくの日本人が共有しています。 この講義はほとんどが西洋思想を基礎にしたものですが、今回は東洋思想を中心に自分は何なのか、自分はどのようなのか、そもそも本当にあるのかなど、自分自身についての問題を考えてみます。
12	永遠の愛は可能か	むずかしい問題を考えるばかりが哲学ではありません。哲学は、われわれが日常疑問におもっていることを、きちんと考えようとして、だんだん深くなっていっただけです。「永遠の愛は可能か」というテーマは、おそらく古今東西、若者にとって最大の問題のはずですが、ギリシャの哲学者たちもこういう問題も考えた。友達と一晩中議論してもなかなか結論は出ない。疲れて寝てしまって、また次の週に同じような議論をしても、やっぱり結論には行きつかない。 どうしてそんなことになるのか。それは物事を分析することに慣れていないからです。この回は、哲学的に考える方法について話してみます。
13	論文練習	これまでの3回分について、小論文の練習をします。
14	家庭とは何か	本学の教育理念は、ドイツの哲学者であり教育学者であるオットー・フリードリッヒ・ボルノー先生の思想の影響を強く受け、先生の思想を受け継いでいます。 これにもとづいて、本学の教授陣が執筆した『家政哲学』が刊行されています。今回はこの思想を、分かりやすく説明します。 個人だけでは人間は生きていけません。それで社会をつくった。社会のなかで生活することで人間は豊かに安心して生きていける。ところが社会では、おたがいの利益が相反する場合があります。社会人としてお互いを守ることで、互いの人間性を尊重し、協力し、愛し合うことを、どこで学ぶのか。 個人と社会の間にある家庭が、それらの育成のための場所ではないのか。家庭を中心に個人と社会を調和させるところに、本学建学の精神の特徴があります。
15	論文練習	最初に、論文の書き方、参考書の使い方などをもう一度説明します。それから今学期全体のまとめを考えてもらい、いつもの小論文を書きます。

科目名	文化史	対象 単位数 必選	短期大学部 文化学科 1年 2単位 選択/短期大学部 家政科福祉情報専攻 1年 2単位 選択/短期大学部 家政科食物栄養専攻 1年 2単位 選択/短期大学部 幼児教育学科 1年 2単位 選択/短期大学部 生活芸術科 1年 2単位 選択/短期大学部 音楽科 1年 2単位 選択
担当教員	斎藤 美保子		
開講期	Ⅱ		
授業概要	<p>[授業の目的・ねらい] 自己紹介の際に自分が通っている女子大についてきちんと語れるように、歴史的な知識と国語力をつける。</p> <p>[授業内容の概要] 古代から現代までの郡山周辺の歴史を概観し、特に美学的な視点から本学内外の文化（詩歌、絵画、彫刻、建築等）を理解する。</p>		
達成目標	<p>[授業終了時の達成目標] ①歴史に関する基礎的知識を習得し、郡山の歴史について自分の言葉で語れるようになる。②美しい日本語と美術に対して自覚的になる。③大学周辺で取材して、季節の俳句を実際に作れるようになる。</p>		
受講資格	短期大学部1年生	成績評価 方法	授業中の課題（50%） 記述式の期末試験（50%）
教科書	斎藤美保子著「身辺に美を見出した俳人の系譜」「郡山女子大学建学記念講堂第一級帳小史」授業中に抜き刷りを配布します。		
参考書	岩波文庫、新潮文庫、岩波新書、中公新書、講談社新書等を紹介しします。		
学生への要望	本学図書館にある本の中から、何冊か推薦するので、時間を見つけて読み上げること。近隣の文化施設を活用して積極的に学ぶこと。		
オフィスタイム	月曜V・水曜V 第5研究室		
自学自習	事前学修：シラバスと講義資料を読んで、当日の内容を確認しておくこと（30分） 事後学修：ノートを整理し、授業中に課した課題を仕上げる（1時間）		

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション □	教師の自己紹介、文化史の定義、授業の進め方等を説明する。 「美術館のような女子大」と言われる学内の、美術品鑑賞の手引きをする。
2	歴史とは何か	「歴史学」の中でも、特に「美術史」「文化史」の重要性を理解する。 レオナルド・ダ・ヴィンチ《最後の晚餐》（1455～57年制作）から15世紀イタリアの食文化を読み解く。 学内の展示「上村松園美術展」鑑賞の手引きをする。
3	近隣の歴史と日本史	大安場古墳から郡山宿まで、女子大周辺の古代、中世、近世の歴史を、いわゆる「日本史」と関連づけて理解す
4	風俗美術館と図書館	風俗美術館の資料から日本史の大筋を理解する。 図書館を利用する際の注意点を確認する。
5	松尾芭蕉	元禄2年（1689年）の奥羽旅行をもとに芭蕉が書いた紀行文『奥の細道』から、郡山周辺の文章と俳句を味読する。 秋の俳句実作①
6	幕末の女性俳句	加賀の千代女、須賀川の多代女、郡山の遊女の俳句を読み、幕末の女性の生活を想像する。 秋の俳句実作②
7	幕末の偉人	安積ごんさい（1791～1860）の業績と明治維新の意義を理解する。 七十周年記念式典を詠む 秋の俳句実作③
8	擬洋風建築と正岡子規『はて知らずの記』	安積開拓の歴史と開成館、郡山学校（金透記念館）、福島県尋常中学校（安積歴史博物館）等、郡山の近代化遺産である擬洋風建築を理解する。 正岡子規が明治26年（1893年）に『奥の細道』に就いて旅をし、新聞「日本」に連載した『はて知らずの記』を味読する。 秋の俳句実作④
9	高濱虚子の俳句と群峰吟社から久米三汀の俳句	子規の写生句を継いだ高濱虚子と、郡山の俳句結社に学び新傾向の俳句を好んだ文士、久米三汀の俳句を味読する。 秋の俳句実作⑤
10	星野立子の俳句と女子教育	高濱虚子は女性にも俳句を勧めた。次女、星野立子の俳句を味読すると共に、大正から昭和にかけての女子教育を概観する。 秋の俳句実作⑥「会心の一句」
11	俳句会と学内の美術品鑑賞	互選で秋の俳句会を開く。 学内の上村松園美術展を解説する。
12	創立者、名誉学園長、関口富左先生の半生	関口富左著『私の半生』（福島民遊新聞 昭和61年2月13日～3月4日）を読み、生い立ちとその人となりを理解する。
13	郡山女子大学の歴史	『郡山女子大学 学園史』を読み、創立以来、70年の歴史を概観する。
14	郡山女子大学の校舎	建学記念講堂の基本設計をした世界的建築家、丹下健三の業績と、戦後の建築史を概観する。 斎藤美保子著「荘司福作《霧林》に関する一考察」を読み、理解する。
15	郡山女子大学の美術品	学内の第一級帳、第二級帳、及び、鎌田正蔵の画業を理解する。

平成29年度

<b>科目名</b>	日本国憲法		<b>対象 単位数 必選</b>	短期大学部 文化学科 1年 2単位 選択/短期大学部 家政科福祉情報専攻 1年 2単位 選択/短期大学部 幼児教育学科 1年 2単位 選択/短期大学部 家政科食物栄養専攻 1年 2単位 選択/短期大学部 生活芸術科 1年 2単位 選択/短期大学部 音楽科 1年 2単位 選択
<b>担当教員</b>	鈴木 康元			
<b>開講期</b>	I			
<b>授業概要</b>	憲法の基本理念と人権の重要性について理解してもらいたい。 履修カルテ評価項目 ①近代的意味の憲法の意義、歴史的背景が理解できたか。 ②日本国憲法の成立における問題点が理解できたか。 ③人権の重要性と制限根拠について理解できたか。			
<b>達成目標</b>	憲法の基本理念と人権の重要性について理解してもらいたい。 履修カルテ評価項目 ①近代的意味の憲法の意義、歴史的背景が理解できたか。 ②日本国憲法の成立における問題点が理解できたか。 ③人権の重要性と制限根拠について理解できたか。			
<b>受講資格</b>	短大1年生	<b>成績評価 方法</b>	ペーパー試験と出席状況	
<b>教科書</b>	日本一わかりやすい憲法入門 中経出版			
<b>参考書</b>	特に指定しない			
<b>学生への要望</b>	憲法および法律一般につき興味をもって欲しい。			
<b>オフィスタイム</b>	金曜日 授業終了後			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	憲法総論①	憲法を学ぶことの意義、重要性、近代的意味の憲法について□
2	憲法総論②	近代的意味の憲法の特徴、日本国憲法の歴史□
3	憲法総論③	国民主権の意義、平和主義（憲法9条の解釈）について□
4	基本的人権①	人権の概念、およびその重要性について□
5	基本的人権②	日本国憲法の人権の内容、人権の享有主体について□
6	基本的人権③	人権の限界、私人間における人権□
7	基本的人権④	包括的基本権（特にプライバシーの権利を中心に）法の下での平等の意義□
8	基本的人権⑤	内心の自由（特に信教の自由を中心に）につき判例をあげながら教える□
9	基本的人権⑥	表現の自由の意義とその優越性について□
10	基本的人権⑦	経済的自由権□
11	基本的人権⑧	財産権□
12	基本的人権⑨	その他の人権について□
13	統治機構①	国会□
14	統治機構②	内閣□
15	統治機構③	裁判所□

平成29年度

<b>科目名</b>	日本国憲法		<b>対象 単位数 必選</b>	短期大学部 文化学科 1年 2単位 選択/短期大学部 家政科福祉情報専攻 1年 2単位 選択/短期大学部 家政科食物栄養専攻 1年 2単位 選択/短期大学部 幼児教育学科 1年 2単位 選択/短期大学部 生活芸術科 1年 2単位 選択/短期大学部 音楽科 1年 2単位 選択
<b>担当教員</b>	鈴木 康元			
<b>開講期</b>	I			
<b>授業概要</b>	憲法の基本理念と人権の重要性について理解してもらいたい。 履修カルテ評価項目 ①近代的意味の憲法の意義、歴史的背景が理解できたか。 ②日本国憲法の成立における問題点が理解できたか。 ③人権の重要性と制限根拠について理解できたか。			
<b>達成目標</b>	憲法の基本理念と人権の重要性について理解してもらいたい。 履修カルテ評価項目 ①近代的意味の憲法の意義、歴史的背景が理解できたか。 ②日本国憲法の成立における問題点が理解できたか。 ③人権の重要性と制限根拠について理解できたか。			
<b>受講資格</b>	幼児教育学科 1年生	<b>成績評価 方法</b>	ペーパー試験と出席状況	
<b>教科書</b>	日本一わかりやすい憲法入門 中経出版			
<b>参考書</b>	特に指定しない			
<b>学生への要望</b>	憲法および法律一般につき興味をもって欲しい。			
<b>オフィスタイム</b>	金曜日 授業終了後			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	憲法総論①	憲法を学ぶことの意義、重要性、近代的意味の憲法について□
2	憲法総論②	近代的意味の憲法の特徴、日本国憲法の歴史□
3	憲法総論③	国民主権の意義、平和主義（憲法9条の解釈）について□
4	基本的人権①	人権の概念、およびその重要性について□
5	基本的人権②	日本国憲法の人権の内容、人権の享有主体について□
6	基本的人権③	人権の限界、私人間における人権□
7	基本的人権④	包括的基本権（特にプライバシーの権利を中心に）法の下での平等の意義□
8	基本的人権⑤	内心の自由（特に信教の自由を中心に）につき判例をあげながら教える□
9	基本的人権⑥	表現の自由の意義とその優越性について□
10	基本的人権⑦	経済的自由権□
11	基本的人権⑧	財産権□
12	基本的人権⑨	その他の人権について□
13	統治機構①	国会□
14	統治機構②	内閣□
15	統治機構③	裁判所□

平成29年度

科目名	社会科学（政治）		対象 単位数 必選
担当教員	影山 彌		
開講期	I		
授業概要	今日、私達の生活における、最も顕著な特色は、「生活の外部化」といわれる現象である。それは、工業化という大きな経済的变化の中で起こったといえるが、元来、「家庭の生活機能」である、衣・食・住、暮らし、保育、教育、娯楽、扶養、燃料、飲み水などが、企業の商品、行政サービスなどによって取って代われつつある状況を、「生活の外部化」という。従って、今日、私達の生活の充実を考える上で、政治や行政が大きな焦点になる。本講義では、様々なテーマを通して、生活と政治との関わりを考える。		
達成目標	今日の生活にとって、政治の働きが不可欠であることを理解できること。		
受講資格	短期大学部全学科専攻1年	成績評価 方法	受講態度（20%）、レポートあるいはテスト（80%）
教科書	なし		
参考書	阿部彩「子どもの貧困」、山田昌弘「少子社会日本」、本田良一「ルポ生活保護」、関口富左「家政哲学」		
学生への要望	授業目標を毎回確認すること。		
オフィスタイム	金曜日を除く昼休み（12:00～12:50） 創学館4階No.2研究室		
自学自習	予習：当日の内容を配付資料で確認しておく（1時間） 復習：授業を踏まえて、レジュメを使ったノートまとめをする（1時間）		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	政治化の時代について	①福祉、暮らし、生活環境など、多様な要求が政治に対して向けられていること、②政治の場において要求間の対立が起こること、③政治によって生活が管理されていること、これらの3つから、生活と政治の深い関わりをもつ現代について、政治化の時代と呼ぶ。
2	政治的無関心について	政治化の時代であるにもかかわらず、かなりの政治的無関心層が存在する。現代型政治的無関心といわれる、①脱政治的無関心、②無政治的無関心、③反政治的無関心、について説明し、政治的無関心の功罪について考える。
3	食の安全について	'01年9月、日本で初めて確認された、牛海綿状脳症（BSE）を中心に考える。対策として実施された、全頭検査、飼料規制、食品安全基本法の制定、食品安全委員会、米国産牛肉の輸入条件などについて解説する。
4	食糧自給率の問題（1）	先進国で最低であるわが国の食糧自給率をめぐって、その主たる原因である食生活の欧米化や、戦後の農業基本法農政、などについて解説する。
5	食糧自給率の問題（2）	今後の最大の問題である、農産物の完全自由化をめざす環太平洋パートナーシップ協定（TPP）の内容を説明し、それが、わが国の食糧自給率に与える影響について考える。
6	暮らしの問題（1）	増え続ける低所得層の現状を捉える。そのために、国民の相対的貧困率の上昇、若者の低所得層の問題、非正規雇用の増大、労働者派遣法の制定と規制緩和、などについて説明する。
7	暮らしの問題（2）	最後の安全網（セーフティネット）といわれる生活保護の受給世帯及び受給者が急激に増大している。こうした状況をうけて、生活保護制度の概要、現状及び課題について解説する。
8	暮らしの問題（3）	子供の貧困が注目されてきており、それは先進国の中でも高い水準にある。子供の貧困の現状と、その子供の成長に与える様々な影響について考える。また、子供の貧困に対する、わが国の政策の現状と問題点について解説する。
9	少子化の問題	わが国の少子化は歯止めがかからず、むしろ次の4点から深刻化の事態にあるといえる。①日本の総人口の減少、②合計特殊出生率の低下、③未婚率の増大、④夫婦出生率の低下。こうした深刻な少子化の事態について、少子化の社会的、経済的影響、少子化の原因、少子化対策の現状及び有効な少子化対策について考える。少子化を止めたフランスの少子化対策についても解説する。
10	高齢者介護の問題	現在、わが国は、超高齢社会といわれている。それにともない、要介護高齢者が増大し、介護の問題が国民的課題となっている。これをうけて、'00年4月、介護保険制度がスタートし、社会全体で介護の問題に当たることにした。介護保険制度の概要、現状及び課題などについて解説する。
11	生活の充実を目指す政策体系	今日、工業化にともなう都市化により、都市的生活様式が全般化している。こうした現状のなかで、生活の充実のための政策体系として、シビル・ミニマムが提起されている。それは、Ⅰ社会保障、Ⅱ社会資本、Ⅲ社会保健、の3つから構成されている。それぞれの具体的内容、生活の充実との関連及び地方政治との関連性、などについて解説する。
12	公的年金制度について	シビル・ミニマムの柱の一つである社会保障の中の公的年金制度について、老後の生活を支える国民年金、厚生年金、共済年金の概要と現状について説明する。
13	社会資本・社会保健について	シビル・ミニマムの二つの柱である社会資本・社会保健について、この二つが特に生活の質の向上に寄与する、快適で、健康的で、安全な生活環境を整備する条件であることを捉える。
14	政治を理解する枠組み（1）	政治とは、国民の要求・支持を受けて、法律や政策を作り出すことであることを理解する。このことによって、3、～13、までのことを、生活と政治との関連として正しく理解する。
15	政治を理解する枠組み（2）	国民の要求・支持を受けて、法律や政策が形成される過程について、そこに参加する個人、政治団体、機構などを理解する。

平成29年度

科目名	社会科学（経済）		対象 単位数 必選	短期大学部 文化学科 1年 2単位 選択/短期大学部 家政科福祉情報専攻 1年 2単位 選択/短期大学部 幼児教育学科 1年 2単位 選択/短期大学部 家政科食物栄養専攻 1年 2単位 選択/短期大学部 音楽科 1年 2単位 選択/短期大学部 生活芸術科 1年 2単位 選択
担当教員	長谷川 貴弘			
開講期	Ⅱ			
授業概要	本授業の目的は、生活と密接にかかわる経済の基礎知識の習得と経済学的視点の確立である。不景気・デフレーション・円高・円安・インフレーション・バブル経済・労働問題・消費・生活経済等、普段からニュースや新聞で取り上げられるが、これらの経済的事象は私達の生活と密接にかかわっている。これら経済的事象を経済学的視点で見る目を養うことを本授業の目的としたい。			
達成目標	経済的事象を経済学的視点で見る目を養うとともに、公務員試験の経済学の問題にも対応できる力を養うことを到達目標とする。			
受講資格	短期大学部 1年生	成績評価 方法	①小テスト30点（15点×2回） ②課題（レポート）70点	
教科書	プリントを配布する。			
参考書	伊藤元重「はじめての経済学（上）（下）」日経文庫、他必要に応じて授業の中で紹介する。			
学生への要望	普段からニュースや新聞で取り上げられる経済関連の問題について関心を持つようにすること。			
オフィスタイム	月曜8：30～14：20、金曜14：30～17：05 食品衛生学・経営管理学研究室			
自学自習	事前学習：事前に渡したプリントを見て内容を理解する（1時間）。 事後学習：プリント・ノートを見直して内容の理解を深める（1時間）。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ガイダンス・経済学とは何か①	授業の進め方、評価方法について解説する。 経済学とは何かを説明する第一の例としてインフレーションとデフレーションを取り上げ、両者が私達の生活に与える影響について学習する。
2	経済学とは何か②	第二の例として円安と円高を取り上げ、両者が私達の生活にどのような影響を与えるのかについて学習する。
3	経済学とは何か③	経済学をめぐって行われてきた政策論争（自由貿易vs保護貿易、大きな政府vs小さな政府）について学習することを通じて経済学への理解を深める。
4	マクロ経済学の基本と日本経済①	マクロ経済学（Macro Economics）が分析の対象とするGDP（国内総生産）の計算方法とその意味する点について学習する。
5	マクロ経済学の基本と日本経済②	日本と世界のGDPのデータを通じて、それが意味するものについて学習する。
6	マクロ経済学の基本と日本経済③	GDPを分解し、その中身について解説し、景気の拡大と後退のサイクルにおいて、GDPにどのような変化が起こるのかについて学習する。
7	マクロ経済学の基本と日本経済④	公務員試験のマクロ経済学関連の問題の解説を通じて、マクロ経済学の理論への理解を深める。 小テスト（1回目予定）
8	ミクロ経済学の基本-需要・供給曲線の理解-①	ミクロ経済学（Micro Economics）の定義と需要供給曲線について学習する。
9	ミクロ経済学の基本-需要・供給曲線の理解-②	需給バランスが崩れた場合、需要・供給曲線はどのように動くかについて学習する。また「市場の失敗」という概念について解説する。
10	生活と経済-エンゲルの法則と家計調査①	世界の家計研究の歴史について学習する。
11	生活と経済-エンゲルの法則と家計調査②	日本の家計研究の歴史について学習する。
12	生活と経済-エンゲルの法則と家計調査③	エンゲルの法則とエンゲル係数の概念について学習する。
13	金融システムと経済①	「貨幣」と「金利」はどのような性質を持ち、いかなる役割を果たすかについて学習する。
14	金融システムと経済②	株式市場とバブル経済の発生とその崩壊過程について学習する。
15	まとめ	これまでの学習内容を確認する。 小テスト（2回目）

科目名	自然科学（物理）		対象 単位数 必選	短期大学部 文化学科 1年 2単位 選択/短期大学部 家政科福祉情報専攻 1年 2単位 選択/短期大学部 幼児教育学科 1年 2単位 選択/短期大学部 家政科食物栄養専攻 1年 2単位 選択/短期大学部 生活芸術科 1年 2単位 選択/短期大学部 音楽科 1年 2単位 選択
担当教員	石原 正道			
開講期	Ⅱ			
授業概要	本講義では物理学における基本的な概念を把握し説明できるようにすることを旨とする。そのために物理学において最も基本的な分野である力学を学ぶ。学んだ力学をもとに生物の物理学および音の物理学を学び、他分野における物理学の役割を理解する。			
達成目標	本講義では物理学における基礎概念の理解および物理学の役割の理解のために、(1)物理学の考え方を理解し基本的な物理法則を説明できること、(2)エネルギーなどの諸概念を理解し現象と結び付けられること、を目標とする。			
受講資格	とくに定めなし。	成績評価 方法	課題（理解度の確認）2回・理解度確認ペーパーの提出による。配点割合は課題が各40%、理解度確認ペーパーの提出を20%とする。なお課題は得点分布などを加味し、平均点などの調整を行うことがある。課題実施時の持ち込みは、自筆記入によるA4用紙1枚（表裏記入可）のみに限る。	
教科書	適宜プリントを配布する。			
参考書	とくに定めなし。			
学生への要望	日常の現象に対して、なぜその現象が起こったのか自ら考えてみる。			
オフィスタイム	月曜日 16:10-17:05, No.1 情報処理教育研究室 火曜日 12:50-14:20, No.1 情報処理教育研究室 他の時間でも構わないが、アポイントメントがあると確実に対応できる。 アポイントメント用連絡先 m_isihar@koriyama-kgc.ac.jp			
自学自習	事前学習：学習する内容に現れる未知の単語等について調べる（20分） 事後学習：返却された確認ペーパーのコメントを確認すること。また、内容の確認・整理を行うこと（60分）			

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	イントロダクション	本授業の目標を示し、内容を概説する。また評価方法や教科書等についても述べる。また本授業で要求する基礎能力について説明する。本時では、本講義で必要となる基礎定数・文字式の扱いについて学習する。
2	指数・単位・次元	指数を用いた表現方法について学習する。一般に物理量は単位を有することを知り、具体的な単位に m, cm, kg, g, sec などがあること、また速さなどの単位は、これらの単位の組み合わせとなっていることを理解する。この一般化として、日常の単位は長さ・質量・時間の三つの量の組み合わせで作られることを理解し、次元の概念を学ぶ。
3	力と運動：ニュートンの3法則	運動の法則について学ぶ。速度と運動状態の関係に着目し、速度の変化には力が関わっていること、質量とは速度変化のしにくさであることを学ぶ。また物体間に働く力の関係として作用と反作用の関係を学び、日常現象から天体現象まで、同一の法則に支配されていることを認識する。
4	保存則	保存則に着目すると現象の理解が容易となる。保存則と関係するエネルギー・運動量・角運動量を導入し、相互作用の前後でこれらの物理量が保存されることを学ぶ。さらにエネルギー問題・交通事故と速度の関係・自転車の運転などを保存則の観点から理解する。
5	保存則とエネルギー伝達	空間の次元とエネルギーの伝わり方について実験を通して学習する。音は波であって、音の大きさは波の振幅であること、エネルギーは波の振幅の二乗であることを学ぶ。音の広がり方に着目し、エネルギー保存の観点から音の弱くなり方について理解する。また音との類推から放射線の強度についても放射線源からの距離により放射線強度が弱まることを理解する。（平面に分布している場合はどこでも同じになることについても触れる）
6	圧力	圧力の意味を理解し、日常での扱われ方について学ぶ。力は運動を定める基本的な要素であるが、日常では多数の粒子が関与するため力で扱うと不便なことがある。実際の現象では平均化された力である圧力を用いる方が適切な場合がある。圧力の計算方法を理解し、大気圧の大きさ、大気圧の生み出す現象（風）、圧力差の利用（サイフォン）などにより圧力と現象との関係を説明できるように学ぶ。
7	生物の物理学：生物の大きさ	あらゆる現象は物理法則に支配されており生物も例外ではない。これまでに学習した空間の次元やエネルギーの観点から、暑さの感じ方の違いや巨大な生物の存在の有無を理解できることを学ぶ。具体的に人間などの大きさや体重などを参考にし、空想上の生物が存在しうかについて次元解析を用いて考察する。
8	生物の物理学：ダイエットの物理学	ダイエットをエネルギーの視点から考えなおすことで、ダイエットにどのような物理的制約があるのかを理解する。ダイエットで用いられるエネルギーの単位であるカロリーと物理的に定義されたジュールの関係を理解し、エネルギー保存則を加味した場合にダイエットすることの物理的な意味を考える。また運動している物体の有するエネルギーなどと食品などのエネルギーを比較することで、運動によるエネルギー消費の程度を検討する。
9	課題1	学習してきた内容の理解度をチェックする。力や圧力といった概念やエネルギー保存則などを理解できているか確認する。また次元解析などを用いた質量や密度などの簡単な評価をすることができるか確認をする。
10	音の物理学：波の性質1	音とは空気の疎密波であることから、波の物理的性質について学ぶ。波の有するは振幅（波高）・波速・波長およびこれらと関係付けられる周波数（振動数）を理解する。また波の特徴的な性質である、縦波と横波・回折・干渉（重ね合わせの原理を含む）・反射・屈折について理解し、なぜ直接見えない音源の音が聞き取ることができるのか説明できるように学ぶこととする。
11	音の物理学：波の性質2	波の性質である「重ね合わせの原理」とは何か復習し、数学上はあらゆる波が正弦波の重ね合わせとして表現できる（フーリエ展開）ことを学ぶ。また固定端と自由端での波の挙動について理解する。波の重ね合わせの結果として定在波と呼ばれる波が生じることを学び、定在波の映像や音による定在波の実験を通じ、定在波について理解を深める。
12	音の物理学：声と音	人間の音に対する認識である、音の大きさ・音の高低・音色と物理的な性質との対応を認識することとする。音の大きさは波のエネルギー（波高の2乗）と関係していること、音の高低は周波数と関係していることを理解する。また音色は音の物理的な特性とは関係がなく、波の形状によって定まることを学ぶ。
13	共振・共鳴(力学)	共振・共鳴は、効率的にエネルギー伝達が起こる現象である。このため振動現象の中でも大きな事故を引き起こしうる。共振・共鳴とはどのような現象かを理解し、破壊的な現象が起きうることを理解する（タコマ橋の崩壊・地震と長周期振動）。
14	共振・共鳴(音)	共鳴を利用して、様々な音(声)の周波数測定を行う(気柱共鳴)。また他の共鳴の例としてうなり笛を作成して、発生する音を聞き取り、音の生成原理（ヘルムホルツ共鳴）を学ぶ。
15	課題2	音に関する諸事項や共振・共鳴について理解できているか確認する。波の物理的性質・音色と音の性質と関係などを理解できているか確認する。また共振・共鳴とは何かといったことや、共振・共鳴に関する現象を把握しているか確認する。

科目名	自然科学（化学）		対象 単位数 必選	短期大学部 文化学科 1年 2単位 選択/短期大学部 家政科福祉情報専攻 1年 2単位 選択/短期大学部 家政科食物栄養専攻 1年 2単位 必修/短期大学部 幼児教育学科 1年 2単位 選択/短期大学部 生活芸術科 1年 2単位 選択/短期大学部 音楽科 1年 2単位 選択
担当教員	伊藤 哲章			
開講期	Ⅱ			
授業概要	私たちの生活は、10年前と比べるとずっと便利になっています。この違いをもたらしたのは科学の力です。19世紀後半から盛んになった科学の研究が、現在の私たちの生活環境を豊かで快適なものへと導いてきたのです。この授業で学習する化学は、このような科学の中で、「もの」を対象とする分野を扱います。			
達成目標	「もの」とは、実体、つまりかたちや重さのあるもののことです。どんなに優れた法則や原理も、それを生活の中に応用するには、「もの」がなくては実現できません。皆さんには、自分の身のまわりにあるものを眺め、私たちの生活を豊かで快適なものにするのに、化学がどのように貢献しているかを理解してほしいと思います。			
受講資格	短大全学科1年生	成績評価 方法	期末に筆記試験を行い、授業内容のおおよそ80%以上の理解をもって単位を認定する。筆記試験50点、レポート50点とする。	
教科書	忘れてしまった高校の化学を復習する本 中経出版 福間哲人著 1500円+税			
参考書	高校で使用した教科書・参考書等の復習を勧める。			
学生への要望	授業中はしっかりノートをとり、集中して受講する。			
オフィスタイム	木曜日3限～4限 金曜日4限 場所 821研究室			
自学自習	予習 授業で指示した内容についてまとめてくる(1時間) 復習 授業で更に指示した内容を調査し、まとめておく(1時間)			

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	化学と人間生活（1）	私たちの祖先は、古代から多くの物質を発見し、その性質を調べ、それを利用してさまざまな道具を発見してきた。化学とは、この物質の成り立ちや構造・性質などを調べたり、新たな物質をつくり出したりする学問である。
2	化学と人間生活（2）	新しい物質の研究や利用は、まさに文明を進歩させる原動力といえる。古代の人々が知っていた物質はごくわずかであったが、現在では数千種類もの物質についての知識が蓄えられており、豊かな快適な生活を支えている。化学という学問が、私たちに対してどのようにかわりあっているのか、人類の歩みと現代の日常生活の中から考えてみる。
3	物質の構成（1）	私たちの生活は、さまざまな物質に支えられている。物質はそのまま使われるばかりでなく、別の有用なものに作りかえられたり、新たにつくられたりしている。ここでは物質の学習の第一歩として、物質の分類や精製法、さらに物質の三態について学習する。
4	物質の構成（2）	私たちの生活は、さまざまな物質に支えられている。物質はそのまま使われるばかりでなく、別の有用なものに作りかえられたり、新たにつくられたりしている。ここでは物質の学習の第一歩として、物質の分類や精製法、さらに物質の三態について学習する。
5	物質の構成粒子（1）	原子は、古代ギリシアの哲学者であるデモクリトスによって、それ以上分けられない粒子として提案され、アトムと呼ばれていた。20世紀には原子の存在が直接確かめられるようになり、現在では原子の実像が見られるだけでなく、それを操作することもできる。このような原子の構造や性質について学習する。
6	物質の構成粒子（2）	原子は、古代ギリシアの哲学者であるデモクリトスによって、それ以上分けられない粒子として提案され、アトムと呼ばれていた。20世紀には原子の存在が直接確かめられるようになり、現在では原子の実像が見られるだけでなく、それを操作することもできる。このような原子の構造や性質について学習する。
7	粒子の結合（1）	私たちの身のまわりの物質は、原子やイオンなどの粒子からできており、その多くは粒子どうしが結合した集合体である。粒子どうしの結合には原子の性質が関係していて、結合のしかたには一定の規則がある。ここでは、結合のしかたとそれによってできた物質の性質や用途について学習する。
8	粒子の結合（2）	私たちの身のまわりの物質は、原子やイオンなどの粒子からできており、その多くは粒子どうしが結合した集合体である。粒子どうしの結合には原子の性質が関係していて、結合のしかたには一定の規則がある。ここでは、結合のしかたとそれによってできた物質の性質や用途について学習する。
9	物質と化学反応式（1）	化学では、物質の量を表すのに物質質量を用い、その単位としてmolが使われる。この章では、なぜ物質質量が使われるのか、molとはどのような単位なのかについて学ぶ。また、化合や分解のような化学反応において、反応前後の質量や体積の関係についても、molを単位とした物質質量を中心に考えていく。
10	物質と化学反応式（2）	化学では、物質の量を表すのに物質質量を用い、その単位としてmolが使われる。この章では、なぜ物質質量が使われるのか、molとはどのような単位なのかについて学ぶ。また、化合や分解のような化学反応において、反応前後の質量や体積の関係についても、molを単位とした物質質量を中心に考えていく。
11	酸と塩基の反応（1）	酸と塩基は、多くの物質に含まれ、身のまわりのさまざまなところで利用されている。例えば、食べものや飲みものの酸味は酸の特性によるものである。この単元では、水溶液の酸性・塩基性の強弱の原因や表し方、中和反応が起こっているときの酸と塩基の量的関係などについて学習する。
12	酸と塩基の反応（2）	酸と塩基は、多くの物質に含まれ、身のまわりのさまざまなところで利用されている。例えば、食べものや飲みものの酸味は酸の特性によるものである。この単元では、水溶液の酸性・塩基性の強弱の原因やその表し方、中和反応が起こっているときの酸と塩基の量的関係などについて学習する。
13	酸化還元反応（1）	物質が酸素と化合したり、水素化合物から水素が奪われたりするとき、その物質は酸化されたという。しかし、電子の授受で考えると、酸素や水素が関係しないような酸化還元反応まで説明することができる。この単元では、酸化還元反応のしくみを理解した上で、金属のイオン化や還元反応の利用について学習する。
14	酸化還元反応（2）	物質が酸素と化合したり、水素化合物から水素が奪われたりするとき、その物質は酸化されたという。しかし、電子の授受で考えると、酸素や水素が関係しないような酸化還元反応まで説明することができる。この単元では、酸化還元反応のしくみを理解した上で、金属のイオン化や還元反応の利用について学習する。
15	化学反応と熱	化学反応の前後における量的関係（物質質量・体積・質量の関係）については学習した。この単元では、化学反応に伴う熱とその量的関係について学習する。化学反応によって発生または吸収するエネルギーは、熱として現れることが多いが、電気として現れる場合もある。例えば、電池は化学反応により発生するエネルギーを電気エネルギーとして利用したものである。

科目名	自然科学（化学）		対象 単位数 必選	短期大学部 文化学科 1年 2単位 選択/短期大学部 家政科福祉情報専攻 1年 2単位 選択/短期大学部 幼児教育学科 1年 2単位 選択/短期大学部 家政科食物栄養専攻 1年 2単位 必修/短期大学部 生活芸術科 1年 2単位 選択/短期大学部 音楽科 1年 2単位 選択
担当教員	坂上 茂			
開講期	Ⅱ			
授業概要	<p>[授業の目的・ねらい] 栄養士とフードスペシャリストに必要な化学の知識を習得する。 [授業全体の内容の概要] この授業は短期大学部家政科食物栄養専攻の学生を対象に卒業必修科目として開講する。栄養士とフードスペシャリストを目指す学生にとっての重要な基礎となる化学について講義する。高校で化学を履修していない学生のため、元素の種類・周期表・元素記号、化学結合、分子と化学式など化学の基礎的な内容（高校の基礎化学）を含めて講義する。さらに有機化学について専門科目の食品学や生化学を理解するために必要な内容を扱う。</p>			
達成目標	<p>[授業終了時の達成課題（到達目標）] 生体や食品に含まれる化学物質について、化学構造に基いて性質、特徴や役割を理解することを目指す。授業内容のおおよそ8割以上の理解を目指す。</p>			
受講資格	特になし。	成績評価 方法	提出物（10%）と筆記試験（90%）で評価する。60点以上で単位を認定する。	
教科書	図表から学ぶ化学 第2版、2008、浜島書店（名古屋）1,600円＋税			
参考書	1. 高校の化学の教科書・参考書。 2. 伊藤ら訳「生命科学のための基礎化学（無機物理化学編）、（有機・生化学編）」、丸善出版。			
学生への要望	授業をよく聞き、授業に集中してノートを取る。授業中には問題演習も行い、また課題も提示するので自ら積極的に取り組んで理解を深めるよう努力すること。特に、高校で化学を学んでいない学生や自信がない学生は予習もしっかり行い必要な知識を身に付けるよう希望する。問題演習では電卓を用いるので持参すること。			
オフィスタイム	木曜日、金曜日 12時00分～12時30分 教員研究室			
自学自習	予習：教科書に目を通しておくこと（1回の授業毎に30分）。 復習：参考文献なども調べて、授業のノートをまとめること（1回の授業毎に1時間30分）。			

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	原子	原子の基本構造（陽子と中性子からなる原子核、電子）、質量数と同位体、原子量、電子殻と電子のオービタルについて説明する。原子量の求め方について計算の問題演習を行う。
2	元素の周期と周期表	最外殻電子の配置によって生じる原子の周期と周期表の見方について講義する。
3	イオン	原子の最外殻電子の配置とイオンの形成について講義する。
4	化学結合と分子	弱い結合（イオン結合）と強い結合（共有結合）について、元素の電気陰性度から説明する。また、共有結合による分子の形成と極性分子・非極性分子と水溶性について講義する。
5	物質質量（モル）	アボガドロ数とモル（mol）の概念理解のため、原子量、分子量、式量とモルについて講義する。さらに、電卓を用いて、モルと質量について計算の問題演習を行う。
6	化学反応式	モルの概念を使って、化学反応式の書き方と化学反応式が表す意味を説明する。問題演習も行う。
7	酸と塩基	アーレニウスの酸・塩基、ブレンステッド・ローリーの酸・塩基。水素イオン濃度と水素イオン指数（pH）について講義する。
8	中和反応と塩	強酸・弱酸と強塩基・弱塩基、酸・塩基の価数、中和反応について講義する。また、中和反応で生じる塩の性質について説明する。中和反応の化学反応式について問題演習も行う。
9	有機化合物と脂肪族炭化水素	炭素原子、水素原子、酸素原子の電子軌道と共有結合について説明した後、アルカン、アルケン、アルキンの種類と構造について講義する。特に、構造式の表し方を理解することが重要である。
10	含酸素有機化合物 I	酸素原子を含む有機化合物の中で、アルコール、エーテル、アルデヒド、ケトン、カルボン酸の構造、分類、性質について講義する。
11	含窒素有機化合物	窒素原子の電子軌道と共有結合について説明した後、アミン類の構造、分類、性質について講義する。特に第一～第三アミンと第四アンモニウムイオンについての理解を目指す。
12	芳香族化合物	ヒュッケル則に従う芳香族化合物に於ける電子の共鳴、構造式の書き方、芳香族の特徴を説明する。
13	異性体	構造異性体（鎖型異性体、官能基異性体、位置異性体）と立体異性体（幾何異性体、光学異性体）の種類と構造の表し方について講義する。
14	有機化合物の構造と名称	有機化合物の構造の略記方法と命名法の基礎について講義する。
15	まとめ	授業をまとめて振り返り、問題演習を行う。

科目名	自然科学（生物）		対象 単位数 必修	短期大学部 文化学科 1年 2単位 選択/短期大学部 家政科福祉情報専攻 1年 2単位 選択/短期大学部 家政科食物栄養専攻 1年 2単位 必修/短期大学部 幼児教育学科 1年 2単位 選択/短期大学部 生活芸術科 1年 2単位 選択/短期大学部 音楽科 1年 2単位 選択
担当教員	金子 依里香			
開講期	I			
授業概要	<p>[授業の目的] 人はヒト（Homo sapiens）という生物であり、私たちが生活するうえで、ヒトである自分を知ることは大切なことである。ヒトのからだについて理解を深めるとともに、生物におけるヒトの位置づけについても考える。</p> <p>[内容の概要] ヒトの細胞、代謝、生殖と発生、免疫、遺伝子および人体の成り立ちといった内容について学習する。</p>			
達成目標	[到達目標（授業終了時の達成課題）] からだのしくみや生体内で起こる現象についての概要を理解し、「ヒトの生物学」についての基礎知識を身につける。			
受講資格	特になし	成績評価 方法	授業中に課すレポート提出15点、期末試験80点および平常点（授業態度・学習意欲）5点の100点満とし、60点以上で単位を認定する。平常点については1人5点を持ち点とし、減点方式で評価する。	
教科書	小野廣紀・内藤通孝著 「わかる生物学—知っておきたいヒトのからだの基礎知識—」 （株）化学同人、京都（2013・第9刷） 1,800円（税別）			
参考書	高校で使用した教科書・参考書等の復習を勧める。			
学生への要望	授業前には、シラバイの授業内容欄にある教科書の範囲に目を通しておく。また、授業中はしっかりノートを取り、集中して受講する。授業終了後は、教科書の各章末にあるまとめの問題を行い、授業内容の理解度を確認する。			
オフィスタイム	水曜日および木曜日の5コマ目。 担当教員研究室			
自学自習	予習：シラバイに記載してある教科書の内容に事前に目を通すとともに、キーワードとなる語句について見直しておくこと（1時間）。 復習：教科書には章ごとに「章末問題」が掲載されている。各自問題を解いて授業の見直しを行う（1時間）。			

—授業内容とスケジュール—

回	項目	授業内容
1	生命の誕生とヒトの祖先について	先カンブリア時代からヒトが出現する新生代まで、生命の歴史について理解を深める。46億年前に地球が誕生し、その後、生物が生まれ進化をして今日に至っていることを理解するとともに、生物学史の概要を学び授業の流れを確認する。 Key words：自然発生説、細胞説(pp1-4)
2	細胞の構造と機能	植物と動物の細胞を比較し、細胞内に存在する、核、ミトコンドリア、ゴルジ体、などの細胞内小器官について学び、これらの細胞が集まり生物のからだ構成されていることを理解する。 Key words：細胞、組織、器官、器官系、細胞内小器官(pp5-15)
3	細胞の分裂と増殖	体細胞分裂と減数分裂について、それぞれの分裂過程、相違点および共通点を比較し、体細胞と生殖細胞の違いを理解する。 Key words：体細胞、体細胞分裂、生殖細胞、減数分裂、相同染色体、二価染色体(pp16-19)
4	生殖、発生そして誕生	生殖の方法である、有性生殖と無性生殖の違いについて学ぶとともに、ヒトの精子形成と卵形成、受精、発生、誕生について理解を深める。 Key words：有性生殖、無性生殖、配偶子、受精、妊娠(pp20-21)
5	食べ物からエネルギーを作る（1）	エネルギーを作り出す分子である、アデノシン5'-三リン酸（ATP）について学ぶ。呼吸のうち、内呼吸とは細胞内でグルコースなどを分解し、必要なエネルギーを取り出す反応であることを理解する。 Key words：外呼吸、内呼吸、ATP(pp23-27)
6	食べ物からエネルギーを作る（2）	好気呼吸は解糖系、クエン酸回路、電子伝達系の3段階で行われることから、それぞれの反応について学び、食べ物からエネルギーをつくるしくみを理解する。 Key words：好気呼吸、解糖系、クエン酸回路、電子伝達系(pp27-32)
7	食べ物からからだをつくる	食べ物を構成する糖質、タンパク質、脂質の消化のしくみと、消化にかかわる酵素の働きや特徴について学び、からだは食べ物からどのようにしてできるかを理解する。 Key words：糖質、タンパク質、脂質、酵素、肥満(pp33-41)
8	血液の働き	血液の働きや血球成分について学び、細胞の1つひとつの生命活動を支えているのが血液であることを理解する。 Key words：血球成分、血漿成分(pp43-50)
9	神経系とホルモン	生体内の内部環境を維持するために、重要な役割を果たしているのが神経系および内分泌系であることを理解する。神経系では交感神経と副交感神経について、ホルモンについては主に、成長ホルモン、男性ホルモン、女性ホルモン、血糖値の調節を行うインスリンやグルカゴンを取り上げて説明する。 Key words：交感神経系、副交感神経系、ホルモン(pp53-60)
10	免疫系	免疫系の働きとは、抗原と言われる異物の生体進入を防いだり、抗原の排除を行い生体の内部環境を守ることを学ぶ。免疫の分類やしきみについて理解する。 Key words：自然免疫、獲得免疫、抗原、抗体、アレルギー(pp60-66)
11	遺伝（1）	親から子どもへ情報が伝わる仕組みを理解するために、メンデルが行ったエンドウ豆の実験について理解を深め、メンデルの法則から血液型などの身近な遺伝について学ぶ。 Key words：メンデルの法則、不完全優性、複対立遺伝子、組み換え、連鎖(pp69-74)
12	遺伝（2）	性に関する遺伝について理解するため、性の決定、有性生殖の可能性について学ぶ。また、遺伝病や突然変異についても理解を深める。 Key words：性染色体、常染色体、伴性遺伝(pp75-78)
13	遺伝子の本体（1）	遺伝現象の本体であるデオキシリボ核酸（DNA）解明の歴史を理解するため、遺伝子の本体がDNAであることの発見や、DNAの二重らせん構造解明に至るまでを学ぶ。遺伝暗号表の読み方についても理解する。 Key words：二重らせん構造、アデニン、チミン、グアニン、シトシン(pp79-88)
14	遺伝子の本体（2）	遺伝子をもとに、あらゆるタンパク質が合成されることを学ぶ。さらに、遺伝子組み換え作物や動物についても理解を深める。 Key words：遺伝情報の転写(pp89-92)

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
15	進化	われわれのからだに残る進化の痕跡を知り、ヒトの進化について理解するとともに、進化論について学ぶ。 Key words : 相同器官、相似器官、痕跡器官 (プリントを準備)

科目名	自然科学（生物）		対象 単位数 必選	短期大学部 文化学科 1年 2単位 選択/短期大学部 家政科福祉情報専攻 1年 2単位 選択/短期大学部 家政科食物栄養専攻 1年 2単位 必修/短期大学部 幼児教育学科 1年 2単位 選択/短期大学部 音楽科 1年 2単位 選択/短期大学部 生活芸術科 1年 2単位 選択
担当教員	伊藤 哲章			
開講期	Ⅱ			
授業概要	地球上には、現在、約175万種におよぶ多くの生物の存在が確認されている。これらの生物は、種類によって形や性質が異なり、それぞれ違った生き方をしている。しかし、個々の生物を精細に観察し、その結果を集約してみると、「生きもの」としての共通した特性のあることに気づく。多様な生物界にみられるこの共通する特性は、生命の基本的な性質を示すものと考えられる。これらの基本的な性質の理解を深めていく。			
達成目標	日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象への関心を高め、目的意識をもって観察などを行い、生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方を養う。			
受講資格	幼児教育学科	成績評価 方法	期末に筆記試験を行い、授業内容のおおよそ80%以上の理解をもって単位を認定する。筆記試験50点、レポート50点とする。	
教科書	山川喜輝著 「こらならわかる！生物学」 ナツメ社1,680円（税別）			
参考書	高校で使用した教科書・参考書等の復習を勧める。			
学生への要望	授業前には、教科書の範囲に目を通しておく。授業終了後は、教科書の各章末にある練習問題で授業内容の理解度を確認する。			
オフィスタイム	木曜日3限～4限 金曜日4限 場所 821研究室			
自学自習	予習：授業で指示した内容についてまとめてくる（1時間） 復習：授業で更に指示した内容を調査し、まとめておく（1時間）			

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	生物のからだのつくり (1)	生物の構造と機能の基本単位である細胞について学ぶ。細胞のはたらきは、細胞小器官（オルガネラ）の分業により効率よく営まれる。ヒトのからだをつくる細胞とは根本的につくりが違うのが原核細胞である。原核細胞は目に見えないが、身近な存在でもある。
2	生物のからだのつくり (2)	ウイルスはという言葉はよく聞かすが、多くの人が誤解している。ウイルスは細胞ではないし、自分で増えることができない。細胞膜は単なる細胞の包みではない。いろいろな機能をもっている。細胞に必要なものを選別して取り込むのも重要なはたらきのひとつである。
3	細胞の増殖（1）	ウイルスは人工的に合成できるが、細胞をゼロから人工的に合成したという報告はまだない。つまり、細胞は細胞からしかつくり出されない。ここでは、細胞の基本性能である細胞分裂をみていく。減数分裂は世代間をつなぐ細胞分裂である。減数分裂によってつくられる卵や精子は、受精にそなえてゲノムが半分になる。染色体の動きに注目して、その過程をみていく。
4	細胞の増殖（2）	ヒトの配偶子をつくるための準備は、すでに胎児期に始まっている。卵がつくり出される過程では、胎児期に始まった減数分裂が受精後に完了する。配偶子をつくるということは、生物にとって一大仕事である。
5	生殖と発生（1）	生殖とは子をつくつことである。生物によってその方法はさまざまで、どの生殖法もそれぞれ生物に適したものになっている。どんな生物も、生殖によって種を存続させるとともに、より強い子孫を残すための工夫をしている。
6	生殖と発生（2）	ヒトのからだは約60兆個の細胞でできている。これらのすべては、たった1個の受精卵から生じたものである。しかし、単に受精卵が細胞分裂しただけでは統制のとれたからだにはならない。そこには細胞の分化が必要である。
7	遺伝（1）	ここでは、遺伝子が親から子へと伝えられるときにみられるルール、すなわち遺伝の法則について学ぶ。ヒトを含む多くの陸上動物の性は、性染色体の組み合わせによって決まる。まずは、性染色体がどのように子へと受け継がれるかみていく。
8	遺伝（2）	性染色体の遺伝子による形質の発現は、男女間で違いがある。ここでは、その例をみていく。ヒトの性染色体にも当然遺伝子が存在する。しかし、男性だけがもつY染色体にある遺伝子の数は少ないうえに、そのほとんどは精巣をつくったりするための男性専用の遺伝子である。
9	遺伝子のはたらき（1）	ここでは、遺伝子の実態について学習する。遺伝子はどんな素材からできていて、どんな形をしているのか。そして、遺伝子のはたらきとはどういうことなのか。遺伝子としてはたらく物質に必要とされる条件は、①分子構造の中に情報を保存できる、②その情報を簡単に複製できる、の2つである。
10	遺伝子のはたらき（2）	遺伝子のはたらきを表現という。転写は遺伝子発現の第一歩で、転写の過程にも、塩基の相補性が関わっていて、うまく情報が写し取られている。たった4文字で記述された遺伝情報が、タンパク質に変換される過程が翻訳である。
11	バイオテクノロジー（1）	特定の遺伝子をはたらかなくしたマウスをノックアウトマウスという。ノックアウトマウスは、現在の遺伝子研究にはなくてはならない存在である。ここでは、ノックアウトマウスがどのようにつくられていくかを見ていく。
12	バイオテクノロジー（2）	iPS細胞（人工多能性幹細胞）はどのようにしてつくられるのか。そして、実用化までにクリアしなければならない課題には、どのようなものがあるか。
13	呼吸と光合成（1）	生物のからだの中では、さまざまな化学反応が進行している。そして、これらの化学反応のほとんどは、酵素によって進められる。食物から取り込んだ栄養素は、血液で全身の細胞へ送ら、そこで細胞をつくる材料になったりエネルギーに変えられたりする。
14	呼吸と光合成（2）	ヒトが食事から得ている糖やアミノ酸などの栄養素は、もとはすべて植物が生み出したものである。ここでは、植物が有機物を生み出すしくみを見ていく。
15	進化	どんな生物も、その親となる生物から生まれる。ただし、地球上に最初に誕生した生物は、空気や水に含まれる物質が集合してできたと考えられている。ここでは、最初の生物がどのように誕生したかを見ていく。

科目名	言葉と表現	対象 単位数 必修	短期大学部 文化学科 1年 2単位 選択/短期大学部 家政科福祉情報専攻 1年 2 単位 選択/短期大学部 幼児教育学科 1年 2単位 選択/短期大学部 家政科食物 栄養専攻 1年 2単位 選択/短期大学部 生活芸術科 1年 2単位 選択/短期大学部 音楽科 1年 2単位 選択
担当教員	渡部 東一郎		
開講期	Ⅱ		
授業概要	社会の情報化、国際化、高齢化が進むとともに、日本語の衰退が危惧されている。事実、若い世代を中心に、国語表現力や文章表現力の低下が目立ち、ひいてはコミュニケーションにおける語彙の少なさ、言葉の乱れなどが心配されている。本授業では正しい発音・発声の方法から、言葉の正しい意味と使い方、朗読や敬語表現、文章表現などを通して、日本語表現や言葉の感受性をより豊かにすることを目的とする。また、社会人としてのコミュニケーションルールを身につけ、自らの人格を養い、他人との協調性を習得する。		
達成目標	社会の情報化、国際化、高齢化が進むとともに、日本語の衰退が危惧されている。事実、若い世代を中心に、国語表現力や文章表現力の低下が目立ち、ひいてはコミュニケーションにおける語彙の少なさ、言葉の乱れなどが心配されている。本授業では正しい発音・発声の方法から、言葉の正しい意味と使い方、朗読や敬語表現、文章表現などを通して、日本語表現や言葉の感受性をより豊かにすることを目的とする。また、社会人としてのコミュニケーションルールを身につけ、自らの人格を養い、他人との協調性を習得する。		
受講資格	特になし	成績評価 方法	筆記試験50点、レポート50点、欠席は1回につき4点減点。60 点以上で合格とするが、授業理解度は8割以上を求める。
教科書	担当教員作成のプリント		
参考書	その都度紹介		
学生への要望	発声、文学作品朗読、自己表現など実践練習も取り入れるので、積極的に声を出して自分を表現すること。意識して目上の人と話をし敬語に慣れる。新聞のコラム欄に目を通す習慣を養い、書き言葉を意識する。		
オフィスタイム	授業終了後30分		

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	正しい日本語話していますか	オリエンテーション。授業の進め方の説明と言葉遣いに関するVTR視聴。その後自分の普段の言葉遣いを振り返って感想を話し合う。
2	日本語の表現と文化	日本語の特徴と文化的背景などを説明し、日常使われている「あいさつことば」についてQ&A方式でその意味などを話し合いながら考える。
3	日本語の語彙	日本語の語彙の特徴、語彙の体系、語の意味、文の中での語の使われ方などをQ&A方式で学ぶ。言葉と意味、類義語・反意語の使い分け、外国語との対照についてもチェックする。
4	会話表現(1)	日常会話の中で比較的良好に使われる国語表現・日本語表現について、その言葉の正しい意味の理解と使い方を学ぶ。クイズ形式で進めながら、国語常識、慣用句、漢字などの国語力をつける。
5	会話表現(2)	慣用句、四字熟語、ことわざなど、昔ながらの日本語表現を取り上げながら、その語源や生まれてきた文化的背景などを探る。社会人の常識として覚えておきたいものを集め、就職試験対策も意識する。
6	呼吸と発声・発音	声を出す仕組みや姿勢との関係、母音・子音を中心とした日本語の発音のメカニズムに触れ、正しい発声・発音を実習で学ぶ。また日本語の話し方に関する現況と対策についても考える。
7	朗読と表現(1)	暗誦・口承文化の意義と朗読の魅力、朗読の種類と社会的意義などについて解説する。朗読表現の注意点と朗読の仕方を学び、テープで「良い朗読」と「悪い朗読」を聞き分ける。
8	朗読と表現(2)	声優による文学作品の朗読をCDで鑑賞し、その感想を話し合う。新聞記事、随筆、文学作品など課題として出したものの中から自分の好きなものを選び、実際に朗読にチャレンジして「声を出すことの楽しさ」を味わう。
9	敬語表現(1)	敬語は社会人にとって不可欠のマナー。文化庁・文化審議会による新しい敬語の分類と表現の原則を解説するとともに、ビジネスの場における敬語の使い方をVTRをまじえて学ぶ。
10	敬語表現(2)	日常よく使われる敬語、間違いやすい敬語に関する筆記試験を行い、その場で解答・解説をして身近な敬語の基本を身につける。新しい敬語の考え方や基本を整理。
11	日本語文法と表現(1)	「文法」というと無味乾燥な知識の暗記というイメージが強い。しかし我々の周りの日本語を「言葉のルール」に注目して見直すことによって、言葉のおもしろさと難しさ、日本語の奥深さを感じることができる。格助詞の使い方を学ぶ。
12	日本語文法と表現(2)	日本語の「主語」の扱いと「述語」との対応。時を表す表現。他人との対応の中での表現(依頼、命令、勧誘、推量、断定、疑問)などを学ぶ。
13	文章表現(1)	豊かな文章を書くためには何が必要か。情報収集、取材のあり方を考える。実際に書くときの注意点、文章表現の基本を学ぶ。400字詰め原稿用紙の使い方、手紙の書き方の原則を解説。
14	文章表現(2)	文章の構造、段落内の構造としての「中心文」と「支持文」の見つけ方と役割を学ぶ。またそれらの実践として新聞のコラム欄を取り上げ、内容の要約をするとともにタイトルをつけてみる。
15	総合まとめ	授業全体の感想と質疑応答。レポートの作成。

科目名	言葉と表現	対象 単位数 必修	短期大学部 文化学科 1年 2単位 選択/短期大学部 家政科福祉情報専攻 1年 2単位 選択/短期大学部 家政科食物栄養専攻 1年 2単位 選択/短期大学部 幼児教育学科 1年 2単位 選択/短期大学部 生活芸術科 1年 2単位 選択/短期大学部 音楽科 1年 2単位 選択
担当教員	渡部 東一郎		
開講期	I		
授業概要	社会の情報化、国際化、高齢化が進むとともに、日本語の衰退が危惧されている。事実、若い世代を中心に、国語表現力や文章表現力の低下が目立ち、ひいてはコミュニケーションにおける語彙の少なさ、言葉の乱れなどが心配されている。本授業では正しい発音・発声の方法から、言葉の正しい意味と使い方、朗読や敬語表現、文章表現などを通して、日本語表現や言葉の感受性をより豊かにすることを目的とする。また、社会人としてのコミュニケーションルールを身につけ、自らの人格を養い、他人との協調性を習得する。		
達成目標	社会の情報化、国際化、高齢化が進むとともに、日本語の衰退が危惧されている。事実、若い世代を中心に、国語表現力や文章表現力の低下が目立ち、ひいてはコミュニケーションにおける語彙の少なさ、言葉の乱れなどが心配されている。本授業では正しい発音・発声の方法から、言葉の正しい意味と使い方、朗読や敬語表現、文章表現などを通して、日本語表現や言葉の感受性をより豊かにすることを目的とする。また、社会人としてのコミュニケーションルールを身につけ、自らの人格を養い、他人との協調性を習得する。		
受講資格	特になし	成績評価 方法	筆記試験50点、レポート50点、欠席は1回につき4点減点。60点以上で合格とするが、授業理解度は8割以上を求める。
教科書	担当教員作成のプリント		
参考書	その都度紹介		
学生への要望	発声、文学作品朗読、自己表現など実践練習も取り入れるので、積極的に声を出して自分を表現すること。意識して目上の人と話をし敬語に慣れる。新聞のコラム欄に目を通す習慣を養い、書き言葉を意識する。		
オフィスタイム	授業終了後30分		

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	正しい日本語話していますか	オリエンテーション。授業の進め方の説明と言葉遣いに関するVTR視聴。その後自分の普段の言葉遣いを振り返って感想を話し合う。
2	日本語の表現と文化	日本語の特徴と文化的背景などを説明し、日常使われている「あいさつことば」についてQ&A方式でその意味などを話し合いながら考える。
3	日本語の語彙	日本語の語彙の特徴、語彙の体系、語の意味、文の中での語の使われ方などをQ&A方式で学ぶ。言葉と意味、類義語・反意語の使い分け、外国語との対照についてもチェックする。
4	会話表現(1)	日常会話の中で比較的良好に使われる国語表現・日本語表現について、その言葉の正しい意味の理解と使い方を学ぶ。クイズ形式で進めながら、国語常識、慣用句、漢字などの国語力をつける。
5	会話表現(2)	慣用句、四字熟語、ことわざなど、昔ながらの日本語表現を取り上げながら、その語源や生まれてきた文化的背景などを探る。社会人の常識として覚えておきたいものを集め、就職試験対策も意識する。
6	呼吸と発声・発音	声を出す仕組みや姿勢との関係、母音・子音を中心とした日本語の発音のメカニズムに触れ、正しい発声・発音を実習で学ぶ。また日本語の話し方に関する現況と対策についても考える。
7	朗読と表現(1)	暗誦・口承文化の意義と朗読の魅力、朗読の種類と社会的意義などについて解説する。朗読表現の注意点と朗読の仕方を学び、テープで「良い朗読」と「悪い朗読」を聞き分ける。
8	朗読と表現(2)	声優による文学作品の朗読をCDで鑑賞し、その感想を話し合う。新聞記事、随筆、文学作品など課題として出したものの中から自分の好きなものを選び、実際に朗読にチャレンジして「声を出すことの楽しさ」を味わう。
9	敬語表現(1)	敬語は社会人にとって不可欠のマナー。文化庁・文化審議会による新しい敬語の分類と表現の原則を解説するとともに、ビジネスの場における敬語の使い方をVTRをまじえて学ぶ。
10	敬語表現(2)	日常よく使われる敬語、間違いやすい敬語に関する筆記試験を行い、その場で解答・解説をして身近な敬語の基本を身につける。新しい敬語の考え方や基本を整理。
11	日本語文法と表現(1)	「文法」というと無味乾燥な知識の暗記というイメージが強い。しかし我々の周りの日本語を「言葉のルール」に注目して見直すことによって、言葉のおもしろさと難しさ、日本語の奥深さを感じることができる。格助詞の使い方を学ぶ。
12	日本語文法と表現(2)	日本語の「主語」の扱いと「述語」との対応。時を表す表現。他人との対応の中での表現(依頼、命令、勧誘、推量、断定、疑問)などを学ぶ。
13	文章表現(1)	豊かな文章を書くためには何が必要か。情報収集、取材のあり方を考える。実際に書くときの注意点、文章表現の基本を学ぶ。400字詰め原稿用紙の使い方、手紙の書き方の原則を解説。
14	文章表現(2)	文章の構造、段落内の構造としての「中心文」と「支持文」の見つけ方と役割を学ぶ。またそれらの実践として新聞のコラム欄を取り上げ、内容の要約をするとともにタイトルをつけてみる。
15	総合まとめ	授業全体の感想と質疑応答。レポートの作成。

平成29年度

科目名	総合英語コミュニケーション		対象 単位数 必選	短期大学部 文化学科 1年 2単位 選択/短期大学部 家政科福祉情報専攻 1年 2単位 選択/短期大学部 幼児教育学科 1年 2単位 選択/短期大学部 家政科食物栄養専攻 1年 2単位 選択/短期大学部 生活芸術科 1年 2単位 選択/短期大学部 音楽科 1年 2単位 選択
担当教員	ポール パーナミィ			
開講期	I			
授業概要	<p>PREREQUISITES FOR THIS CLASS: Students will have completed high school English. Students should be able to understand and use language concerning familiar, everyday topics, such as likes and dislikes. They also should be able to give basic personal and family information.</p> <p>EVALUATIONS FOR THIS CLASS: ① You should be able to give a short clear self-introduction. ② You should be able to read smoothly and understand a short passage. ③ You should be able to do basic grammar in the context of spoken and written form.</p>			
達成目標	<p>GOALS OF THIS CLASS: 1. The main focus will be to enhance key listening and language proficiency. 2. Additionally, required quizzes and homework will incorporate listening tasks to evaluate overall comprehension. There will be a cumulative final exam.</p>			
受講資格	短大1年	成績評価 方法	<p>1. Participation, Attitude (10%) 2. Quizzes, Homework (40%) 3. Final Cumulative Test (50%)</p>	
教科書	Impact Conversation 1 by Kristen Sullivan & Todd Beuckens			
参考書	Pearson Longman Asia ELT 2013			
学生への要望	<p>Don't miss class. Be attentive. Do regular listening of your audio files. Review all material including textbook and quiz material.</p>			
オフィスタイム	Room 837: Tuesday or Thursday, 13:00~17:00			
自学自習	<p>Do self-study and review at home. Self-study and review should be equivalent to approximately twice the classroom hours (e.g. 1 classroom hour = more than 2 self-study hours). Do regular listening of all audio files.</p>			

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	Introduction	Unit 1---Guess Where I' m From---Pages 9-12, 81 CD 1-8 Explain Textbook, Tests, Quiz, Homework, Attendance, etc.
2	Unit 1	Unit 1---Let' s Talk About It: Who are you? Pages 9-12, 81 CD 2-8
3	Unit 2	Unit 2---Comfy Seats Pages 13-16, 82 CD 9-15 Quiz
4	Unit 2	Unit 2---Entertainment: Watching movies Pages 13-16, 82 CD 9-15 Quiz
5	Unit 3	Unit 3---A Trip To The Art Gallery Pages 17-20, 83 CD 16-22 Quiz
6	Unit 3	Unit 3---Hobbies: Which one do you like? Pages 17-20, 83 CD 16-22 Quiz
7	Unit 4	Unit 4---My Quirky Family Pages 21-24, 84 CD 23-29 Quiz
8	Unit 4	Unit 4---Families: What' s your family like? Pages 21-24, 84 CD 23-29 Quiz
9	Unit 5	Unit 5---Scaredy Cat Pages 25-28, 85 CD 30-36 Quiz
10	Unit 5	Unit 5---Personality: Are you scared? Pages 25-28, 85 CD 30-36 Quiz
11	Unit 6	Unit 6---The Commute Pages 29-32, 86 CD 37-44 Quiz
12	Unit 6	Unit 6---Work: Getting to work. Pages 29-32, 86 CD 37-44 Quiz
13	Unit 7	Unit 7---A Close Shave: Experiences Pages 33-36, 87 CD 45-49
14	Unit 8	Unit 8---Excuses, Excuses: Health Pages 37-40, 88 CD 50-56

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
15	Test Review	Textbook Summary, CD Review, Quiz Review, Test Preparation & Review

平成29年度

科目名	総合英語コミュニケーション		対象 単位数 必選	短期大学部 文化学科 1年 2単位 選択/短期大学部 家政科福祉情報専攻 1年 2単位 選択/短期大学部 家政科食物栄養専攻 1年 2単位 選択/短期大学部 幼児教育学科 1年 2単位 選択/短期大学部 生活芸術科 1年 2単位 選択/短期大学部 音楽科 1年 2単位 選択
担当教員	ポール パーナミィ			
開講期	Ⅱ			
授業概要	<p>PREREQUISITES FOR THIS CLASS: Students will have completed high school English. Students should be able to understand and use language concerning familiar, everyday topics, such as likes and dislikes. They also should be able to give basic personal and family information.</p> <p>EVALUATIONS FOR THIS CLASS: ① You should be able to give a short clear self-introduction. ② You should be able to read smoothly and understand a short passage. ③ You should be able to do basic grammar in the context of spoken and written form.</p>			
達成目標	<p>GOALS OF THIS CLASS: 1. The main focus will be to enhance key listening and language proficiency. 2. Additionally, required quizzes and homework will incorporate listening tasks to evaluate overall comprehension. There will be a cumulative final exam.</p>			
受講資格	短大1年	成績評価 方法	1. Participation, Attitude (20%) 2. Quizzes, Homework (30%) 3. Final Cumulative Test (50%)	
教科書	Tune In 1 by Jack C. Richards & Kerry O'Sullivan			
参考書	Oxford University Press 2006			
学生への要望	Don't miss class. Be attentive. Do regular listening of your audio files. Review all material including textbook and quiz material.			
オフィスタイム	Room 837: Tuesday or Thursday, 13:00~17:00			
自学自習	Do self-study and review at home. Self-study and review should be equivalent to approximately twice the classroom hours (e.g. 1 classroom hour = more than 2 self-study hours). Do regular listening of all audio files.			

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	Introduction	Unit 1---Meeting People---Nice to meet you. Pages 2-4 CD 1-6 Explain Textbook, Tests, Quiz, Homework, Attendance, etc.
2	Unit 1	Unit 1---Meeting People---See you later. Pages 5-7 CD 7-10. English Picture Book Introduction
3	Unit 1	Unit 1---Meeting People---Review Pages 2-7 CD 1-10. Quiz. English Picture Book
4	Unit 2	Unit 2---Communicating---What's your e-mail address? Pages 8-10 CD 11-15. Quiz. English Picture Book
5	Unit 2	Unit 2---Communicating---May I speak to Tony, please? Pages 11-13 CD 16-19. Quiz. English Picture Book
6	Unit 2	Unit 2---Communicating---Review Pages 8-13 CD 11-19. Quiz. English Picture Book
7	Unit 3	Unit 3---Telling Time---What time do you get up? Pages 14-16 CD 20-23. Quiz. English Picture Book
8	Unit 3	Unit 3---Telling Time---Are you free on Friday night? Pages 17-19 CD 24-27. Quiz. English Picture Book
9	Unit 3	Unit 3---Telling Time---Review Pages 14-19 CD 20-27. Quiz. English Picture Book
10	Unit 4	Unit 4---Shopping---How much does it cost? Pages 20-22 CD 28-31. Quiz. English Picture Book
11	Unit 4	Unit 4---Shopping---It's just what I need! Pages 23-25 CD 32-35. Quiz. English Picture Book
12	Unit 4	Unit 4---Shopping---Review Pages 20-25 CD 28-35. Quiz. English Picture Book
13	Unit 5	Unit 5---Dates & Events---When's your birthday? Pages 26-28 CD 36-39. English Picture Book Presentation

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
14	Unit 5	Unit 5---Dates & Events---So when was that? Pages 29-31 CD 40-43. English Picture Book Presentation
15	Test Review	Textbook Summary, CD Review, Quiz Review, Test Preparation & Review.

平成29年度

科目名	総合英語コミュニケーション		対象 単位数 必選	短期大学部 文化学科 1年 2単位 選択/短期大学部 家政科福祉情報専攻 1年 2単位 選択/短期大学部 家政科食物栄養専攻 1年 2単位 選択/短期大学部 幼児教育学科 1年 2単位 選択/短期大学部 生活芸術科 1年 2単位 選択/短期大学部 音楽科 1年 2単位 選択
担当教員	ポール パーナミィ			
開講期	I			
授業概要	<p>PREREQUISITES FOR THIS CLASS: Students will have completed high school English. Students should be able to understand and use language concerning familiar, everyday topics, such as likes and dislikes. They also should be able to give basic personal and family information.</p> <p>EVALUATIONS FOR THIS CLASS: ① You should be able to give a short clear self-introduction. ② You should be able to read smoothly and understand a short passage. ③ You should be able to do basic grammar in the context of spoken and written form.</p>			
達成目標	<p>GOALS OF THIS CLASS: 1. The main focus will be to enhance key listening and language proficiency. 2. Additionally, required quizzes and homework will incorporate listening tasks to evaluate overall comprehension. There will be a cumulative final exam.</p>			
受講資格	短大1年	成績評価 方法	<p>1. Participation, Attitude (20%) 2. Quizzes, Homework (30%) 3. Final Cumulative Test (50%)</p>	
教科書	Tune In 1 by Jack C. Richards & Kerry O'Sullivan			
参考書	Oxford University Press 2006			
学生への要望	<p>Don't miss class. Be attentive. Do regular listening of your audio files. Review all material including textbook and quiz material.</p>			
オフィスタイム	Room 837: Tuesday or Thursday, 13:00~17:00			
自学自習	<p>Do self-study and review at home. Self-study and review should be equivalent to approximately twice the classroom hours (e.g. 1 classroom hour = more than 2 self-study hours). Do regular listening of all audio files.</p>			

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	Introduction	Unit 1---Meeting People---Nice to meet you. Pages 2-4 CD 1-6 Explain Textbook, Tests, Quiz, Homework, Attendance, etc.
2	Unit 1	Unit 1---Meeting People---See you later. Pages 5-7 CD 7-10. English Picture Book Introduction
3	Unit 1	Unit 1---Meeting People---Review Pages 2-7 CD 1-10. Quiz. English Picture Book
4	Unit 2	Unit 2---Communicating---What's your e-mail address? Pages 8-10 CD 11-15. Quiz. English Picture Book
5	Unit 2	Unit 2---Communicating---May I speak to Tony, please? Pages 11-13 CD 16-19. Quiz. English Picture Book
6	Unit 2	Unit 2---Communicating---Review Pages 8-13 CD 11-19. Quiz. English Picture Book
7	Unit 3	Unit 3---Telling Time---What time do you get up? Pages 14-16 CD 20-23. Quiz. English Picture Book
8	Unit 3	Unit 3---Telling Time---Are you free on Friday night? Pages 17-19 CD 24-27. Quiz. English Picture Book
9	Unit 3	Unit 3---Telling Time---Review Pages 14-19 CD 20-27. Quiz. English Picture Book
10	Unit 4	Unit 4---Shopping---How much does it cost? Pages 20-22 CD 28-31. Quiz. English Picture Book
11	Unit 4	Unit 4---Shopping---It's just what I need! Pages 23-25 CD 32-35. Quiz. English Picture Book
12	Unit 4	Unit 4---Shopping---Review Pages 20-25 CD 28-35. Quiz. English Picture Book
13	Unit 5	Unit 5---Dates & Events---When's your birthday? Pages 26-28 CD 36-39. English Picture Book
14	Unit 5	Unit 5---Dates & Events---So when was that? Pages 29-31 CD 40-43. English Picture Book

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
15	Test Review	Textbook Summary, CD Review, Quiz Review, Test Preparation & Review.

科目名	総合英語コミュニケーション		対象 単位数 必選	短期大学部 文化学科 1年 2単位 選択/短期大学部 家政科福祉情報専攻 1年 2単位 選択/短期大学部 家政科食物栄養専攻 1年 2単位 選択/短期大学部 幼児教育学科 1年 2単位 選択/短期大学部 生活芸術科 1年 2単位 選択/短期大学部 音楽科 1年 2単位 選択
担当教員	ポール パーナミィ			
開講期	I			
授業概要	<p>PREREQUISITES FOR THIS CLASS: Students will have completed high school English. Students should be able to understand and use language concerning familiar, everyday topics, such as likes and dislikes. They also should be able to give basic personal and family information.</p> <p>EVALUATIONS FOR THIS CLASS: ① You should be able to give a short clear self-introduction. ② You should be able to read smoothly and understand a short passage. ③ You should be able to do basic grammar in the context of spoken and written form.</p>			
達成目標	<p>GOALS OF THIS CLASS: 1. The main focus will be to enhance key listening and language proficiency. 2. Additionally, required quizzes and homework will incorporate listening tasks to evaluate overall comprehension. There will be a cumulative final exam.</p>			
受講資格	短大1年	成績評価 方法	<p>1. Participation, Attitude (20%) 2. Quizzes, Homework (30%) 3. Final Cumulative Test (50%)</p>	
教科書	Tune In 1 by Jack C. Richards & Kerry O'Sullivan			
参考書	Oxford University Press 2006			
学生への要望	<p>Don't miss class. Be attentive. Do regular listening of your audio files. Review all material including textbook and quiz material.</p>			
オフィスタイム	Room 837: Tuesday or Thursday, 13:00~17:00			
自学自習	<p>Do self-study and review at home. Self-study and review should be equivalent to approximately twice the classroom hours (e.g. 1 classroom hour = more than 2 self-study hours). Do regular listening of all audio files.</p>			

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	Introduction	Unit 1---Meeting People---Nice to meet you. Pages 2-4 CD 1-6 Explain Textbook, Tests, Quiz, Homework, Attendance, etc.
2	Unit 1	Unit 1---Meeting People---See you later. Pages 5-7 CD 7-10. English Picture Book Introduction
3	Unit 1	Unit 1---Meeting People---Review Pages 2-7 CD 1-10. Quiz. English Picture Book
4	Unit 2	Unit 2---Communicating---What's your e-mail address? Pages 8-10 CD 11-15. Quiz. English Picture Book
5	Unit 2	Unit 2---Communicating---May I speak to Tony, please? Pages 11-13 CD 16-19. Quiz. English Picture Book
6	Unit 2	Unit 2---Communicating---Review Pages 8-13 CD 11-19. Quiz. English Picture Book
7	Unit 3	Unit 3---Telling Time---What time do you get up? Pages 14-16 CD 20-23. Quiz. English Picture Book
8	Unit 3	Unit 3---Telling Time---Are you free on Friday night? Pages 17-19 CD 24-27. Quiz. English Picture Book
9	Unit 3	Unit 3---Telling Time---Review Pages 14-19 CD 20-27. Quiz. English Picture Book
10	Unit 4	Unit 4---Shopping---How much does it cost? Pages 20-22 CD 28-31. Quiz. English Picture Book
11	Unit 4	Unit 4---Shopping---It's just what I need! Pages 23-25 CD 32-35. Quiz. English Picture Book
12	Unit 4	Unit 4---Shopping---Review Pages 20-25 CD 28-35. Quiz. English Picture Book
13	Unit 5	Unit 5---Dates & Events---When's your birthday? Pages 26-28 CD 36-39. English Picture Book
14	Unit 5	Unit 5---Dates & Events---So when was that? Pages 29-31 CD 40-43. English Picture Book

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
15	Test Review	Textbook Summary, CD Review, Quiz Review, Test Preparation & Review.

平成29年度

科目名	総合英語コミュニケーション		対象 単位数 必選	短期大学部 文化学科 1年 2単位 選択/短期大学部 家政科福祉情報専攻 1年 2単位 選択/短期大学部 幼児教育学科 1年 2単位 選択/短期大学部 家政科食物栄養専攻 1年 2単位 選択/短期大学部 生活芸術科 1年 2単位 選択/短期大学部 音楽科 1年 2単位 選択
担当教員	ポール パーナミィ			
開講期	I			
授業概要	<p>PREREQUISITES FOR THIS CLASS: Students will have completed high school English. Students should be able to understand and use language concerning familiar, everyday topics, such as likes and dislikes. They also should be able to give basic personal and family information.</p> <p>EVALUATIONS FOR THIS CLASS: ① You should be able to give a short clear self-introduction. ② You should be able to read smoothly and understand a short passage. ③ You should be able to do basic grammar in the context of spoken and written form.</p>			
達成目標	<p>GOALS OF THIS CLASS: 1. The main focus will be to enhance key listening and language proficiency. 2. Additionally, required quizzes and homework will incorporate listening tasks to evaluate overall comprehension. There will be a cumulative final exam.</p>			
受講資格	短大1年	成績評価 方法	1. Participation, Attitude (20%) 2. Quizzes, Homework (30%) 3. Final Cumulative Test (50%)	
教科書	Tune In 1 by Jack C. Richards & Kerry O'Sullivan			
参考書	Oxford University Press 2006			
学生への要望	Don't miss class. Be attentive. Do regular listening of your audio files. Review all material including textbook and quiz material.			
オフィスタイム	Room 837: Tuesday or Thursday, 13:00~17:00			
自学自習	Do self-study and review at home. Self-study and review should be equivalent to approximately twice the classroom hours (e.g. 1 classroom hour = more than 2 self-study hours). Do regular listening of all audio files.			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	Introduction	Unit 1---Meeting People---Nice to meet you. Pages 2-4 CD 1-6 Explain Textbook, Tests, Quiz, Homework, Attendance, etc.
2	Unit 1	Unit 1---Meeting People---See you later. Pages 5-7 CD 7-10. English Picture Book Introduction
3	Unit 1	Unit 1---Meeting People---Review Pages 2-7 CD 1-10. Quiz. English Picture Book
4	Unit 2	Unit 2---Communicating---What's your e-mail address? Pages 8-10 CD 11-15. Quiz. English Picture Book
5	Unit 2	Unit 2---Communicating---May I speak to Tony, please? Pages 11-13 CD 16-19. Quiz. English Picture Book
6	Unit 2	Unit 2---Communicating---Review Pages 8-13 CD 11-19. Quiz. English Picture Book
7	Unit 3	Unit 3---Telling Time---What time do you get up? Pages 14-16 CD 20-23. Quiz. English Picture Book
8	Unit 3	Unit 3---Telling Time---Are you free on Friday night? Pages 17-19 CD 24-27. Quiz. English Picture Book
9	Unit 3	Unit 3---Telling Time---Review Pages 14-19 CD 20-27. Quiz. English Picture Book
10	Unit 4	Unit 4---Shopping---How much does it cost? Pages 20-22 CD 28-31. Quiz. English Picture Book
11	Unit 4	Unit 4---Shopping---It's just what I need! Pages 23-25 CD 32-35. Quiz. English Picture Book
12	Unit 4	Unit 4---Shopping Review Pages 20-25 CD 28-35. Quiz. English Picture Book
13	Unit 5	Unit 5---Dates & Events---When's your birthday? Pages 26-28 CD 36-39. English Picture Book
14	Unit 5	Unit 5---Dates & Events---So when was that? Pages 29-31 CD 40-43. English Picture Book

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
15	Test Review	Textbook Summary, CD Review, Quiz Review, Test Preparation & Review.

科目名	総合英語コミュニケーション		対象 単位数 必選	短期大学部 文化学科 1年 2単位 選択/短期大学部 家政科福祉情報専攻 1年 2単位 選択/短期大学部 幼児教育学科 1年 2単位 選択/短期大学部 家政科食物栄養専攻 1年 2単位 選択/短期大学部 生活芸術科 1年 2単位 選択/短期大学部 音楽科 1年 2単位 選択
担当教員	ポール パーナミィ			
開講期	I			
授業概要	<p>PREREQUISITES FOR THIS CLASS: Students will have completed high school English. Students should be able to understand and use language concerning familiar, everyday topics, such as likes and dislikes. They also should be able to give basic personal and family information.</p> <p>EVALUATIONS FOR THIS CLASS: ① You should be able to give a short clear self-introduction. ② You should be able to read smoothly and understand a short passage. ③ You should be able to do basic grammar in the context of spoken and written form.</p>			
達成目標	<p>GOALS OF THIS CLASS: 1. The main focus will be to enhance key listening and language proficiency. 2. Additionally, required quizzes and homework will incorporate listening tasks to evaluate overall comprehension. There will be a cumulative final exam.</p>			
受講資格	短大1年	成績評価方法	<p>1. Participation, Attitude (20%) 2. Quizzes, Homework (30%) 3. Final Cumulative Test (50%)</p>	
教科書	Tune In 1 by Jack C. Richards & Kerry O'Sullivan			
参考書	Oxford University Press 2006			
学生への要望	<p>Don't miss class. Be attentive. Do regular listening of your audio files. Review all material including textbook and quiz material.</p>			
オフィスタイム	Room 837: Tuesday or Thursday, 13:00~17:00			
自学自習	<p>Do self-study and review at home. Self-study and review should be equivalent to approximately twice the classroom hours (e.g. 1 classroom hour = more than 2 self-study hours). Do regular listening of all audio files.</p>			

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	Introduction	Unit 1---Meeting People---Nice to meet you. Pages 2-4 CD 1-6 Explain Textbook, Tests, Quiz, Homework, Attendance, etc.
2	Unit 1	Unit 1---Meeting People---See you later. Pages 5-7 CD 7-10. English Picture Book Introduction
3	Unit 1	Unit 1---Meeting People---Review Pages 2-7 CD 1-10. Quiz. English Picture Book
4	Unit 2	Unit 2---Communicating---What's your e-mail address? Pages 8-10 CD 11-15. Quiz. English Picture Book
5	Unit 2	Unit 2---Communicating---May I speak to Tony, please? Pages 11-13 CD 16-19. Quiz. English Picture Book
6	Unit 2	Unit 2---Communicating---Review Pages 8-13 CD 11-19. Quiz. English Picture Book
7	Unit 3	Unit 3---Telling Time---What time do you get up? Pages 14-16 CD 20-23. Quiz. English Picture Book
8	Unit 3	Unit 3---Telling Time---Are you free on Friday night? Pages 17-19 CD 24-27. Quiz. English Picture Book
9	Unit 3	Unit 3---Telling Time---Review Pages 14-19 CD 20-27. Quiz. English Picture Book
10	Unit 4	Unit 4---Shopping---How much does it cost? Pages 20-22 CD 28-31. Quiz. English Picture Book
11	Unit 4	Unit 4---Shopping---It's just what I need! Pages 23-25 CD 32-35. Quiz. English Picture Book
12	Unit 4	Unit 4---Shopping---Review Pages 20-25 CD 28-35. Quiz. English Picture Book
13	Unit 5	Unit 5---Dates & Events---When's your birthday? Pages 26-28 CD 36-39. English Picture Book
14	Unit 5	Unit 5---Dates & Events---So when was that? Pages 29-31 CD 40-43. English Picture Book

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
15	Test Review	Textbook Summary, CD Review, Quiz Review, Test Preparation & Review.

科目名	英語表現法	対象 単位数 必選	短期大学部 文化学科 1年 2単位 選択/短期大学部 家政科福祉情報専攻 1年 2単位 選択/短期大学部 家政科食物栄養専攻 1年 2単位 選択/短期大学部 幼児教育学科 1年 2単位 選択/短期大学部 生活芸術科 1年 2単位 選択/短期大学部 音楽科 1年 2単位 選択
担当教員	ダニエル ホーナー		
開講期	Ⅱ		
授業概要	A. Preparation for language learning. B. Learn methods and motivational techniques to become fluent in English. C. Apply methods for learning English to practical areas in students' lives.		
達成目標	1. The main objective is to improve all 4 English skills (reading, writing, listening and speaking) with a focus on speaking. 2. Students will learn methods of how to properly learn a language. 3. Another goal is to be able to express personal and cultural information.		
受講資格	短大1年	成績評価 方法	1. Participation, Attitude (10%) 2. Quizzes, Homework (40%) 3. Final Written Test (50%)
教科書	(none)		
参考書	Prints made by instructor, Daniel O. Horner		
学生への要望	Participate in class by asking and answering many questions. Always do the online listening exercises and other homework. Frequently review the coursework and other materials outside of class.		
オフィスタイム	Monday 1st Period (8:50 - 10:20), and by Appointment, Research Room		
自学自習	Study and review at home. Self-study and review should be equivalent to approximately twice the classroom hours (e.g. 1 classroom hour = more than 2 self-study hours).		

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	Stage 1 - Introduction	I will introduce the class to the students and give them guidance including how to succeed in the course and how to use the Internet and other references that are available to improve their English.
2	Stage 2 - Explore Language Learning	Stage 2 - Preparation for Learning Language. Determine what type of language learners the students are by having them complete a relatively simple social activity where they get to know their classmates. They also will write a self-introduction with a minimum of 10 sentences that adequately reveal pertinent information about themselves.
3	Stage 3 - Motivation and Organization	Stage 3 - Organizing and Motivation. Through questionnaires, I will determine, (1) how students organize their learning and (2) how motivated they are to learn. This activity will be concluded by students writing a summary of their results of these two areas of (personal) learning.
4	Stage 4 - Skills Training	Stage 4 - Skills Training. Ascertain how the students feel about learning vocabulary. I will also determine through standardized methods (quizzes) how proficient students are with vocabulary and suggest proven methods of improving their vocabularies. Quiz No. 1.
5	Stage 5 - Communication and Grammar	Stage 5 - Grammar Pertaining to Communication. Find out how the students feel about learning grammar. Also determine what their grammar level is, their level of confidence with grammar, and methods to improve their grammar. Students will summarize in writing the results of today's discoveries.
6	Stage 6 - Listening Methods part 1	Stage 6 - Listening. Find out how students feel about listening and what methods they know about listening to English. Ascertain what level they are at and what can be done to improve upon what is already known.

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
7	Stage 7 - Listening Part 2	Stage 7 - Listening Part 2. Give students advice and examples of, (1) how to build up their listening confidence, (2) how to organize their listening practices, and (3) how to listen for main points when that is all that is required during listening.
8	Stage 8 - Expressions and Speaking	Stage 8 - Expressions and Speaking. Find out how the students feel about speaking English. Also find out what they know about the process of learning English expressions to be able to speak English. Quiz No. 2.
9	Stage 9 - Determining Speaking Levels	Stage 9 - Give students a practice standardized test to determine their speaking level. Scores on this will then be used to determine what the next step should be to dramatically improve their speaking ability
10	Stage 10 - More English Expressions	Stage 10 - More English Expressions. In this study on the methods of expression, based on the results of the previous practice test, students will learn how to keep a conversation entirely in English while talking with others. A video clip from the Internet on "Small Talk" will be viewed and practiced.
11	Stage 11 -Casual Conversation About Music	Stage 11 - Casual Conversation and Popular Music. Students will continue to expand their use of English expressions by learning how to properly start conversations and continue them by, for example, talking about such subjects as musical preferences. A video clip pertaining to this will be viewed.
12	Stage 12 - Personal Spending Habits	Stage 12 - This part of the expressions focus on "Personal Spending Habits." Through the Internet video, students learn about and how to express ways they spend and handle money. Quiz No. 3.
13	Stage 13 - Leisure Activities	Stage 13 - Leisure Activities. This part of the course allows students to view a video and practice expressions pertaining to "Leisure Activities" and "Shopping for Fashionable Clothes." Students also learn expressions that are useful when accepting and refusing invitations.
14	Stage 14 - Discussing Good Memories	Stage 14 - Good Memories. Students view the Internet video clip and then use that as a basis to talk about special memories and events. Following this, we will begin a comprehensive review of the entire course.
15	Final Stage (15) - Review for Final Exam	Final Stage - We will conduct a comprehensive review of the course and and its "Stages A-M." To consolidate and solidify the review, the students will view one final Internet conversation titled, "Effective Study Methods."

科目名	英語表現法	対象 単位数 必選	短期大学部 文化学科 1年 2単位 選択/短期大学部 家政科福祉情報専攻 1年 2単位 選択/短期大学部 家政科食物栄養専攻 1年 2単位 選択/短期大学部 幼児教育学科 1年 2単位 選択/短期大学部 生活芸術科 1年 2単位 選択/短期大学部 音楽科 1年 2単位 選択
担当教員	ダニエル ホーナー		
開講期	I		
授業概要	A. Preparation for language learning. B. Learn methods and motivational techniques to become fluent in English. C. Apply methods for learning English to practical areas in students' lives.		
達成目標	1. The main objective is to improve all 4 English skills (reading, writing, listening and speaking) with a focus on speaking. 2. Students will learn methods of how to properly learn a language. 3. Another goal is to be able to express personal and cultural information.		
受講資格	短大1年	成績評価 方法	1. Participation, Attitude (10%) 2. Quizzes, Homework (40%) 3. Final Written Test (50%)
教科書	(none)		
参考書	Prints made by instructor, Daniel O. Horner.		
学生への要望	Participate in class by asking and answering many questions. Always do the online listening exercises and other homework. Frequently review the the classroom materials on your own outside of class.		
オフィスタイム	Wednesday 2nd Period (10:30 - 12:00), and by Appointment, Research Room		
自学自習	Advisable to partake in self-study and review at home. Self-study and review should be equivalent to approximately twice the classroom hours (e.g. 1 classroom hour = more than 2 self-study hours).		

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	Guidance and Introduction	I will introduce the class to the students and give them guidance including how to succeed in the course and how to use the Internet and other references that are available to improve their English.
2	Stage A - Explore language Learning	Stage A: Preparation for Learning Language. Determine what type of language learners the students are by having them complete a relatively simple social activity where they get to know their classmates. They also will write a self-introduction with a minimum of 10 sentences that adequately reveal pertinent information about themselves.
3	Stage B - Organizing and Motivation.	Stage B: Organizing and Motivation. Through questionnaires, I will determine, (1) how students organize their learning and (2) how motivated they are to learn. This activity will be concluded by students writing a summary of their results of these two areas of (personal) learning.
4	Stage C - Skills Training	Stage C: Skills Training. Ascertain how the students feel about learning vocabulary. I will also determine through standardized methods (quizzes) how proficient students are with vocabulary and suggest proven methods of improving their vocabularies. Quiz No. 1.
5	Stage D - Grammar and Communication	Stage D: Grammar Pertaining to Communication. Find out how the students feel about learning grammar. Also determine what their grammar level is, their level of confidence with grammar, and methods to improve their grammar. Students will summarize in writing the results of today's discoveries.
6	Stage E - Listening Methods	Stage E: Listening. Find out how students feel about listening and what methods they know about listening to English. Ascertain what level they are at and what can be done to improve upon what is already known.

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
7	Stage F - Listening Part 2	Stage F: Listening Part 2. Give students advice and examples of, (1) how to build up their listening confidence, (2) how to organize their listening practices, and (3) how to listen for main points when that is all that is required during listening.
8	Stage G - Expressions and Speaking	Stage G: Expressions and Speaking. Find out how the students feel about speaking English. Also find out what they know about the process of learning English expressions to be able to speak English. Quiz No. 2.
9	Stage H - Speaking Levels	Stage H: Give students a practice standardized test to determine their speaking level. Scores on this will then be used to determine what the next step should be to dramatically improve their speaking ability.
10	Stage I - English Expression Methods	Stage I: English Expression Methods. In this study on the methods of expression, based on the results of the previous practice test, students will learn how to keep a conversation entirely in English while talking with others. A video clip from the Internet on "Small Talk" will be viewed and practiced.
11	Stage J - Casual Conversation and Music	Stage J: Casual Conversation and Popular Music. Students will continue to expand their use of English expressions by learning how to properly start conversations and continue them by, for example, talking about such subjects as musical preferences. A video clip pertaining to this will be viewed.
12	Stage K - Personal Spending Habits	Stage K: This part of the expressions focus on "Personal Spending Habits." Through the Internet video, students learn about and how to express ways they spend and handle money. Quiz No. 3.
13	Stage L - Leisure Activities	Stage L: Leisure Activities: This part of the course allows students to view a video and practice expressions pertaining to "Leisure Activities" and "Shopping for Fashionable Clothes." Students also learn expressions that are useful when accepting and refusing invitations.
14	Stage M - Discussing Good Memories	Stage M: Good Memories: Students view the Internet video clip and then use that as a basis to talk about special memories and events. Following this, we will begin a comprehensive review of the entire course.
15	Final Stage - Review for Final Examination	Final Stage: We will conduct a comprehensive review of the course and and its "Stages A-M." To consolidate and solidify the review, the students will view one final Internet conversation titled, "Effective Study Methods."

科目名	英語表現法	対象 単位数 必選	短期大学部 文化学科 1年 2単位 選択/短期大学部 家政科福祉情報専攻 1年 2単位 選択/短期大学部 幼児教育学科 1年 2単位 選択/短期大学部 家政科食物栄養専攻 1年 2単位 選択/短期大学部 生活芸術科 1年 2単位 選択/短期大学部 音楽科 1年 2単位 選択
担当教員	ダニエル ホーナー		
開講期	Ⅱ		
授業概要	A. Preparation for language learning. B. Learn methods and motivational techniques for learning English. C. Apply methods for learning English to practical areas in students' lives.		
達成目標	1. The main goal is to improve all 4 English skills (reading, writing, listening and speaking) with a focus on speaking. 2. Students will learn methods of how to properly learn a language. 3. Additional goal is to be able to express information pertaining to yourself, and cultural information about Japan and other countries.		
受講資格	短大1年	成績評価 方法	1. Participation, Attitude (10%) 2. Quizzes, Homework (40%) 3. Final Written Test (50%)
教科書	(none)		
参考書	Prints made by instructor, Daniel O. Horner.		
学生への要望	Participate in class by asking and answering many questions. Always do the online listening exercises and other homework. Frequently review the coursework and other materials outside of class.		
オフィスタイム	Monday 1st Period (8:50 - 10:20), and by Appointment, Research Room		
自学自習	Study and review at home. Self-study and review should be equivalent to approximately twice the classroom hours (e.g. 1 classroom hour = more than 2 self-study hours).		

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	Guidance and Introduction	I will introduce the class to the students and give them guidance including how to succeed in the course and how to use the Internet and other references that are available to improve their English.
2	Stage A - Explore Language Learning	Stage A: Preparation for Learning Language. Determine what type of language learners the students are by having them complete a relatively simple social activity where they get to know their classmates. They also will write a self-introduction with a minimum of 10 sentences that adequately reveal pertinent information about themselves.
3	Stage B - Motivation and Organizing	Stage B: Organizing and Motivation. Through questionnaires, I will determine, (1) how students organize their learning and (2) how motivated they are to learn. This activity will be concluded by students writing a summary of their results of these two areas of (personal) learning.
4	Stage C - Skills Training	Stage C: Skills Training. Ascertain how the students feel about learning vocabulary. I will also determine through standardized methods (quizzes) how proficient students are with vocabulary and suggest proven methods of improving their vocabularies. Quiz No. 1.
5	Stage D - Grammar and Communication	Stage D: Grammar Pertaining to Communication. Find out how the students feel about learning grammar. Also determine what their grammar level is, what their level of confidence with grammar is, and methods to improve their grammar. Students will summarize in writing the results of today's discoveries.
6	Stage E - Listening Methods Part 1	Stage E: Listening. Find out how students feel about listening and what methods they know about listening to English. Ascertain what level they are at and what can be done to improve upon what is already known.

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
7	Stage F - Listening Part 2	Stage F: Listening Part 2. Give students advice and examples of, (1) how to build up their listening confidence, (2) how to organize their listening practices, and (3) how to listen for main points when that is all that is required during listening.
8	Stage G - Expressions and Speaking	Stage G: Expressions and Speaking. Find out how the students feel about speaking English. Also find out what they know about the process of learning English expressions to be able to speak English. Quiz No. 2.
9	Stage H - Evaluating Speaking Levels	Stage H: Give students a practice standardized test to determine their speaking level. Scores on this will then be used to determine what the next step should be to dramatically improve their speaking ability.
10	Stage I - More English Expressions	Stage I: More English Expressions. In this study on the methods of expression, based on the results of the previous practice test, students will learn how to keep a conversation entirely in English while talking with others. A video clip from the Internet on "Small Talk" will be viewed and practiced.
11	Stage J - Conversations About Music	Stage J: Casual Conversation and Popular Music. Students will continue to expand their use of English expressions by learning how to properly start conversations and continue them by, for example, talking about such subjects as musical preferences. A video clip pertaining to this will be viewed.
12	Stage K - Personal Spending Habits	Stage K: This part of the English expressions focuses on "Personal Spending Habits." Through the Internet video, students learn about and how to express ways they spend and handle money. Quiz No. 3.
13	Stage L - Leisure Activities	Stage L: Leisure Activities. This part of the course allows students to view a video and practice expressions pertaining to "Leisure Activities" and "Shopping for Fashionable Clothes." Students also learn expressions that are useful when accepting and refusing invitations.
14	Stage M - Discussing Good Memories	Stage M: Good Memories. Students view the Internet video clip and then use that as a basis to talk about special memories and events. Following this, we will begin a comprehensive review of the entire course.
15	Final Stage - Review for Final Examination	Final Stage: We will conduct a comprehensive review of the course and and its "Stages A-M." To consolidate and solidify the review, the students will view one final Internet conversation titled, "Effective Study Methods."

平成29年度

科目名	英語表現法	対象 単位数 必選	短期大学部 文化学科 1年 2単位 選択/短期大学部 家政科福祉情報専攻 1年 2単位 選択/短期大学部 家政科食物栄養専攻 1年 2単位 選択/短期大学部 幼児教育学科 1年 2単位 選択/短期大学部 生活芸術科 1年 2単位 選択/短期大学部 音楽科 1年 2単位 選択
担当教員	安田 純子		
開講期	Ⅱ		
授業概要	英語は世界で広く使われ、国際コミュニケーションのためにもその必要度は増してきています。本講座では、日常生活における基礎的な英語の理解力を高め英語での表現力を総合的に習得することを目標とします。バランスのとれた英語力習得のために不可欠な文法・語法の着実な理解と英語を聞き話すための耳と口を鍛えます。		
達成目標	①平易な英語の文章（英検3級レベル程度）を読んでもおおよその意味を把握できる。 ②①レベルの英語を聞いておおよその意味を把握できる。 ③基本的な英文の構造や文法をある程度理解している。		
受講資格	幼児教育学科 1年（Aクラス・Bクラス）以上	成績評価方法	平常点（小テストを含む）40%、試験・レポート60%
教科書	Let's Read Aloud & Learn English [SEIBIDO]		
参考書	英和辞典はできるだけ新しく語彙数と用例の多いものをすすめます。		
学生への要望	Students are advised not to miss any class.		
オフィスタイム	Monday 1:00pm - 4:00pm and Tuesday/Friday 9:30am-12:00pm My Office (Sougakukan Room No.1)		
自学自習	予習：わからない単語を調べる。文法事項の確認。（1時間） 復習：音読と筆写（プリント）。（1時間）		

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	Class Introduction	・ Explanation (Contents, The meaning of learning of English, course purpose and exposed goals, evaluation details) ・ Contents (テキストの目次から)
2	Small Test①②	・ Small Test①②
3	Unit 1	・ Pleased to meet you.-出迎え 会話一人を紹介する表現 文法-be動詞 *WAME-UP (Vocabulary Preview, Grammar Point), LET'S LISTEN!, LET'S CHECK & READ ALOUD!, GRAMMAR, LRT'S READ, CHALLENGE YOURSELF!, LET'S READ ALOUD & WRITE!
4	Unit 2	・ DO you remember me? -ケイトとの出会い 会話一仕事を尋ねたり、説明したりする表現 文法-一般動詞の現在形
5	Unit 3	・ I spoke to Ms. Hayashi yesterday.-苦情対応 会話一謝罪をしたり、相手の意向を尋ねたりする表現 文法-一般動詞の過去形
6	Unit 4	・ Whendoes the meeting start?-会議の準備 会話一場所や時間を尋ねる表現 文法-疑問詞を使った疑問文
7	Unit 5	・ Can you meet me at the airport?-出張打ち合わせ 会話一依頼する際に使われる表現 文法-助動詞
8	Unit 6	・ Feel free to ask me anytime.-使用法説明 会話一使い方を説明する表現 文法一文の種類と命令文
9	Unit 7	・ I'm thinking about quitting my job.-仕事の悩み 会話一相談したり、励ましたりする表現 文法-進行形

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
10	Unit 8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ I'll give her your message. -電話対応</li> <li>会話-聞き返したり、確認したりなど、電話対応でよく使われる表現</li> <li>文法-未来形</li> </ul>
11	Unit 9	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ I haven't received the latest figures. -会議の準備</li> <li>会話-状況を確認したり、作業を指示したりする表現</li> <li>文法-現在完了形</li> </ul>
12	Unit 10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ The cafeteria is closed today. -オフィス案内</li> <li>会話-場所を聞いたり説明したりする表現、感情を表す表現</li> <li>文法-受動態</li> </ul>
13	Unit 11/ Exam Prep 1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ We expect higher sales in China. -会議</li> <li>会話-比較したり、詳細を尋ねたりする表現</li> <li>文法-比較</li> <li>・ Pre session for the Exam planned Week 15</li> <li>Review of each lesson (復習)</li> </ul>
14	Unit 12/ Exam Prep 2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ I'd like to check in. -チェックイン</li> <li>・ Pre session for the Exam planned Week 15</li> <li>Review of each lesson (復習)</li> </ul>
15	Pre-examination / Explanation	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Pre-examination</li> <li>・ Explanation</li> </ul>

平成29年度

科目名	英語表現法	対象 単位数 必選	短期大学部 文化学科 1年 2単位 選択/短期大学部 家政科福祉情報専攻 1年 2単位 選択/短期大学部 幼児教育学科 1年 2単位 選択/短期大学部 家政科食物栄養専攻 1年 2単位 選択/短期大学部 生活芸術科 1年 2単位 選択/短期大学部 音楽科 1年 2単位 選択
担当教員	安田 純子		
開講期	Ⅱ		
授業概要	英語は世界で広く使われ、国際コミュニケーションのためにもその必要度は増してきています。本講座では、日常生活における基礎的な英語の理解力を高め英語での表現力を総合的に習得することを目標とします。バランスのとれた英語力習得のために不可欠な文法・語法の着実な理解と英語を聞き話すための耳と口を鍛えます。		
達成目標	①平易な英語の文章（英検3級レベル程度）を読んでものおおよその意味を把握できる。 ②①レベルの英語を聞いてのおおよその意味を把握できる。 ③基本的な英文の構造や文法をある程度理解している。		
受講資格	幼児教育学科 1年（0クラス・Dクラス）以上	成績評価方法	平常点（小テストを含む）40%、試験・レポート60%
教科書	Let's Read Aloud & Learn English [SEIBIDO]		
参考書	英和辞典はできるだけ新しく語彙数と用例の多いものをすすめます。		
学生への要望	Students are advised not to miss any class.		
オフィスタイム	Monday 1:00pm - 4:00pm and Tuesday/Friday 9:30am-12:00pm My Office (Sougakukan Room No. 1)		
自学自習	予習：わからない単語を調べる。文法事項の確認。（1時間） 復習：音読と筆写（プリント）（1時間）		

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	Class Introduction	・ Explanation (Contents, The meaning of learning of English, course purpose and exposed goals, evaluation details) ・ Contents (テキストの目次から)
2	Small Test①②	・ Small Test①②
3	Unit 1	・ Pleas to meet you. -出迎え 会話一人を紹介する表現 文法-be動詞 *WAME-UP (Vocabulary Preview, Grammar Point), LET'S LISTEN!, LET'S CHECK & READ ALOUD!, GRAMMAR, LRT'S READ, CHALLENGE YOURSELF!, LET'S READ ALOUD & WRITE!
4	Unit 2	・ DO you remember me? -ケイトとの出会い 会話一仕事を尋ねたり、説明したりする表現 文法-一般動詞の現在形
5	Unit 3	・ I spoke to Ms. Hayashi yesterday. -苦情対応 会話一謝罪をしたり、相手の意向を尋ねたりする表現 文法-一般動詞の過去形
6	Unit 4	・ Whendoes the meeting start?-会議の準備 会話一場所や時間を尋ねる表現 文法-疑問詞を使った疑問文
7	Unit 5	・ Can you meet me at the airport?-出張打ち合わせ 会話一依頼する際に使われる表現 文法-助動詞
8	Unit 6	・ Feel free to ask me anytime. -使用法説明 会話一使い方を説明する表現 文法一文の種類と命令文
9	Unit 7	・ I'm thinking about quitting my job. -仕事の悩み 会話一相談したり、励ましたりする表現 文法-進行形

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
10	Unit 8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ I'll give her your message. -電話対応</li> <li>会話-聞き返したり、確認したりなど、電話対応でよく使われる表現</li> <li>文法-未来形</li> </ul>
11	Unit 9	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ I haven't received the latest figures. -会議の準備</li> <li>会話-状況を確認したり、作業を指示したりする表現</li> <li>文法-現在完了形</li> </ul>
12	Unit 10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ The cafeteria is closed today. -オフィス案内</li> <li>会話-場所を聞いたり説明したりする表現、感情を表す表現</li> <li>文法-受動態</li> </ul>
13	Unit 11/ Exam Prep 1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ We expect higher sales in China. -会議</li> <li>会話-比較したり、詳細を尋ねたりする表現</li> <li>文法-比較</li> <li>・ Pre session for the Exam planned Week 15</li> <li>Review of each lesson (復習)</li> </ul>
14	Unit 12/ Exam Prep 2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ I'd like to check in. -チェックイン</li> <li>・ Pre session for the Exam planned Week 15</li> <li>Review of each lesson (復習)</li> </ul>
15	Pre-examination / Explanation	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Pre-examination</li> <li>・ Explanation</li> </ul>

平成29年度

<b>科目名</b>	健康スポーツ論		<b>対象 単位数 必選</b>	短期大学部 文化学科 1年 1単位 選択/短期大学部 家政科福祉情報専攻 1年 1単位 選択/短期大学部 家政科食物栄養専攻 1年 1単位 選択/短期大学部 幼児教育学科 1年 1単位 選択/短期大学部 生活芸術科 1年 1単位 選択/短期大学部 音楽科 1年 1単位 選択
<b>担当教員</b>	佐藤 浩明			
<b>開講期</b>	Ⅱ			
<b>授業概要</b>	健康的な生活に欠かすことのできない運動の方法や効果、スポーツの意義、特性を理解し、生涯にわたって自ら健康について考え行動できる力を習得する。 ①運動と健康の関連を理解し、エクササイズの方法や身体についての基礎知識を学びます。 ②スポーツの意義を理解し、自分の健康や行動のありかたについて学びます。			
<b>達成目標</b>	健康的な生活に欠かすことのできない運動の方法や効果、自ら健康について考え行動できる力を習得する。スポーツ種目に必要な技術を習得すると共にコミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知り人間力を身に付ける			
<b>受講資格</b>	家政科 福祉情報専攻 1年生 生活芸術科 1年生 音楽科 1年生 文化学科 1年生 ※教職課程履修者は必修	<b>成績評価 方法</b>	レポート60点 平常点 40点（主席・取組姿勢・提出物）	
<b>教科書</b>	特になし（必要に応じて資料、課題を配布します）			
<b>参考書</b>	「健康・フィットネスと生涯スポーツ：大修館書店」「スポーツトレーニング理論：日本文芸社」「メンタルトレーニング：ベースボールマガジン社」「教養としてのスポーツ科学：大修館書店」			
<b>学生への要望</b>	自分の生活習慣に興味、関心を持ち、運動する習慣をつけてほしい。 【授業中】積極的に取組み			
<b>オフィスタイム</b>	火・水・木の9:00～16:00まで創学館N04研究室 （佐藤）			
<b>自学自習</b>	【事前】当日の授業内容を参考書等で確認しておくこと（1時間） 【事後】授業を踏まえて、レジュメを使ったノートまとめ（1時間）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリンピックについて	オリンピックの歴史と現状やオリンピズム、オリンピック憲章について学び、スポーツが持つ魅力について学びます。
2	生活と健康について①	《健康とは何か》 健康について考える導入として「健康の定義」をWHO（世界保健機関）の憲章をふまえ様々な角度から学びます。
3	生活と健康について②	《生活習慣病の原因・対策・予防と運動》 ①生活習慣病の原因と予防、対策について理解し運動との関係について学びます。 ②運動・休養と健康の関係について学びます。
4	生活と健康について③	《大学生の健康》 大学生の生活に潜む健康を害する危険について理解し、セルフライフマネジメントについて学びます。
5	生活とスポーツについて①	《スポーツとは何か》 スポーツの意味を理解し、スポーツの社会的価値とスポーツに期待されることについて学びます。
6	生活とスポーツについて②	《生涯スポーツについて》 生涯スポーツに関わることが自分の健康や生涯の楽しみにどう影響するのか、①行う ②観る ③支える ④調べるの視点から学びます。
7	生活とスポーツについて③	《大学生とスポーツ》 大学生になり、高等学校まで必修で行われてきた体育の授業は著しく減少します。その中で自分の健康について興味を持ち、運動やスポーツについてどう関わるができるかについて学びます。
8	スポーツから学ぶ①	《フェアプレーについて》 スポーツは定められたルールの中で勝敗を競い合うものです。それは日常の生活や普段の行動にも通じるものがあります。ここではスポーツの中からフェアプレーについて学びます。

平成29年度

<b>科目名</b>	健康スポーツ論		<b>対象 単位数 必選</b>
<b>担当教員</b>	佐藤 浩明		
<b>開講期</b>	Ⅱ		
<b>授業概要</b>	<p>健康的な生活に欠かすことのできない運動の方法や効果、スポーツ栄養の基礎知識を理解し身につけることで生涯にわたって自ら健康について考え行動できる力を習得する。</p> <p>①運動と健康の関連を理解し、スポーツ栄養学に関する基礎知識を学びます。 ②スポーツの意義を理解し、自分の健康や行動のありかたについて学びます。</p> <p>《第1回～4回：水野担当》《第5回～8回：佐藤担当》</p>		
<b>達成目標</b>	健康的な生活に欠かすことのできない運動の方法や効果、自ら健康について考え行動できる力を習得する。スポーツ種目に必要な技術を習得すると共にコミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知り人間力を身に付ける		
<b>受講資格</b>	家政科 食物栄養専攻 1年生 ※教職課程履修者は必修	<b>成績評価 方法</b>	レポート60点 平常点 40点（出席・取組姿勢・提出物）
<b>教科書</b>	特になし（必要に応じて資料、課題を配布します）		
<b>参考書</b>	「健康・フィットネスと生涯スポーツ：大修館書店」「スポーツトレーニング理論：日本文芸社」「メンタルトレーニング：ベースボールマガジン社」「教養としてのスポーツ科学：大修館書店」		
<b>学生への要望</b>	自分の生活習慣に興味、関心を持ち、運動する習慣をつけてほしい。		
<b>オフィスタイム</b>	火・水・木 9:00～16:00まで創学館N04研究室（佐藤） 火 12:30～17:00まで No2栄養学研究室（水野）		
<b>自学自習</b>	【事前】当日の授業内容を参考書等で確認しておくこと（1時間） 【事後】授業を踏まえて、レジュメを使ったノートまとめ（1時間）		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	健康と運動①	《現在社会と健康》 健康の概念、日本の健康づくり施策の流れ、現代社会がかかえる健康問題について学び理解します。
2	健康と運動②	《身体活動と健康》 身体活動・運動による生体変化として、運動の糖質代謝への影響、運動の脂質代謝への影響、運動と血圧、運動と骨密度などについて学び、身体活動・運動が健康の維持増進に重要な役割を果たしていることを理解します。
3	運動と栄養①	《スポーツ栄養の基礎知識①》 運動時のエネルギー供給機構、スポーツ種目とエネルギー供給、運動強度とエネルギー源について学び、スポーツ栄養について理解します。
4	運動と栄養②	《スポーツ栄養の基礎知識②》 運動と糖質・たんぱく質摂取、運動と水分・電解質補給、運動と食事内容・タイミングについて学び、スポーツ栄養について理解します。
5	オリンピックについて	《オリンピックとは》 オリンピックの歴史と現状やオリンピズム、オリンピック憲章について学び、スポーツが持つ魅力について学びます。
6	生活とスポーツ①	《スポーツとは何か》 スポーツの意味を理解し、スポーツの社会的価値とスポーツに期待されることについて学びます。
7	生活とスポーツ②	《生涯スポーツ》 生涯スポーツに関わることが自分の健康や生涯の楽しみにどう影響するのか、①行う ②観る ③支える ④調べるの視点から学びます。
8	スポーツから学ぶ	《メンタルトレーニング》 常に結果が求められるスポーツ選手（アスリート）のメンタルトレーニング、ポジティブシンキング、行動基準について学びます。

平成29年度

科目名	健康スポーツ論		対象 単位数 必選	短期大学部 文化学科 1年 1単位 選択/短期大学部 家政科福祉情報専攻 1年 1単位 選択/短期大学部 家政科食物栄養専攻 1年 1単位 選択/短期大学部 幼児教育学科 1年 1単位 選択/短期大学部 音楽科 1年 1単位 選択/短期大学部 生活芸術科 1年 1単位 選択
担当教員	佐藤 浩明			
開講期	I			
授業概要	健康的な生活に欠かすことのできない運動の方法や効果、スポーツの意義、特性を理解し、生涯にわたって自ら健康について考え行動できる力を習得する。 ①運動と健康の関連を理解し、エクササイズの方法や身体についての基礎知識を学びます。 ②スポーツの意義を理解し、自分の健康や行動のありかたについて学びます。			
達成目標	健康的な生活に欠かすことのできない運動の方法や効果、自ら健康について考え行動できる力を習得する。スポーツ種目に必要な技術を習得すると共にコミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知り人間力を身に付ける			
受講資格	幼児教育学科 1年生 ※教職課程履修者は必修	成績評価 方法	レポート60点 平常点 40点 (取組姿勢・提出物)	
教科書	特になし (必要に応じて資料、課題を配布します)			
参考書	「健康・フィットネスと生涯スポーツ：大修館書店」「スポーツトレーニング理論：日本文芸社」「メンタルトレーニング：ベースボールマガジン社」「教養としてのスポーツ科学：大修館書店」			
学生への要望	自分の生活習慣に興味、関心を持ち、運動する習慣をつけてほしい。			
オフィスタイム	火・水・木の9:00～16:00まで創学館N04研究室 (佐藤)			
自学自習	【事前】当日の授業内容を参考書等で確認しておくこと (1時間) 【事後】授業を踏まえて、レジュメを使ったノートまとめ (1時間)			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリンピックについて	オリンピックの歴史と現状やオリンピズム、オリンピック憲章について学び、スポーツが持つ魅力について学びます。
2	生活と健康について①	《健康とは何か》 健康について考える導入として「健康の定義」をWHO (世界保健機関) の憲章をふまえて様々な角度から学びます。
3	生活と健康について②	《生活習慣病の原因・対策・予防と運動》 ①生活習慣病の原因と予防、対策について理解し運動との関係について学びます。 ②運動・休養と健康の関係について学びます。
4	生活と健康について③	《大学生の健康》 大学生の生活に潜む健康を害する危険について理解し、セルフライフマネジメントについて学びます。
5	生活とスポーツについて①	《スポーツとは何か》 スポーツの意味を理解し、スポーツの社会的価値とスポーツに期待されることについて学びます。
6	生活とスポーツについて②	《生涯スポーツについて》 生涯スポーツに関わることが自分の健康や生涯の楽しみにどう影響するのか、①行う ②観る ③支える ④調べるの視点から学びます。
7	生活とスポーツについて③	《大学生とスポーツ》 大学生になり、高等学校まで必修で行われてきた体育の授業は著しく減少します。その中で自分の健康について興味を持ち、運動やスポーツについてどう関わることができるかについて学びます。
8	スポーツから学ぶ①	《フェアプレーについて》 スポーツは定められたルールの中で勝敗を競い合うものです。それは日常の生活や普段の行動にも通じるものがあります。ここではスポーツの中からフェアプレーについて学びます。

科目名	スポーツ実技		対象 単位数 必選	短期大学部 文化学科 1年 1単位 選択/短期大学部 家政科福祉情報専攻 1年 1単位 選択/短期大学部 幼児教育学科 1年 1単位 選択/短期大学部 家政科食物栄養専攻 1年 1単位 選択/短期大学部 音楽科 1年 1単位 選択/短期大学部 生活芸術科 1年 1単位 選択
担当教員	佐藤 浩明			
開講期	I			
授業概要	生活の基盤となる『健康なからだづくり』に欠かすことのできない運動の重要性や楽しさを理解し、生涯にわたって自分の健康や体力に配慮ができ、それらを保持増進していくために必要となる知識や方法について実技を通して学びます。 ①運動の重要性を理解し、健康との関連について学びます。 ②運動を通して、協調性、コミュニケーション能力、フェアプレーの精神について学びます。 ③運動を通して、基礎体力の維持、向上する方法について学びます。			
達成目標	健康的な生活に欠かすことのできない運動の方法や効果、自ら健康について考え行動できる力を習得する。スポーツ種目に必要な技術を習得すると共にコミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知り人間力を身に付ける			
受講資格	家政科 福祉情報専攻 生活芸術科 音楽科 文化学科 1年生 (教職課程履修者は必修)	成績評価 方法	平常点40点(取組姿勢) 実技試験60点 ※本科目は実技科目のため、出席、積極的な取組みを重視します。	
教科書	特になし(必要に応じて資料等を配布します)			
参考書	「健康・フィットネスと生涯スポーツ:大修館書店」「公認スポーツ指導者養成テキストⅠ・Ⅱ・Ⅲ:(財)日本体育協会」「スポーツトレーニング理論:日本文芸社」「ストレッチメソッド:高橋書店」			
学生への要望	自分の生活習慣に興味、関心を持ち、運動する習慣をつけてほしい。 【授業中】積極的に取組み、運動を楽しむこと。タオル、水分は各自で必ず持参すること。(体調管理および熱中症対策)			
オフィスタイム	火、水、木の9:00~16:00まで。創学館N04研究室 佐藤			
自学自習	【事前】急激な運動は怪我の恐れがあるので、ストレッチや軽くジョギングなどでウォーミングアップを20分すること。講義は当日の授業内容を参考書等で確認しておくこと(1時間) 【事後】運動後は怪我防止と疲労を残さないため、軽くジョギングした後にストレッチをして、クールダウンを20分すること。講義は授業を踏まえて、レジュメを使ったノートまとめ(1時間)			

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ガイダンス	①授業目的、内容、進め方、評価方法の説明 ②服装、準備物の確認(注意事項含む) ③グループ分け
2	縄跳び①/からだづくりの運動	【テーマ:運動習慣をつける第一歩として、コミュニケーションゲームやレクリエーションで楽しくからだを動かす】 【到達目標】 *スポーツ種目に必要な技術を習得する *コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る ①ウォーミングアップ(準備運動・動的ストレッチ) ②コミュニケーションゲーム・体ほぐしの運動 ③レクリエーションゲーム ④からだづくりの運動 ⑤縄跳び(個人およびグループ) ⑥クーリングダウン(静的ストレッチ・からだのケア) ⑦体育館清掃
3	縄跳び②/からだづくりの運動	【テーマ:楽しくからだを動かしながらコーディネーショントレーニングで、からだの調整力を養う】 【到達目標】 *スポーツ種目に必要な技術を習得する *コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る ①ウォーミングアップ(準備運動・動的ストレッチ) ②コーディネーショントレーニング ③レクリエーションゲーム ④からだづくりの運動 ⑤縄跳び(個人およびグループ) ⑥クーリングダウン(静的ストレッチ・からだのケア) ⑦体育館清掃
4	縄跳び③/からだづくりの運動	【テーマ:楽しくからだを動かしながらコーディネーショントレーニングで、からだの調整力を養う】 【到達目標】 *スポーツ種目に必要な技術を習得する *コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る ①ウォーミングアップ(準備運動・動的ストレッチ) ②コーディネーショントレーニング ③レクリエーションゲーム ④からだづくりの運動 ⑤縄跳び(個人およびグループ) ⑥クーリングダウン(静的ストレッチ・からだのケア) ⑦体育館清掃
5	フライングディスク④/からだづくりの運動	【テーマ:ニュースポーツのフライングディスクで動きながら二つの動作ができる能力を養う】 【到達目標】 *スポーツ種目に必要な技術を習得する *コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る ①ウォーミングアップ(準備運動・動的ストレッチ) ②からだづくりの運動 ③レクリエーションゲーム ④フライングディスク(グループ対抗戦) ⑤クーリングダウン(静的ストレッチ・からだのケア) ⑦体育館清掃

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
6	フライングディスク④/からだづくりの運動	<p>【テーマ：ニュースポーツのフライングディスクで動きながら二つの動作ができる能力を養う】</p> <p>【到達目標】                      *スポーツ種目に必要な技術を習得する                      *コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る</p> <p>①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ） ②からだづくりの運動 ③レクリエーションゲーム ④フライングディスク（グループ対抗戦） ⑤クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア） ⑦体育館清掃</p>
7	フライングディスク④/からだづくりの運動	<p>【テーマ：ニュースポーツのフライングディスクで動きながら二つの動作ができる能力を養う】</p> <p>【到達目標】                      *スポーツ種目に必要な技術を習得する                      *コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る</p> <p>①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ） ②からだづくりの運動 ③レクリエーションゲーム ④フライングディスク（グループ対抗戦） ⑤クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア） ⑦体育館清掃</p>
8	フライングディスク④/からだづくりの運動	<p>【テーマ：ニュースポーツのフライングディスクで動きながら二つの動作ができる能力を養う】</p> <p>【到達目標】                      *スポーツ種目に必要な技術を習得する                      *コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る</p> <p>①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ） ②からだづくりの運動 ③レクリエーションゲーム ④フライングディスク（グループ対抗戦） ⑤クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア） ⑦体育館清掃</p>
9	フライングディスク④/からだづくりの運動	<p>【テーマ：ニュースポーツのフライングディスクで動きながら二つの動作ができる能力を養う】</p> <p>【到達目標】                      *スポーツ種目に必要な技術を習得する                      *コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る</p> <p>①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ） ②からだづくりの運動 ③レクリエーションゲーム ④フライングディスク（グループ対抗戦） ⑤クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア） ⑦体育館清掃</p>
10	ソフトバレーボール⑤/からだづくりの運動	<p>【テーマ：ソフトバレーボールを通じてフェアプレーを学びコミュニケーション発揮し楽しみながらグループで行う】</p> <p>【到達目標】                      *スポーツ種目に必要な技術を習得する                      *コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る</p> <p>①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ） ②からだづくりの運動 ③レクリエーションゲーム ④ソフトバレーボール（パス・レーシーブ・アタック・ミニゲーム） ⑤クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア） ⑦体育館清掃</p>
11	ソフトバレーボール⑤/からだづくりの運動	<p>【テーマ：ソフトバレーボールを通じてフェアプレーを学びコミュニケーション発揮し楽しみながらグループで行う】</p> <p>【到達目標】                      *スポーツ種目に必要な技術を習得する                      *コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る</p> <p>①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ） ②からだづくりの運動 ③レクリエーションゲーム ④ソフトバレーボール（パス・レーシーブ・アタック・ミニゲーム） ⑤クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア） ⑦体育館清掃</p>
12	ソフトバレーボール⑤/からだづくりの運動	<p>【テーマ：ソフトバレーボールを通じてフェアプレーを学びコミュニケーション発揮し楽しみながらグループで行う】</p> <p>【到達目標】                      *スポーツ種目に必要な技術を習得する                      *コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る</p> <p>①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ） ②からだづくりの運動 ③レクリエーションゲーム ④ソフトバレーボール（パス・レーシーブ・アタック・ミニゲーム） ⑤クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア） ⑦体育館清掃</p>

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
13	ソフトバレーボール⑤/からだづくりの運動	<p>【テーマ：ソフトバレーボールを通じてフェアプレーを学びコミュニケーション発揮し楽しみながらグループで行う】</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>*スポーツ種目に必要な技術を習得する</li> <li>*コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る</li> </ul> <p>①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ） ②からだづくりの運動 ③レクリエーションゲーム ④ソフトバレーボール（パス・レーシーブ・アタック・ミニゲーム） ⑤クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア） ⑦体育館清掃</p>
14	ソフトバレーボール⑤/からだづくりの運動	<p>【テーマ：ソフトバレーボールを通じてフェアプレーを学びコミュニケーション発揮し楽しみながらグループで行う】</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>*スポーツ種目に必要な技術を習得する</li> <li>*コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る</li> </ul> <p>①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ） ②からだづくりの運動 ③レクリエーションゲーム ④ソフトバレーボール（パス・レーシーブ・アタック・ミニゲーム） ⑤クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア） ⑦体育館清掃</p>
15	実技のまとめ	<p>《まとめとして実技試験を行う》</p> <p>①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ） ②レクリエーションゲーム ③実技試験 ④クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア） ⑤体育館清掃</p>

科目名	スポーツ実技		対象 単位数 必選	短期大学部 文化学科 1年 1単位 選択/短期大学部 家政科福祉情報専攻 1年 1単位 選択/短期大学部 家政科食物栄養専攻 1年 1単位 選択/短期大学部 幼児教育学科 1年 1単位 選択/短期大学部 生活芸術科 1年 1単位 選択/短期大学部 音楽科 1年 1単位 選択
担当教員	佐藤 浩明			
開講期	I			
授業概要	生活の基盤となる『健康なからだづくり』に欠かすことのできない運動の重要性や楽しさを理解し、生涯にわたって自分の健康や体力について配慮ができ、それらを保持増進していくために必要となる知識や方法について実技を通して学びます。 ①運動の重要性を理解し、健康との関連について学びます。 ②運動を通して、協調性、コミュニケーション能力、フェアプレーの精神について学びます。 ③運動を通して基礎体力の維持、向上する方法について学びます。 〈第1回～10回、佐藤担当〉〈第11～15回 富本、高橋担当〉			
達成目標	健康的な生活に欠かすことのできない運動の方法や効果、自ら健康について考え行動できる力を習得する。スポーツ種目に必要な技術を習得すると共にコミュニケーションを發揮しスポーツ種目の楽しさを知り人間力を身に付ける			
受講資格	家政科 食物栄養専攻 1年生	成績評価 方法	取組姿勢40点 実技試験60点 ※本科目は実技科目のため出席、積極的な取組を重視します)	
教科書	特になし（必要に応じて資料等配布します）			
参考書	「健康・フィットネスと生涯スポーツ：大修館書店」「公認スポーツ指導者養成テキストⅠ・Ⅱ・Ⅲ：財団法人日本体育協会」「スポーツトレーニング理論：日本文芸社」「ストレッチメソッド：高橋書店」			
学生への要望	自分の生活習慣に興味、関心を持ち、運動する習慣をつけてほしい。 【授業中】積極的に取組み、運動を楽しむこと。タオル、水分は各自で必ず持参すること。（体調管理および熱中症対策）			
オフィスタイム	火、水、木の9:00～16:00まで 創学館N04研究室 佐藤			
自学自習	【事前】急激な運動は怪我の恐れがあるので、ストレッチや軽くジョギングなどでウォーミングアップを20分すること。 【事後】運動後は怪我防止と疲労を残さないため、軽くジョギングした後にストレッチをして、クールダウンを20分すること。自分の生活習慣に興味、関心を持ち、運動する習慣をつけてほしい。			

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ガイダンス	①授業目的、内容、進め方、評価方法の説明 ②服装、準備物の確認（注意事項含む） ③グループ分け
2	縄跳び①/からだづくりの運動	【テーマ：運動習慣をつける第一歩として、コミュニケーションゲームやレクリエーションで楽しくからだを動かす】 【到達目標】 *スポーツ種目に必要な技術を習得する *コミュニケーションを發揮しスポーツ種目の楽しさを知る  ①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ） ②コミュニケーションゲーム・体ほぐしの運動 ③レクリエーションゲーム ④からだづくりの運動 ⑤縄跳び（個人およびグループ） ⑥クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア） ⑦体育館清掃
3	縄跳び②/からだづくりの運動	【テーマ：楽しくからだを動かしながらコーディネーショントレーニングで、からだの調整力を養う】 【到達目標】 *スポーツ種目に必要な技術を習得する *コミュニケーションを發揮しスポーツ種目の楽しさを知る  ①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ） ②コーディネーショントレーニング ③レクリエーションゲーム ④からだづくりの運動 ⑤縄跳び（個人およびグループ） ⑥クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア） ⑦体育館清掃
4	ソフトバレーボール①/からだづくりの運動	【テーマ：ソフトバレーボールを通じてフェアプレーを学びコミュニケーションを發揮し楽しみながらグループで行う】 【到達目標】 *スポーツ種目に必要な技術を習得する *コミュニケーションを發揮しスポーツ種目の楽しさを知る  ①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ） ②からだづくりの運動 ③レクリエーションゲーム ④ソフトバレーボール（パス・レーシーブ・アタック・ミニゲーム） ⑤クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア） ⑦体育館清掃
5	ソフトバレーボール②/からだづくりの運動	【テーマ：ソフトバレーボールを通じてフェアプレーを学びコミュニケーションを發揮し楽しみながらグループで行う】 【到達目標】 *スポーツ種目に必要な技術を習得する *コミュニケーションを發揮しスポーツ種目の楽しさを知る  ①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ） ②からだづくりの運動 ③レクリエーションゲーム ④ソフトバレーボール（パス・レーシーブ・アタック・ミニゲーム） ⑤クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア） ⑦体育館清掃

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
6	ソフトバレーボール③／からだづくりの運動	<p>【テーマ：ソフトバレーボールを通じてフェアプレーを学びコミュニケーション発揮し楽しみながらグループで行う】</p> <p>【到達目標】                      ＊スポーツ種目に必要な技術を習得する                      ＊コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る</p> <p>①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ） ②からだづくりの運動 ③レクリエーションゲーム ④ソフトバレーボール（パス・レーシーブ・アタック・ミニゲーム） ⑤クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア） ⑦体育館清掃</p>
7	ソフトバレーボール④／からだづくりの運動	<p>【テーマ：ソフトバレーボールを通じてフェアプレーを学びコミュニケーション発揮し楽しみながらグループで行う】</p> <p>【到達目標】                      ＊スポーツ種目に必要な技術を習得する                      ＊コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る</p>
8	フライングディスク①／からだづくりの運動	<p>【テーマ：ニュースポーツのフライングディスクで動きながら二つの動作ができる能力を養う】</p> <p>【到達目標】                      ＊スポーツ種目に必要な技術を習得する                      ＊コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る</p> <p>①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ） ②からだづくりの運動 ③レクリエーションゲーム ④フライングディスク（パス・キャッチ・ミニゲーム） ⑤クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア） ⑦体育館清掃</p>
9	フライングディスク②／からだづくりの運動	<p>【テーマ：ニュースポーツのフライングディスクで動きながら二つの動作ができる能力を養う】</p> <p>【到達目標】                      ＊スポーツ種目に必要な技術を習得する                      ＊コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る</p> <p>①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ） ②からだづくりの運動 ③レクリエーションゲーム ④フライングディスク（パス・キャッチ・ミニゲーム） ⑤クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア） ⑦体育館清掃</p>
10	フライングディスク③／からだづくりの運動	<p>【テーマ：ニュースポーツのフライングディスクで動きながら二つの動作ができる能力を養う】</p> <p>【到達目標】                      ＊スポーツ種目に必要な技術を習得する                      ＊コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る</p> <p>①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ） ②からだづくりの運動 ③レクリエーションゲーム ④フライングディスク（パス・キャッチ・ミニゲーム） ⑤クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア） ⑦体育館清掃</p>
11	ハンドボール①／からだづくりの運動	<p>《ハンドボールはスポーツの基本となる3つの要素（走る・投げる・跳ぶ）を含んだスポーツであり、ボールを使ったエクササイズで基礎体力の維持向上を図ることでスポーツを楽しめる能力を養う》</p> <p>①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ） ②からだづくりの運動 ③レクリエーションゲーム ④ハンドボール（パス・キャッチ・シュート・ミニゲーム） ⑤クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア） ⑦体育館清掃</p>
12	ハンドボール②／からだづくりの運動	<p>《ハンドボールはスポーツの基本となる3つの要素（走る・投げる・跳ぶ）を含んだスポーツであり、ボールを使ったエクササイズで基礎体力の維持向上を図ることでスポーツを楽しめる能力を養う》</p> <p>①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ） ②からだづくりの運動 ③レクリエーションゲーム ④ハンドボール（パス・キャッチ・シュート・ミニゲーム） ⑤クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア） ⑦体育館清掃</p>
13	ハンドボール③／からだづくりの運動	<p>《ハンドボールはスポーツの基本となる3つの要素（走る・投げる・跳ぶ）を含んだスポーツであり、ボールを使ったエクササイズで基礎体力の維持向上を図ることでスポーツを楽しめる能力を養う》</p> <p>①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ） ②からだづくりの運動 ③レクリエーションゲーム ④ハンドボール（パス・キャッチ・シュート・ミニゲーム） ⑤クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア） ⑦体育館清掃</p>
14	ハンドボール④／からだづくりの運動	<p>《ハンドボールはスポーツの基本となる3つの要素（走る・投げる・跳ぶ）を含んだスポーツであり、ボールを使ったエクササイズで基礎体力の維持向上を図ることでスポーツを楽しめる能力を養う》</p> <p>①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ） ②からだづくりの運動 ③レクリエーションゲーム ④ハンドボール（パス・キャッチ・シュート・ミニゲーム） ⑤クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア） ⑦体育館清掃</p>
15	ハンドボール⑤／からだづくりの運動	<p>《ハンドボールはスポーツの基本となる3つの要素（走る・投げる・跳ぶ）を含んだスポーツであり、ボールを使ったエクササイズで基礎体力の維持向上を図ることでスポーツを楽しめる能力を養う》</p> <p>①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ） ②からだづくりの運動 ③レクリエーションゲーム ④ハンドボール（パス・キャッチ・シュート・ミニゲーム） ⑤クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア） ⑦体育館清掃</p>

科目名	スポーツ実技	対象 単位数 必選	短期大学部 文化学科 1年 1単位 選択/短期大学部 家政科福祉情報専攻 1年 1単位 選択/短期大学部 幼児教育学科 1年 1単位 選択/短期大学部 家政科食物栄養専攻 1年 1単位 選択/短期大学部 生活芸術科 1年 1単位 選択/短期大学部 音楽科 1年 1単位 選択	
担当教員	一柳 智子			
開講期	I			
授業概要	<p>この授業の概要は以下の4点の養成としてまとめられる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 基礎体力と柔軟性</li> <li>2. 自己管理能力</li> <li>3. スポーツの特性の理解（チームワーク他）</li> <li>4. 身体表現作品鑑賞（バレエ）</li> </ol> <p>2)について、具体的には毎回「自己管理シート」への記入を行うことによって、授業内外の自己の体調をフィードバックする。</p>			
達成目標	<p>【履修カルテの評価項目】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 保育者として必須の基礎体力と柔軟性を養うことができたか。</li> <li>② 体調管理と健康のために、自己管理能力を養うことができたか。</li> <li>③ チームプレイの必要なゲームにおいて、集団内で協力し活動することができたか。</li> <li>④ バレエを鑑賞して、身体表現の豊かさを知ることができたか。</li> </ol>			
受講資格	短大 幼児教育学科1年Aクラス	成績評価 方法	平常点 30点 提出物、試験等 70点	
教科書	特になし			
参考書	必要に応じてプリント配布			
学生への要望	積極的に参加しましょう。			
オフィスタイム	木曜日 Ⅲ限目（12：50～14：20） Ⅳ限目（14：30～16：00） 825研究室（一柳）			
自学自習	日々の生活において、体力増進、柔軟性を意識し、自己管理下において身体表現を豊かにするよう努めましょう。			

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション	・授業の概要および評価方法に関する説明 ・準備物や服装に関する説明
2	ストレッチングと運動強度について	・ストレッチングの方法と効果について ・子どもに指導する際の留意点 ・運動強度と心拍数について
3	バドミントンと卓球①	・ルールの理解 ・サーブとレシーブ
4	バドミントンと卓球②	・ゲーム ・ルールの理解 ・審判としての役割 ・バドミントンの面白さ探求
5	ドッジボール①	・ルールの理解 ・作戦会議 ・試合
6	ドッジボール②	・王様ドッジボール ・グループワーク（ドッジボールの応用を考える）
7	縄跳び	・短縄跳び ・大縄跳び
8	身体表現鑑賞①	・クラシックバレエの動作探究
9	身体表現鑑賞②	・クラシックバレエの動作探究②
10	バレーボール①	・アンダーパスとオーバーパス ・チーム対抗パスゲーム
11	バレーボール②	・サーブとレシーブ ・トスとスパイク ・ゲーム①
12	バレーボール③	・ゲーム② ・戦略 ・チームワーク ・バレーボールの面白さ探求
13	スポーツの意義	・スポーツとは ・スポーツの種類 ・スポーツコーチについて ・勝敗について
14	スポーツの価値	・スポーツの価値とは、 ・スポーツライフ ・子どもとスポーツ
15	まとめ	これまでの授業概要をまとめたノートの提出およびレポート作成

科目名	スポーツ実技	対象 単位数 必選	短期大学部 文化学科 1年 1単位 選択/短期大学部 家政科福祉情報専攻 1年 1単位 選択/短期大学部 家政科食物栄養専攻 1年 1単位 選択/短期大学部 幼児教育学科 1年 1単位 選択/短期大学部 生活芸術科 1年 1単位 選択/短期大学部 音楽科 1年 1単位 選択	
担当教員	柴田 卓			
開講期	I			
授業概要	<p>〔授業の目的〕</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 基礎体力と柔軟性</li> <li>2. 自己管理能力</li> <li>3. スポーツの特性の理解（チームワーク他）</li> <li>4. 身体表現作品鑑賞（バレエ）</li> </ol> <p>〔授業概要〕</p> <p>様々なスポーツ実技を通して、1. 基礎体力と柔軟性、2. 自己管理能力、3. スポーツの特性理解（チームワーク他）、4. 身体表現力の向上および習得を目指す。2については、毎回「自己管理シート」への記入を行うことによって、授業内外の自己の体調をフィードバックする。</p>			
達成目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 保育者として必須の基礎体力と柔軟性を養うことができたか。</li> <li>② 体調管理と健康のために、自己管理能力を養うことができたか。</li> <li>③ チームプレイの必要なゲームにおいて、集団内で協力し活動することができたか。</li> <li>④ バレエを鑑賞して、身体表現の豊かさを知ることができたか。</li> </ol>			
受講資格	短大 幼児教育学科1年Dクラス	成績評価 方法	平常点30点 実技30点 提出物40点	
教科書	特になし			
参考書	必要に応じてプリント配布			
学生への要望	積極的に参加しましょう。			
オフィスタイム	月曜日 14時～17時 金曜日 14時～17時 824研究室			
自学自習	毎日ウォーキングやストレッチを行ったり、カロリー計算をする等自分の身体に向き合い、主体的に健康管理を行いましょう。（目安：毎日1日30分程度）			

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の概要および評価方法に関する説明</li> <li>・準備物や服装に関する説明</li> </ul>
2	ストレッチングと運動強度について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ストレッチングの方法と効果について</li> <li>・子どもに指導する際の留意点</li> <li>・運動強度と心拍数について</li> </ul>
3	バドミントンと卓球①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ルールの理解</li> <li>・サーブとレシーブ</li> </ul>
4	バドミントンと卓球②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゲーム</li> <li>・ルールの理解</li> <li>・審判としての役割</li> <li>・バドミントンの面白さ探求</li> </ul>
5	ドッジボール①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ルールの理解</li> <li>・作戦会議</li> <li>・試合</li> </ul>
6	ドッジボール②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・王様ドッジボール</li> <li>・グループワーク（ドッジボールの応用を考える）</li> </ul>
7	縄跳び	<ul style="list-style-type: none"> <li>・短縄跳び</li> <li>・大縄跳び</li> </ul>
8	身体表現鑑賞①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クラシックバレエの動作探究</li> </ul>
9	身体表現鑑賞②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クラシックバレエの動作探究②</li> </ul>
10	バレーボール①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンダーパスとオーバーパス</li> <li>・チーム対抗バスゲーム</li> </ul>
11	バレーボール②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サーブとレシーブ</li> <li>・トスとスパイク</li> <li>・ゲーム①</li> </ul>
12	バレーボール③	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゲーム②</li> <li>・戦略</li> <li>・チームワーク</li> <li>・バレーボールの面白さ探求</li> </ul>
13	スポーツの意義	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツとは</li> <li>・スポーツの種類</li> <li>・スポーツコーチについて</li> <li>・勝敗について</li> </ul>
14	スポーツの価値	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツの価値とは、</li> <li>・スポーツライフ</li> <li>・子どもとスポーツ</li> </ul>
15	まとめ	これまでの授業概要をまとめたノートの提出およびレポート作成

平成29年度

科目名	スポーツ実技	対象 単位数 必選	短期大学部 文化学科 1年 1単位 選択/短期大学部 家政科福祉情報専攻 1年 1単位 選択/短期大学部 家政科食物栄養専攻 1年 1単位 選択/短期大学部 幼児教育学科 1年 1単位 選択/短期大学部 生活芸術科 1年 1単位 選択/短期大学部 音楽科 1年 1単位 選択	
担当教員	一柳 智子			
開講期	I			
授業概要	この授業の概要は以下の4点の養成としてまとめられる。 1. 基礎体力と柔軟性 2. 自己管理能力 3. スポーツの特性の理解（チームワーク他） 4. 身体表現作品鑑賞（バレエ）  2)について、具体的には毎回「自己管理シート」への記入を行うことによって、授業内外の自己の体調をフィードバックする。			
達成目標	【履修カルテの評価項目】 ① 保育者として必須の基礎体力と柔軟性を養うことができたか。 ② 体調管理と健康のために、自己管理能力を養うことができたか。 ③ チームプレイの必要なゲームにおいて、集団内で協力し活動することができたか。 ④ バレエを鑑賞して、身体表現の豊かさを知ることができたか。			
受講資格	短大 幼児教育学科1年Cクラス	成績評価 方法	平常点 30点 提出物、試験等 70点	
教科書	特になし			
参考書	必要に応じてプリント配布			
学生への要望	積極的に参加しましょう。			
オフィスタイム	木曜日 Ⅲ限目（12：50～14：20） Ⅳ限目（14：30～16：00） 825研究室（一柳）			
自学自習	日々の生活において、体力増進、柔軟性を意識し、自己管理下において身体表現を豊かにするよう努めましょう			

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション	・授業の概要および評価方法に関する説明 ・準備物や服装に関する説明
2	ストレッチングと運動強度について	・ストレッチングの方法と効果について ・子どもに指導する際の留意点 ・運動強度と心拍数について
3	バドミントンと卓球①	・ルールの理解 ・サーブとレシーブ
4	バドミントンと卓球②	・ゲーム ・ルールの理解 ・審判としての役割 ・バドミントンの面白さ探求
5	ドッジボール①	・ルールの理解 ・作戦会議 ・試合
6	ドッジボール②	・王様ドッジボール ・グループワーク（ドッジボールの応用を考える）
7	縄跳び	・短縄跳び ・大縄跳び
8	身体表現鑑賞①	・クラシックバレエの動作探究
9	身体表現鑑賞②	・クラシックバレエの動作探究②
10	バレーボール①	・アンダーパスとオーバーパス ・チーム対抗パスゲーム
11	バレーボール②	・サーブとレシーブ ・トスとスパイク ・ゲーム①
12	バレーボール③	・ゲーム② ・戦略 ・チームワーク ・バレーボールの面白さ探求
13	スポーツの意義	・スポーツとは ・スポーツの種類 ・スポーツコーチについて ・勝敗について
14	スポーツの価値	・スポーツの価値とは、 ・スポーツライフ ・子どもとスポーツ
15	まとめ	これまでの授業概要をまとめたノートの提出およびレポート作成

科目名	スポーツ実技	対象 単位数 必選	短期大学部 文化学科 1年 1単位 選択/短期大学部 家政科福祉情報専攻 1年 1単位 選択/短期大学部 家政科食物栄養専攻 1年 1単位 選択/短期大学部 幼児教育学科 1年 1単位 選択/短期大学部 生活芸術科 1年 1単位 選択/短期大学部 音楽科 1年 1単位 選択	
担当教員	柴田 卓			
開講期	I			
授業概要	<p>〔授業の目的〕</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 基礎体力と柔軟性</li> <li>2. 自己管理能力</li> <li>3. スポーツの特性の理解（チームワーク他）</li> <li>4. 身体表現作品鑑賞（バレエ）</li> </ol> <p>〔授業概要〕</p> <p>様々なスポーツ実技を通して、1. 基礎体力と柔軟性、2. 自己管理能力、3. スポーツの特性理解（チームワーク他）、4. 身体表現力の向上および習得を目指す。2については、毎回「自己管理シート」への記入を行うことによって、授業内外の自己の体調をフィードバックする。</p>			
達成目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 保育者として必須の基礎体力と柔軟性を養うことができたか。</li> <li>② 体調管理と健康のために、自己管理能力を養うことができたか。</li> <li>③ チームプレイの必要なゲームにおいて、集団内で協力し活動することができたか。</li> <li>④ バレエを鑑賞して、身体表現の豊かさを知ることができたか。</li> </ol>			
受講資格	短大 幼児教育学科1年Dクラス	成績評価 方法	平常点30点 実技30点 提出物40点	
教科書	特になし			
参考書	必要に応じてプリント配布			
学生への要望	積極的に参加しましょう。			
オフィスタイム	月曜日 14時～17時 金曜日 14時～17時 824研究室			
自学自習	毎日ウォーキングやストレッチを行ったり、カロリー計算をする等自分の身体に向き合い、主体的に健康管理を行いましょう。（目安：毎日1日30分程度）			

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の概要および評価方法に関する説明</li> <li>・準備物や服装に関する説明</li> </ul>
2	ストレッチングと運動強度について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ストレッチングの方法と効果について</li> <li>・子どもに指導する際の留意点</li> <li>・運動強度と心拍数について</li> </ul>
3	バドミントンと卓球①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ルールの理解</li> <li>・サーブとレシーブ</li> </ul>
4	バドミントンと卓球②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゲーム</li> <li>・ルールの理解</li> <li>・審判としての役割</li> <li>・バドミントンの面白さ探求</li> </ul>
5	ドッジボール①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ルールの理解</li> <li>・作戦会議</li> <li>・試合</li> </ul>
6	ドッジボール②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・王様ドッジボール</li> <li>・グループワーク（ドッジボールの応用を考える）</li> </ul>
7	縄跳び	<ul style="list-style-type: none"> <li>・短縄跳び</li> <li>・大縄跳び</li> </ul>
8	身体表現鑑賞①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クラシックバレエの動作探究</li> </ul>
9	身体表現鑑賞②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クラシックバレエの動作探究②</li> </ul>
10	バレーボール①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンダーパスとオーバーパス</li> <li>・チーム対抗バスゲーム</li> </ul>
11	バレーボール②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サーブとレシーブ</li> <li>・トスとスパイク</li> <li>・ゲーム①</li> </ul>
12	バレーボール③	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゲーム②</li> <li>・戦略</li> <li>・チームワーク</li> <li>・バレーボールの面白さ探求</li> </ul>
13	スポーツの意義	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツとは</li> <li>・スポーツの種類</li> <li>・スポーツコーチについて</li> <li>・勝敗について</li> </ul>
14	スポーツの価値	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツの価値とは、</li> <li>・スポーツライフ</li> <li>・子どもとスポーツ</li> </ul>
15	まとめ	これまでの授業概要をまとめたノートの提出およびレポート作成

平成29年度

科目名	情報処理 I	対象 単位数 必選	短期大学部 文化学科 1年 2単位 選択/短期大学部 家政科福祉情報専攻 1年 2単位 選択/短期大学部 幼児教育学科 1年 2単位 選択/短期大学部 家政科食物栄養専攻 1年 2単位 選択/短期大学部 生活芸術科 1年 2単位 選択/短期大学部 音楽科 1年 2単位 選択
担当教員	山口 猛		
開講期	I		
授業概要	パソコンの普及及びネットワーク化の急激な進展を踏まえ、今後必要となる情報処理技術であるコンピュータ、ネットワーク及びオフィスソフトの基礎技術を学ぶ。とくに本演習ではオペレーティング・システム(OS)の基本操作・メールやウェブの利用方法・文書作成について学習する。		
達成目標	本演習における達成目標は次の通りとする。 1. オペレーティング・システム(OS)の基本的な操作ができること。 2. ウェブとメールを利用した情報収集および情報伝達ができること。 3. 文書作成・表計算ソフトウェアを利用し、必要な情報を盛り込んだ文書を作成することができること。		
受講資格	なし。	成績評価方法	達成目標の到達度合いは課題により評価する。内容の区切りで課題を提示し演習と確認を行う。評価の比率は課題1を20%、課題2を40%、課題3を40%とする。欠席1回につき3点を減じる。遅刻・早退はそれぞれ1点を減じる。
教科書	つくりたい!がカタチになる 学生のための Office2016&情報モラル、noa 出版 (2016)		
参考書	なし。		
学生への要望	授業内容を反復して練習すること。		
オフィスタイム	月：Ⅲ・Ⅳ No.2情報処理教育研究室		
自学自習	予習 授業該当箇所の動画をオフィスソフトを操作しながら見る。(約1時間) 復習 教科書の練習問題を実施する。(約1時間)		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	イントロダクション	この演習の目的・内容・単位数・教科書・成績評価について説明する。また演習を始めるにあたり、オリエンテーション時の内容を復習し、Webメールを利用、Windowsの基本操作ができるようにする。
2	ブラウザと検索	World Wide Web (WWW) を利用するために、ブラウザ・文字コード・Uniform Resource Locator・プロトコルなどのネットワークを利用する上での基礎事項を学習する。またインターネットの普及を踏まえた上で、インターネットを利用する上での注意事項について触れる。
3	Email	Email のアドレスの構造やメール転送の仕組みを学ぶ。メールアドレスの管理やメールのフィルタリング、To, CC (Carbon Copy), BCC (Blind Carbon Copy) 違いなどメールの基本について学ぶ。また、安全に Email を利用する方法やまたローカルコンピュータ上のメーラーだけでなく、Gmail を用いて Web 上のメールの用法も理解する。
4	課題1	インターネット (ブラウザ・メールなど) の用法について、正しく利用できるか確認をする。 教材のダウンロード <a href="http://www.noa-prolab.co.jp/shp/download/">http://www.noa-prolab.co.jp/shp/download/</a>
5	Wordによる文書作成1	Word を用いた文章作成について学ぶ。Word の画面構成と名称を学び、書式の意味とその設定を行う。また文章中での表の作成・挿入などの方法を学ぶ。
6	Wordによる文書作成2	表作成の操作として、列幅や行幅の変更・セルの結合・スタイルの設定等について学ぶ。さらにワードアートを始めとした図の挿入方法とその際の各種設定方法について学ぶ。
7	Wordによるレポート作成	レポート作成時に必要となる基本的な設定方法について学ぶ。また文章内に表やグラフを挿入する際に必要となる Excel の基礎知識、脚注や引用などについても学ぶ。
8	課題2	これまでの学習内容を踏まえ、提示された課題について一定時間での文章作成を行う。作成した文章については Web を通じて指定箇所に提出することで、一連の学習状況の確認を行う。
9	Excelによる表計算の基礎	Excel を用いて表計算ソフトを学ぶ。表計算ソフトの基本画面構成・文字と数値の扱い・データ削除方法などの基本操作のほか、計算を行う上での数学とコンピュータ上の規約の差異などを学ぶ。
10	データ入力とアドレス	効率的なデータ入力を行うためのフィルハンドルの用法を学び、具体的な数値の作成練習を行う。また表計算を行う上で重要な相対アドレス・絶対アドレス・混合アドレスの差異を学ぶ。
11	関数	コンピュータ上での関数について学ぶ。基本的な関数である SUM 関数および AVERAGE 関数を用い、表計算ソフト上での関数の扱いについて学ぶ。
12	論理	実用的な計算を行う上で重要な論理計算を行う関数について学ぶ。具体的には IF 関数や COUNTIF 関数などの用法などについて学ぶ。
13	表とグラフ	表計算ソフトでの表の書式設定を学び、作成した表からグラフを作成する方法について学ぶ。またグラフに関する基本的な設定を行う。
14	課題3	これまでの学習内容を踏まえ、提示された課題について一定時間での Excel で処理を行う。処理したファイルは Web を通じて指定箇所に提出する。これにより学習状況の確認を行う。
15	プレゼンテーション	プレゼンテーションソフトを用いたプレゼンテーションの基本やスライド作成の注意点、スライド作成の基本機能について学ぶ

科目名	情報処理 I	対象 単位数 必選	短期大学部 文化学科 1年 2単位 選択/短期大学部 家政科福祉情報専攻 1年 2単位 選択/短期大学部 幼児教育学科 1年 2単位 選択/短期大学部 家政科食物栄養専攻 1年 2単位 選択/短期大学部 生活芸術科 1年 2単位 選択/短期大学部 音楽科 1年 2単位 選択
担当教員	石原 正道		
開講期	I		
授業概要	パソコンの普及及びネットワーク化の急激な進展を踏まえ、今後必要となる情報処理技術であるコンピュータ、ネットワーク及びオフィスソフトの基礎技術を学ぶ。とくに本演習ではオペレーティング・システム(OS)の基本操作・メールやウェブの利用方法・文書作成について学習する。		
達成目標	本演習における達成目標は次の通りとする。 1. オペレーティング・システム(OS)の基本的な操作ができること。 2. ウェブとメールを利用した情報収集および情報伝達ができること。 3. 文書作成・表計算ソフトウェアを利用し、必要な情報を盛り込んだ文書を作成することができること。		
受講資格	なし。	成績評価方法	達成目標の到達度合いは課題により評価する。内容の区切りで課題を提示し演習と確認を行う。評価の比率は課題1を20%、課題2を40%、課題3を40%とする。欠席1回につき3点を減じる。遅刻・早退はそれぞれ1点を減じる。
教科書	つくりたい!がカタチになる 学生のための Office2016&情報モラル、noa 出版 (2016)		
参考書	なし。		
学生への要望	授業内容を反復して練習すること。		
オフィスタイム	月曜日 16:10-17:05, No.1 情報処理教育研究室 木曜日 16:10-17:05, No.1 情報処理教育研究室 他の時間でも構わないが、アポイントメントがあると確実に対応できる。 アポイントメント用連絡先 m_isihar@koryama-kgc.ac.jp		
自学自習	予習 授業該当箇所の動画をオフィスソフトを操作しながら見る。(約1時間) 復習 教科書の練習問題を実施する。(約1時間)		

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	イントロダクション	この演習の目的・内容・単位数・教科書・成績評価について説明する。また演習を始めるにあたり、オリエンテーション時の内容を復習し、Webメールを利用、Windowsの基本操作ができるようにする。
2	ブラウザと検索	World Wide Web (WWW) を利用するために、ブラウザ・文字コード・Uniform Resource Locator・プロトコルなどのネットワークを利用する上での基礎事項を学習する。またインターネットの普及を踏まえた上で、インターネットを利用する上での注意事項について触れる。
3	Email	Email のアドレスの構造やメール転送の仕組みを学ぶ。メールアドレスの管理やメールのフィルタリング、To, CC (Carbon Copy), BCC (Blind Carbon Copy) 違いなどメールの基本について学ぶ。また、安全に Email を利用する方法やまたローカルコンピュータ上のメーラーだけでなく、Gmail を用いて Web 上のメールの用法も理解する。
4	課題1	インターネット(ブラウザ・メールなど)の用法について、正しく利用できるか確認をする。 教材のダウンロード <a href="http://www.noa-prolab.co.jp/shp/download/">http://www.noa-prolab.co.jp/shp/download/</a>
5	Wordによる文書作成1	Word を用いた文章作成について学ぶ。Word の画面構成と名称を学び、書式の意味とその設定を行う。また文章中での表の作成・挿入などの方法を学ぶ。
6	Wordによる文書作成2	表作成の操作として、列幅や行幅の変更・セルの結合・スタイルの設定等について学ぶ。さらにワードアートを始めとした図の挿入方法とその際の各種設定方法について学ぶ。
7	Wordによるレポート作成	レポート作成時に必要となる基本的な設定方法について学ぶ。また文章内に表やグラフを挿入する際に必要となる Excel の基礎知識、脚注や引用などについても学ぶ。
8	課題2	これまでの学習内容を踏まえ、提示された課題について一定時間での文章作成を行う。作成した文章については Web を通じて指定箇所に提出することで、一連の学習状況の確認を行う。
9	Excelによる表計算の基礎	Excel を用いて表計算ソフトを学ぶ。表計算ソフトの基本画面構成・文字と数値の扱い・データ削除方法などの基本操作のほか、計算を行う上での数学とコンピュータ上の規約の差異などを学ぶ。
10	データ入力とアドレス	効率的なデータ入力を行うためのフィルハンドルの用法を学び、具体的な数値の作成練習を行う。また表計算を行う上で重要な相対アドレス・絶対アドレス・混合アドレスの差異を学ぶ。
11	関数	コンピュータ上での関数について学ぶ。基本的な関数である SUM 関数および AVERAGE 関数を用い、表計算ソフト上での関数の扱いについて学ぶ。
12	論理	実用的な計算を行う上で重要な論理計算を行う関数について学ぶ。具体的には IF 関数や COUNTIF 関数などの用法などについて学ぶ。
13	表とグラフ	表計算ソフトでの表の書式設定を学び、作成した表からグラフを作成する方法について学ぶ。またグラフに関する基本的な設定を行う。
14	課題3	これまでの学習内容を踏まえ、提示された課題について一定時間での Excel で処理を行う。処理したファイルは Web を通じて指定箇所に提出する。これにより学習状況の確認を行う。
15	プレゼンテーション	プレゼンテーションソフトを用いたプレゼンテーションの基本やスライド作成の注意点、スライド作成の基本機能について学ぶ。

平成29年度

科目名	情報処理 I	対象 単位数 必選	短期大学部 文化学科 1年 2単位 選択/短期大学部 家政科福祉情報専攻 1年 2単位 選択/短期大学部 幼児教育学科 1年 2単位 選択/短期大学部 家政科食物栄養専攻 1年 2単位 選択/短期大学部 生活芸術科 1年 2単位 選択/短期大学部 音楽科 1年 2単位 選択
担当教員	山口 猛, 齋藤 理沙		
開講期	I		
授業概要	パソコンの普及及びネットワーク化の急激な進展を踏まえ、今後必要となる情報処理技術であるコンピュータ、ネットワーク及びオフィスソフトの基礎技術を学ぶ。とくに本演習ではオペレーティング・システム(OS)の基本操作・メールやウェブの利用方法・文書作成について学習する。		
達成目標	本演習における達成目標は次の通りとする。 1. オペレーティング・システム(OS)の基本的な操作ができること。 2. ウェブとメールを利用した情報収集および情報伝達ができること。 3. 文書作成・表計算ソフトウェアを利用し、必要な情報を盛り込んだ文書を作成することができること。		
受講資格	なし。	成績評価方法	達成目標の到達度合いは課題により評価する。内容の区切りで課題を提示し演習と確認を行う。評価の比率は課題1を20%、課題2を40%、課題3を40%とする。欠席1回につき3点を減じる。遅刻・早退はそれぞれ1点を減じる。
教科書	つくりたい!がカタチになる 学生のための Office2016&情報モラル、noa 出版 (2016)		
参考書	なし。		
学生への要望	授業内容を反復して練習すること。		
オフィスタイム	月：Ⅲ・Ⅳ No.2情報処理教育研究室		
自学自習	予習 授業該当箇所の動画をオフィスソフトを操作しながら見る。(約1時間) 復習 教科書の練習問題を実施する。(約1時間)		

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	イントロダクション	この演習の目的・内容・単位数・教科書・成績評価について説明する。また演習を始めるにあたり、オリエンテーション時の内容を復習し、Webメールを利用、Windowsの基本操作ができるようにする。
2	ブラウザと検索	World Wide Web (WWW) を利用するために、ブラウザ・文字コード・Uniform Resource Locator・プロトコルなどのネットワークを利用する上での基礎事項を学習する。またインターネットの普及を踏まえた上で、インターネットを利用する上での注意事項について触れる。
3	Email	Email のアドレスの構造やメール転送の仕組みを学ぶ。メールアドレスの管理やメールのフィルタリング、To, CC (Carbon Copy), BCC (Blind Carbon Copy) 違いなどメールの基本について学ぶ。 また、安全に Email を利用する方法やまたローカルコンピュータ上のメーラーだけでなく、Gmail を用いて Web 上のメールの用法も理解する。
4	課題1	インターネット (ブラウザ・メールなど) の用法について、正しく利用できるか確認をする。 教材のダウンロード <a href="http://www.noa-prolab.co.jp/shp/download/">http://www.noa-prolab.co.jp/shp/download/</a>
5	Wordによる文書作成1	Word を用いた文章作成について学ぶ。Word の画面構成と名称を学び、書式の意味とその設定を行う。また文章中での表の作成・挿入などの方法を学ぶ。
6	Wordによる文書作成2	表作成の操作として、列幅や行幅の変更・セルの結合・スタイルの設定等について学ぶ。さらにワードアートを始めとした図の挿入方法とその際の各種設定方法について学ぶ。
7	Wordによるレポート作成	レポート作成時に必要となる基本的な設定方法について学ぶ。また文章内に表やグラフを挿入する際に必要となる Excel の基礎知識、脚注や引用などについても学ぶ。
8	課題2	これまでの学習内容を踏まえ、提示された課題について一定時間での文章作成を行う。作成した文章については Web を通じて指定箇所に提出することで、一連の学習状況の確認を行う。
9	Excelによる表計算の基礎	Excel を用いて表計算ソフトを学ぶ。表計算ソフトの基本画面構成・文字と数値の扱い・データ削除方法などの基本操作のほか、計算を行う上での数学とコンピュータ上の規約の差異などを学ぶ。
10	データ入力とアドレス	効率的なデータ入力を行うためのフィルハンドルの用法を学び、具体的な数値の作成練習を行う。また表計算を行う上で重要な相対アドレス・絶対アドレス・混合アドレスの差異を学ぶ。
11	関数	コンピュータ上での関数について学ぶ。基本的な関数である SUM 関数および AVERAGE 関数を用い、表計算ソフト上での関数の扱いについて学ぶ。
12	論理	実用的な計算を行う上で重要な論理計算を行う関数について学ぶ。具体的には IF 関数や COUNTIF 関数などの用法などについて学ぶ。
13	表とグラフ	表計算ソフトでの表の書式設定を学び、作成した表からグラフを作成する方法について学ぶ。またグラフに関する基本的な設定を行う。
14	課題3	これまでの学習内容を踏まえ、提示された課題について一定時間での Excel で処理を行う。処理したファイルは Web を通じて指定箇所に提出する。これにより学習状況の確認を行う。
15	プレゼンテーション	プレゼンテーションソフトを用いたプレゼンテーションの基本やスライド作成の注意点、スライド作成の基本機能について学ぶ

平成29年度

科目名	情報処理 I	対象 単位数 必選	短期大学部 文化学科 1年 2単位 選択/短期大学部 家政科福祉情報専攻 1年 2単位 選択/短期大学部 幼児教育学科 1年 2単位 選択/短期大学部 家政科食物栄養専攻 1年 2単位 選択/短期大学部 生活芸術科 1年 2単位 選択/短期大学部 音楽科 1年 2単位 選択
担当教員	石原 正道, 山口 猛		
開講期	I		
授業概要	パソコンの普及及びネットワーク化の急激な進展を踏まえ、今後必要となる情報処理技術であるコンピュータ、ネットワーク及びオフィスソフトの基礎技術を学ぶ。とくに本演習ではオペレーティング・システム(OS)の基本操作・メールやウェブの利用方法・文書作成について学習する。		
達成目標	1. オペレーティング・システム(OS)の基本的な操作ができること。 2. ウェブとメールを利用した情報収集および情報伝達ができること。 3. 文書作成・表計算ソフトウェアを利用し、必要な情報を盛り込んだ文書を作成することができること。		
受講資格	なし。	成績評価方法	達成目標の到達度合いは課題により評価する。内容の区切りで課題を提示し演習と確認を行う。評価の比率は課題1を20%、課題2を40%、課題3を40%とする。欠席1回につき3点を減じる。遅刻・早退はそれぞれ1点を減じる。
教科書	つくりたい! がカタチになる 学生のための Office2016&情報モラル、noa 出版 (2016)		
参考書	なし。		
学生への要望	授業内容を反復して練習すること。		
オフィスタイム	家政学館4階 No1情報処理教育研究室 月曜日：I限(8:50~10:20) 16:00~17:05 水曜日：I限(8:50~10:20) II限(10:30~12:00) 16:00~17:05		
自学自習	予習 授業該当箇所の動画をオフィスソフトを操作しながら見る。(約1時間) 復習 教科書の練習問題を実施する。(約1時間)		

～授業内容とスケジュール～

回	項目	授業内容
1	イントロダクション	この演習の目的・内容・単位数・教科書・成績評価についてについて説明する。また演習を始めるにあたり、オリエンテーション時の内容を復習し、Webメールを利用、Windowsの基本操作ができるようにする。
2	ブラウザと検索	World Wide Web (WWW) を利用するために、ブラウザ・文字コード・Uniform Resource Locator・プロトコルなどのネットワークを利用する上での基礎事項を学習する。またインターネットの普及を踏まえた上で、インターネットを利用する上での注意事項について触れる。
3	Email	Email のアドレスの構造やメール転送の仕組みを学ぶ。メールアドレスの管理やメールのフィルタリング、To, CC (Carbon Copy), BCC (Blind Carbon Copy) 違いなどメールの基本について学ぶ。 また、安全に Email を利用する方法やまたローカルコンピュータ上のメーラーだけでなく、Gmail を用いて Web 上のメールの用法も理解する。
4	課題1	インターネット(ブラウザ・メールなど)の用法について、正しく利用できるか確認をする。 教材のダウンロード <a href="http://www.noa-proilab.co.jp/shp/download/">http://www.noa-proilab.co.jp/shp/download/</a>
5	Wordによる文書作成1	Word を用いた文章作成について学ぶ。Word の画面構成と名称を学び、書式の意味とその設定を行う。また文章中での表の作成・挿入などの方法を学ぶ。
6	Wordによる文書作成2	表作成の操作として、列幅や行幅の変更・セルの結合・スタイルの設定等について学ぶ。さらにワードアートを始めた図の挿入方法とその際の各種設定方法について学ぶ。
7	Wordによるレポート作成	レポート作成時に必要となる基本的な設定方法について学ぶ。また文章内に表やグラフを挿入する際に必要となる Excel の基礎知識、脚注や引用などについても学ぶ。
8	課題2	これまでの学習内容を踏まえ、提示された課題について一定時間での文章作成を行う。作成した文章については Web を通じて指定箇所に提出することで、一連の学習状況の確認を行う。
9	Excelによる表計算の基礎	Excel を用いて表計算ソフトを学ぶ。表計算ソフトの基本画面構成・文字と数値の扱い・データ削除方法などの基本操作のほか、計算を行う上での数学とコンピュータ上の規約の差異などを学ぶ。
10	データ入力とアドレス	効率的なデータ入力を行うためのフィルハンドルの用法を学び、具体的な数値の作成練習を行う。また表計算を行う上で重要な相対アドレス・絶対アドレス・混合アドレスの差異を学ぶ。
11	関数	コンピュータ上での関数について学ぶ。基本的な関数である SUM 関数および AVERAGE 関数を用い、表計算ソフト上での関数の扱いについて学ぶ。
12	論理	実用的な計算を行う上で重要な論理計算を行う関数について学ぶ。具体的には IF 関数や COUNTIF 関数などの用法などについて学ぶ。
13	表とグラフ	表計算ソフトでの表の書式設定を学び、作成した表からグラフを作成する方法について学ぶ。またグラフに関する基本的な設定を行う。
14	課題3	これまでの学習内容を踏まえ、提示された課題について一定時間での Excel で処理を行う。処理したファイルは Web を通じて指定箇所に提出する。これにより学習状況の確認を行う。
15	プレゼンテーション	プレゼンテーションソフトを用いたプレゼンテーションの基本やスライド作成の注意点、スライド作成の基本機能について学ぶ

科目名	情報処理 I	対象 単位数 必選	短期大学部 文化学科 1年 2単位 選択/短期大学部 家政科福祉情報専攻 1年 2単位 選択/短期大学部 幼児教育学科 1年 2単位 選択/短期大学部 家政科食物栄養専攻 1年 2単位 選択/短期大学部 生活芸術科 1年 2単位 選択/短期大学部 音楽科 1年 2単位 選択
担当教員	山口 猛, 石原 正道		
開講期	I		
授業概要	パソコンの普及及びネットワーク化の急激な進展を踏まえ、今後必要となる情報処理技術であるコンピュータ、ネットワーク及びオフィスソフトの基礎技術を学ぶ。とくに本演習ではオペレーティング・システム(OS)の基本操作・メールやウェブの利用方法・文書作成について学習する。		
達成目標	本演習における達成目標は次の通りとする。 1. オペレーティング・システム(OS)の基本的な操作ができること。 2. ウェブとメールを利用した情報収集および情報伝達ができること。 3. 文書作成・表計算ソフトウェアを利用し、必要な情報を盛り込んだ文書を作成することができること。		
受講資格	なし。	成績評価方法	達成目標の到達度合いは課題により評価する。内容の区切りで課題を提示し演習と確認を行う。評価の比率は課題1を20%、課題2を40%、課題3を40%とする。欠席1回につき3点を減じる。遅刻・早退はそれぞれ1点を減じる。
教科書	つくりたい!がカタチになる 学生のための Office2016&情報モラル、noa 出版 (2016)		
参考書	なし。		
学生への要望	授業内容を反復して練習すること。		
オフィスタイム	月曜日 16:10-17:05, No.1 情報処理教育研究室 木曜日 16:10-17:05, No.1 情報処理教育研究室 他の時間でも構わないが、アポイントメントがあると確実に対応できる。 アポイントメント用連絡先 m_isihar@koryama-kgc.ac.jp		
自学自習	予習 授業該当箇所の動画をオフィスソフトを操作しながら見る。(約1時間) 復習 教科書の練習問題を実施する。(約1時間)		

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	イントロダクション	この演習の目的・内容・単位数・教科書・成績評価について説明する。また演習を始めるにあたり、オリエンテーション時の内容を復習し、Webメールを利用、Windowsの基本操作ができるようにする。
2	ブラウザと検索	World Wide Web (WWW) を利用するために、ブラウザ・文字コード・Uniform Resource Locator・プロトコルなどのネットワークを利用する上での基礎事項を学習する。またインターネットの普及を踏まえた上で、インターネットを利用する上での注意事項について触れる。
3	Email	Email のアドレスの構造やメール転送の仕組みを学ぶ。メールアドレスの管理やメールのフィルタリング、To, CC (Carbon Copy), BCC (Blind Carbon Copy) 違いなどメールの基本について学ぶ。また、安全に Email を利用する方法やまたローカルコンピュータ上のメーラーだけでなく、Gmail を用いて Web 上のメールの用法も理解する。
4	課題1	インターネット(ブラウザ・メールなど)の用法について、正しく利用できるか確認をする。 教材のダウンロード <a href="http://www.noa-prolab.co.jp/shp/download/">http://www.noa-prolab.co.jp/shp/download/</a>
5	Wordによる文書作成1	Word を用いた文章作成について学ぶ。Word の画面構成と名称を学び、書式の意味とその設定を行う。また文章中での表の作成・挿入などの方法を学ぶ。
6	Wordによる文書作成2	表作成の操作として、列幅や行幅の変更・セルの結合・スタイルの設定等について学ぶ。さらにワードアートを始めとした図の挿入方法とその際の各種設定方法について学ぶ。
7	Wordによるレポート作成	レポート作成時に必要となる基本的な設定方法について学ぶ。また文章内に表やグラフを挿入する際に必要となる Excel の基礎知識、脚注や引用などについても学ぶ。
8	課題2	これまでの学習内容を踏まえ、提示された課題について一定時間での文章作成を行う。作成した文章については Web を通じて指定箇所に提出することで、一連の学習状況の確認を行う。
9	Excelによる表計算の基礎	Excel を用いて表計算ソフトを学ぶ。表計算ソフトの基本画面構成・文字と数値の扱い・データ削除方法などの基本操作のほか、計算を行う上での数学とコンピュータ上の規約の差異などを学ぶ。
10	データ入力とアドレス	効率的なデータ入力を行うためのフィルハンドルの用法を学び、具体的な数値の作成練習を行う。また表計算を行う上で重要な相対アドレス・絶対アドレス・混合アドレスの差異を学ぶ。
11	関数	コンピュータ上での関数について学ぶ。基本的な関数である SUM 関数および AVERAGE 関数を用い、表計算ソフト上での関数の扱いについて学ぶ。
12	論理	実用的な計算を行う上で重要な論理計算を行う関数について学ぶ。具体的には IF 関数や COUNTIF 関数などの用法などについて学ぶ。
13	表とグラフ	表計算ソフトでの表の書式設定を学び、作成した表からグラフを作成する方法について学ぶ。またグラフに関する基本的な設定を行う。
14	課題3	これまでの学習内容を踏まえ、提示された課題について一定時間での Excel で処理を行う。処理したファイルは Web を通じて指定箇所に提出する。これにより学習状況の確認を行う。
15	プレゼンテーション	プレゼンテーションソフトを用いたプレゼンテーションの基本やスライド作成の注意点、スライド作成の基本機能について学ぶ。

科目名	キャリアデザインⅠ	対象 単位数 必選	短期大学部 文化学科 1年 2単位 選択/短期大学部 家政科福祉情報専攻 1年 2単位 選択/短期大学部 家政科食物栄養専攻 1年 2単位 選択/短期大学部 幼児教育学科 1年 2単位 選択/短期大学部 音楽科 1年 2単位 選択/短期大学部 生活芸術科 1年 2単位 選択
担当教員	桑野 聡		
開講期	I		
授業概要	「キャリア」(人生・生涯)は、選択および選択の結果生じる役割の連鎖によって形成されますが、それをコントロールするためには、自分自身と自分がこれから進む世界を正しく認識し、望ましい職業観・勤労観に基づいて進路選択を行う必要があります。特に女性の場合は、男女共同参画社会においてライフ・ワークバランスの舵取りをすることが、キャリア形成にとって重要な意味をもつようになってきました。これらのことを踏まえつつ、本講義では、まず自分の進路に対する意識を高めるための動機づけを行い、さらに進路情報の理解、および自己情報の理解を試みます。最後に、職業と労働に焦点を絞り、具体的な進路選択に向けた準備を実施します。		
達成目標	本学におけるキャリア教育は、「一人一人の社会的自立に向け、生涯を通して自己を磨き続けることができる能力を育成するための教育」と定義されます。本授業では、このようなキャリア教育の一環として、就職や労働に限定しない幅広い視点から自己の進路について考えることで、「つくる力」(創造力、論理的思考力、表現力)と「かかわる力」(主体的行動力、コミュニケーション能力、倫理・道徳観)を身に付け、主体的にライフキャリアを構築できるようにします。授業終了時の達成課題は、自分の夢を実現するための具体的な目標を自主的にレポートにまとめることができる、です。		
受講資格	特になし	成績評価 方法	出席状況(2/3以上)と提出物(第6回授業の課題レポートと第14回授業のレポートなど)から「認」評価を判定する。
教科書	教材集(『キャリアデザイン』)を配布		
参考書	授業中に適宜提示する。		
学生への要望	・新聞やインターネットなどのメディアには、有益な進路情報がたくさん掲載されています。定期的に目を通すことで、労働環境や職業社会の実態を把握し、自分の意見を整理してみましょう。 ・自分自身の進路について、周囲の友人や家族と日常的に話してみましょう。また、身近にいる社会人から仕事や家庭生活に関する話を聞いてみることも、進路を考える上でヒントになります。		
オフィスタイム	桑野は、火曜・水曜のⅡ時限目(10:30~12:00)考古学研究室 その他の担当教員については、各人の指示に従ってください。		
自学自習	半期15回全体のスケジュールを把握し、今自分が何をすべきなのかを考えることが大事です。予習として教材集をよく読み、授業時に配布された資料や提出物をきちんとファイリングすることに気を付けましょう。そして、成績評価に必須の二つのレポートをはじめとする課題の提出期日と提出の際のマナーに気を配りましょう。		

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション・キャリアデザインの意義と目的 4月11日	本講義の目的・意義・内容・計画を理解した上で、「キャリア」とは何か、「キャリアをデザインする」とはどういうことかを考える。
2	郡山女子大学を知ろうー建学の精神と学園の歴史 4月18日	学園の歴史と建学の精神の基本的な考え方を解説する。
3	「かかわる力」を育てる(1)ー社会人としての素養を身に付ける 4月25日	大学生として学ぶための準備として、社会人としてのマナー(携帯電話・パソコン・コミュニケーション)に関する知識を学ぶ。
4	「つくる力」を育てる(1)ー情報を読む力・まとめる力 5月2日	講義から情報を読む力(聴く力・ノートにまとめる力)をトレーニングする。
5	「つくる力」を育てる(2)ー書く力・伝える力の育成 5月9日	レポートの書き方を手掛かりに事実と意見の違いや「きちんと考える」ことの必要性を確認する。
6	「つくる力」を育てる(3)ー仕事でのパソコン活用マナー 5月16日	メール作成の方法、添付ファイルの方法、パソコンによるレポート作成の方法を基礎から学ぶ。
7	「かかわる力」を育てる(2)ー働くことを考える 5月23日	職業選択理論(マッチング理論・ライフキャリアの虹など)を解説し、職業レディネステストを実施して分析する。
8	「かかわる力」を育てる(3)ー仕事を考える 5月30日	前回の職業レディネステストを踏まえたフォローワークを実施する。個人とグループでさまざまな職業を知り、業種・職種の違いなど仕事を考えるワークを実施する。
9	「かかわる力」を育てる(4)ー女性のライフコースの多様化 6月6日	女性のライフコースの多様な選択肢をワークライフバランスに着目して考える。
10	「かかわる力」を育てる(5)ー働くためのルール 6月13日	労働法の基礎知識から働く上での諸問題への対応方法を考える。
11	「かかわる力」を育てる(6)ーアサーショントレーニング① 6月20日	堂々と自分の意見を述べるために必要なアサーションの考え方の基本を学ぶ。
12	「かかわる力」を育てる(7)ーアサーショントレーニング② 6月27日	アサーションの技術を向上させる。I・Youメッセージを学ぶ。
13	総合演習(1)ー女性と就業について① 講演 7月4日	外部講師による講演を実施する。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
14	総合演習(2) 女性と就業について② グループ討論 7月11日	前回の外部講師の講演を踏まえて討論し、レポートを作成する。
15	まとめ ー自分のキャリアを創ろう！ 7月18日	自己評価票の記入・授業アンケート、フリートークによる振り返りなどを実施する。

科目名	キャリアデザインⅠ		対象 単位数 必選	短期大学部 文化学科 1年 2単位 選択/短期大学部 家政科福祉情報専攻 1年 2単位 選択/短期大学部 家政科食物栄養専攻 1年 2単位 選択/短期大学部 幼児教育学科 1年 2単位 選択/短期大学部 生活芸術科 1年 2単位 選択/短期大学部 音楽科 1年 2単位 選択
担当教員	桑野 聡			
開講期	Ⅰ			
授業概要	「キャリア」(人生・生涯)は、選択および選択の結果生じる役割の連鎖によって形成されますが、それをコントロールするためには、自分自身と自分がこれから進む世界を正しく認識し、望ましい職業観・勤労観に基づいて進路選択を行う必要があります。特に女性の場合は、男女共同参画社会においてライフ・ワークバランスの舵取りをすることが、キャリア形成にとって重要な意味をもつようになってきました。これらのことを踏まえつつ、本講義では、まず自分の進路に対する意識を高めるための動機づけを行い、さらに進路情報の理解、および自己情報の理解を試みます。最後に、職業と労働に焦点を絞り、具体的な進路選択に向けた準備を実施します。			
達成目標	本学におけるキャリア教育は、「一人一人の社会的自立に向け、生涯を通して自己を磨き続けることができる能力を育成するための教育」と定義されます。本授業では、このようなキャリア教育の一環として、就職や労働に限定しない幅広い視点から自己の進路について考えることで、「つくる力」(創造力、論理的思考力、表現力)と「かかわる力」(主体的行動力、コミュニケーション能力、倫理・道徳観)を身に付け、主体的にライフキャリアを構築できるようにします。授業終了時の達成課題は、自分の夢を実現するための具体的な目標を自主的にレポートにまとめることができる、です。			
受講資格	特になし	成績評価 方法	出席状況(2/3以上)と提出物(第6回授業の課題レポートと第14回授業のレポートなど)から「認」評価を判定する。	
教科書	教材集(『キャリアデザイン』)を配布			
参考書	授業中に適宜提示する。			
学生への要望	・新聞やインターネットなどのメディアには、有益な進路情報がたくさん掲載されています。定期的に目を通すことで、労働環境や職業社会の実態を把握し、自分の意見を整理してみましょう。 ・自分自身の進路について、周囲の友人や家族と日常的に話してみましょう。また、身近にいる社会人から仕事や家庭生活に関する話を聞いてみることも、進路を考える上でヒントになります。			
オフィスタイム	桑野は、火曜・水曜のⅡ時限目(10:30~12:00) 考古学研究室 その他の担当教員については、各人の指示に従ってください。			
自学自習	半期15回全体のスケジュールを把握し、今自分が何をすべきなのかを考えることが大事です。予習として教材集をよく読み、授業時に配布された資料や提出物をきちんとファイリングすることに気を付けましょう。そして、成績評価に必須の二つのレポートをはじめとする課題の提出期日と提出の際のマナーに気を配りましょう。			

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション・キャリアデザインの意義と目的 4月11日	本講義の目的・意義・内容・計画を理解した上で、「キャリア」とは何か、「キャリアをデザインする」とはどういうことかを考える。
2	郡山女子大学を知ろうー建学の精神と学園の歴史 4月18日	学園の歴史と建学の精神の基本的な考え方を解説する。
3	「かかわる力」を育てる(1)ー社会人としての素養を身に付ける 4月25日	大学生として学ぶための準備として、社会人としてのマナー(携帯電話・パソコン・コミュニケーション)に関する知識を学ぶ。
4	「つくる力」を育てる(1)ー情報を読む力・まとめる力 5月2日	講義から情報を読む力(聴く力・ノートにまとめる力)をトレーニングする。
5	「つくる力」を育てる(2)ー書く力・伝える力の育成 5月9日	レポートの書き方を手掛かりに事実と意見の違いや「きちんと考える」ことの必要性を確認する。
6	「つくる力」を育てる(3)ー仕事でのパソコン活用マナー 5月16日	メール作成の方法、添付ファイルの方法、パソコンによるレポート作成の方法を基礎から学ぶ。
7	「かかわる力」を育てる(2)ー働くことを考える 5月23日	職業選択理論(マッチング理論・ライフキャリアの虹など)を解説し、職業レディネステストを実施して分析する。
8	「かかわる力」を育てる(3)ー仕事を考える 5月30日	前回の職業レディネステストを踏まえたフォローワークを実施する。個人とグループでさまざまな職業を知り、業種・職種の違いなど仕事を考えるワークを実施する。
9	「かかわる力」を育てる(4)ー女性のライフコースの多様化 6月6日	女性のライフコースの多様な選択肢をワークライフバランスに着目して考える。
10	「かかわる力」を育てる(5)ー働くためのルール 6月13日	労働法の基礎知識から働く上での諸問題への対応方法を考える。
11	「かかわる力」を育てる(6)ーアサーショントレーニング① 6月20日	堂々と自分の意見を述べるために必要なアサーションの考え方の基本を学ぶ。
12	「かかわる力」を育てる(7)ーアサーショントレーニング② 6月27日	アサーションの技術を向上させる。I・Youメッセージを学ぶ。
13	総合演習(1)ー女性と就業について① 講演 7月4日	外部講師による講演を実施する。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
14	総合演習(2) 女性と就業 について② グループ討論 7月11日	前回の外部講師の講演を踏まえて討論し、レポートを作成する。
15	まとめ ー自分のキャリア を創ろう！ 7月18日	自己評価票の記入・授業アンケート、フリートークによる振り返りなどを実施する。

科目名	キャリアデザインⅠ		対象 単位数 必選	短期大学部 文化学科 1年 2単位 選択/短期大学部 家政科福祉情報専攻 1年 2単位 選択/短期大学部 幼児教育学科 1年 2単位 選択/短期大学部 家政科食物栄養専攻 1年 2単位 選択/短期大学部 生活芸術科 1年 2単位 選択/短期大学部 音楽科 1年 2単位 選択
担当教員	桑野 聡			
開講期	Ⅰ			
授業概要	「キャリア」(人生・生涯)は、選択および選択の結果生じる役割の連鎖によって形成されますが、それをコントロールするためには、自分自身と自分がこれから進む世界を正しく認識し、望ましい職業観・勤労観に基づいて進路選択を行う必要があります。特に女性の場合は、男女共同参画社会においてライフ・ワークバランスの舵取りをすることが、キャリア形成にとって重要な意味をもつようになってきました。これらのことを踏まえつつ、本講義では、まず自分の進路に対する意識を高めるための動機づけを行い、さらに進路情報の理解、および自己情報の理解を試みます。最後に、職業と労働に焦点を絞り、具体的な進路選択に向けた準備を実施します。			
達成目標	本学におけるキャリア教育は、「一人一人の社会的自立に向け、生涯を通して自己を磨き続けることができる能力を育成するための教育」と定義されます。本授業では、このようなキャリア教育の一環として、就職や労働に限定しない幅広い視点から自己の進路について考えることで、「つくる力」(創造力、論理的思考力、表現力)と「かかわる力」(主体的行動力、コミュニケーション能力、倫理・道徳観)を身に付け、主体的にライフキャリアを構築できるようにします。授業終了時の達成課題は、自分の夢を実現するための具体的な目標を自主的にレポートにまとめることができる、です。			
受講資格	特になし	成績評価 方法	出席状況(2/3以上)と提出物(第6回授業の課題レポートと第14回授業のレポートなど)から「認」評価を判定する。	
教科書	教材集(『キャリアデザイン』)を配布			
参考書	授業中に適宜提示する。			
学生への要望	・新聞やインターネットなどのメディアには、有益な進路情報がたくさん掲載されています。定期的に目を通すことで、労働環境や職業社会の実態を把握し、自分の意見を整理してみましょう。 ・自分自身の進路について、周囲の友人や家族と日常的に話してみましょう。また、身近にいる社会人から仕事や家庭生活に関する話を聞いてみることも、進路を考える上でヒントになります。			
オフィスタイム	桑野は、火曜・水曜のⅡ時限目(10:30~12:00)考古学研究室 その他の担当教員については、各人の指示に従ってください。			
自学自習	半期15回全体のスケジュールを把握し、今自分が何をすべきなのかを考えることが大事です。予習として教材集をよく読み、授業時に配布された資料や提出物をきちんとファイリングすることに気を付けましょう。そして、成績評価に必須の二つのレポートをはじめとする課題の提出期日と提出の際のマナーに気を配りましょう。			

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション・キャリアデザインの意義と目的 4月11日	本講義の目的・意義・内容・計画を理解した上で、「キャリア」とは何か、「キャリアをデザインする」とはどういうことかを考える。
2	郡山女子大学を知ろうー建学の精神と学園の歴史 4月18日	学園の歴史と建学の精神の基本的な考え方を解説する。
3	「かかわる力」を育てる(1)ー社会人としての素養を身に付ける 4月25日	大学生として学ぶための準備として、社会人としてのマナー(携帯電話・パソコン・コミュニケーション)に関する知識を学ぶ。
4	「つくる力」を育てる(1)ー情報を読む力・まとめる力 5月2日	講義から情報を読む力(聴く力・ノートにまとめる力)をトレーニングする。
5	「つくる力」を育てる(2)ー書く力・伝える力の育成 5月9日	レポートの書き方を手掛かりに事実と意見の違いや「きちんと考える」ことの必要性を確認する。
6	「つくる力」を育てる(3)ー仕事でのパソコン活用マナー 5月16日	メール作成の方法、添付ファイルの方法、パソコンによるレポート作成の方法を基礎から学ぶ。
7	「かかわる力」を育てる(2)ー働くことを考える 5月23日	職業選択理論(マッチング理論・ライフキャリアの虹など)を解説し、職業レディネステストを実施して分析する。
8	「かかわる力」を育てる(3)ー仕事を考える 5月30日	前回の職業レディネステストを踏まえたフォローワークを実施する。個人とグループでさまざまな職業を知り、業種・職種の違いなど仕事を考えるワークを実施する。
9	「かかわる力」を育てる(4)ー女性のライフコースの多様化 6月6日	女性のライフコースの多様な選択肢をワークライフバランスに着目して考える。
10	「かかわる力」を育てる(5)ー働くためのルール 6月13日	労働法の基礎知識から働く上での諸問題への対応方法を考える。
11	「かかわる力」を育てる(6)ーアサーショントレーニング① 6月20日	堂々と自分の意見を述べるために必要なアサーションの考え方の基本を学ぶ。
12	「かかわる力」を育てる(7)ーアサーショントレーニング② 6月27日	アサーションの技術を向上させる。I・Youメッセージを学ぶ。
13	総合演習(1)ー女性と就業について① 講演 7月4日	外部講師による講演を実施する。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
14	総合演習(2) 女性と就業 について② グループ討論 7月11日	前回の外部講師の講演を踏まえて討論し、レポートを作成する。
15	まとめ ー自分のキャリア を創ろう！ 7月18日	自己評価票の記入・授業アンケート、フリートークによる振り返りなどを実施する。

科目名	キャリアデザインⅠ		対象 単位数 必選	短期大学部 文化学科 1年 2単位 選択/短期大学部 家政科福祉情報専攻 1年 2単位 選択/短期大学部 幼児教育学科 1年 2単位 選択/短期大学部 家政科食物栄養専攻 1年 2単位 選択/短期大学部 生活芸術科 1年 2単位 選択/短期大学部 音楽科 1年 2単位 選択
担当教員	桑野 聡			
開講期	Ⅰ			
授業概要	「キャリア」(人生・生涯)は、選択および選択の結果生じる役割の連鎖によって形成されますが、それをコントロールするためには、自分自身と自分がこれから進む世界を正しく認識し、望ましい職業観・勤労観に基づいて進路選択を行う必要があります。特に女性の場合は、男女共同参画社会においてライフ・ワークバランスの舵取りをすることが、キャリア形成にとって重要な意味をもつようになってきました。これらのことを踏まえつつ、本講義では、まず自分の進路に対する意識を高めるための動機づけを行い、さらに進路情報の理解、および自己情報の理解を試みます。最後に、職業と労働に焦点を絞り、具体的な進路選択に向けた準備を実施します。			
達成目標	本学におけるキャリア教育は、「一人一人の社会的自立に向け、生涯を通して自己を磨き続けることができる能力を育成するための教育」と定義されます。本授業では、このようなキャリア教育の一環として、就職や労働に限定しない幅広い視点から自己の進路について考えることで、「つくる力」(創造力、論理的思考力、表現力)と「かかわる力」(主体的行動力、コミュニケーション能力、倫理・道徳観)を身に付け、主体的にライフキャリアを構築できるようにします。授業終了時の達成課題は、自分の夢を実現するための具体的な目標を自主的にレポートにまとめることができる、です。			
受講資格	特になし	成績評価 方法	出席状況(2/3以上)と提出物(第6回授業の課題レポートと第14回授業のレポートなど)から「認」評価を判定する。	
教科書	教材集(『キャリアデザイン』)を配布			
参考書	授業中に適宜提示する。			
学生への要望	・新聞やインターネットなどのメディアには、有益な進路情報がたくさん掲載されています。定期的に目を通すことで、労働環境や職業社会の実態を把握し、自分の意見を整理してみましょう。 ・自分自身の進路について、周囲の友人や家族と日常的に話してみましょう。また、身近にいる社会人から仕事や家庭生活に関する話を聞いてみることも、進路を考える上でヒントになります。			
オフィスタイム	桑野は、火曜・水曜のⅡ時限目(10:30~12:00)考古学研究室 その他の担当教員については、各人の指示に従ってください。			
自学自習	半期15回全体のスケジュールを把握し、今自分が何をすべきなのかを考えることが大事です。予習として教材集をよく読み、授業時に配布された資料や提出物をきちんとファイリングすることに気を付けましょう。そして、成績評価に必須の二つのレポートをはじめとする課題の提出期日と提出の際のマナーに気を配りましょう。			

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション・キャリアデザインの意義と目的 4月11日	本講義の目的・意義・内容・計画を理解した上で、「キャリア」とは何か、「キャリアをデザインする」とはどういうことかを考える。
2	郡山女子大学を知ろうー建学の精神と学園の歴史 4月18日	学園の歴史と建学の精神の基本的な考え方を解説する。
3	「かかわる力」を育てる(1)ー社会人としての素養を身に付ける 4月25日	大学生として学ぶための準備として、社会人としてのマナー(携帯電話・パソコン・コミュニケーション)に関する知識を学ぶ。
4	「つくる力」を育てる(1)ー情報を読む力・まとめる力 5月2日	講義から情報を読む力(聴く力・ノートにまとめる力)をトレーニングする。
5	「つくる力」を育てる(2)ー書く力・伝える力の育成 5月9日	レポートの書き方を手掛かりに事実と意見の違いや「きちんと考える」ことの必要性を確認する。
6	「つくる力」を育てる(3)ー仕事でのパソコン活用マナー 5月16日	メール作成の方法、添付ファイルの方法、パソコンによるレポート作成の方法を基礎から学ぶ。
7	「かかわる力」を育てる(2)ー働くことを考える 5月23日	職業選択理論(マッチング理論・ライフキャリアの虹など)を解説し、職業レディネステストを実施して分析する。
8	「かかわる力」を育てる(3)ー仕事を考える 5月30日	前回の職業レディネステストを踏まえたフォローワークを実施する。個人とグループでさまざまな職業を知り、業種・職種の違いなど仕事を考えるワークを実施する。
9	「かかわる力」を育てる(4)ー女性のライフコースの多様化 6月6日	女性のライフコースの多様な選択肢をワークライフバランスに着目して考える。
10	「かかわる力」を育てる(5)ー働くためのルール 6月13日	労働法の基礎知識から働く上での諸問題への対応方法を考える。
11	「かかわる力」を育てる(6)ーアサーショントレーニング① 6月20日	堂々と自分の意見を述べるために必要なアサーションの考え方の基本を学ぶ。
12	「かかわる力」を育てる(7)ーアサーショントレーニング② 6月27日	アサーションの技術を向上させる。I・Youメッセージを学ぶ。
13	総合演習(1)ー女性と就業について① 講演 7月4日	外部講師による講演を実施する。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
14	総合演習(2) 女性と就業 について② グループ討論 7月11日	前回の外部講師の講演を踏まえて討論し、レポートを作成する。
15	まとめ ー自分のキャリア を創ろう！ 7月18日	自己評価票の記入・授業アンケート、フリートークによる振り返りなどを実施する。

科目名	キャリアデザインⅠ		対象 単位数 必選	短期大学部 文化学科 1年 2単位 選択/短期大学部 家政科福祉情報専攻 1年 2単位 選択/短期大学部 家政科食物栄養専攻 1年 2単位 選択/短期大学部 幼児教育学科 1年 2単位 選択/短期大学部 生活芸術科 1年 2単位 選択/短期大学部 音楽科 1年 2単位 選択
担当教員	桑野 聡, 知野 愛, 山口 猛			
開講期	Ⅰ			
授業概要	「キャリア」(人生・生涯)は、選択および選択の結果生じる役割の連鎖によって形成されますが、それをコントロールするためには、自分自身と自分がこれから進む世界を正しく認識し、望ましい職業観・勤労観に基づいて進路選択を行う必要があります。特に女性の場合は、男女共同参画社会においてライフ・ワークバランスの舵取りをすることが、キャリア形成にとって重要な意味をもつようになってきました。これらのことを踏まえつつ、本講義では、まず自分の進路に対する意識を高めるための動機づけを行い、さらに進路情報の理解、および自己情報の理解を試みます。最後に、職業と労働に焦点を絞り、具体的な進路選択に向けた準備を実施します。			
達成目標	本学におけるキャリア教育は、「一人一人の社会的自立に向け、生涯を通して自己を磨き続けることができる能力を育成するための教育」と定義されます。本授業では、このようなキャリア教育の一環として、就職や労働に限定しない幅広い視点から自己の進路について考えることで、「つくる力」(創造力、論理的思考力、表現力)と「かかわる力」(主体的行動力、コミュニケーション能力、倫理・道徳観)を身に付け、主体的にライフキャリアを構築できるようにします。授業終了時の達成課題は、自分の夢を実現するための具体的な目標を自主的にレポートにまとめることができる、です。			
受講資格	特になし	成績評価 方法	出席状況(2/3以上)と提出物(第6回授業の課題レポートと第14回授業のレポートなど)から「認」評価を判定する。	
教科書	教材集(『キャリアデザイン』)を配布			
参考書	授業中に適宜提示する。			
学生への要望	・新聞やインターネットなどのメディアには、有益な進路情報がたくさん掲載されています。定期的に目を通すことで、労働環境や職業社会の実態を把握し、自分の意見を整理してみましょう。 ・自分自身の進路について、周囲の友人や家族と日常的に話してみましょう。また、身近にいる社会人から仕事や家庭生活に関する話を聞いてみることも、進路を考える上でヒントになります。			
オフィスタイム	桑野は、火曜・水曜のⅡ時限目(10:30~12:00)考古学研究室 その他の担当教員については、各人の指示に従ってください。			
自学自習	半期15回全体のスケジュールを把握し、今自分が何をすべきなのかを考えることが大事です。予習として教材集をよく読み、授業時に配布された資料や提出物をきちんとファイリングすることに気を付けましょう。そして、成績評価に必須の二つのレポートをはじめとする課題の提出期日と提出の際のマナーに気を配りましょう。			

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション・キャリアデザインの意義と目的 4月11日	本講義の目的・意義・内容・計画を理解した上で、「キャリア」とは何か、「キャリアをデザインする」とはどういうことかを考える。
2	郡山女子大学を知ろうー建学の精神と学園の歴史 4月18日	学園の歴史と建学の精神の基本的な考え方を解説する。
3	「かかわる力」を育てる(1)ー社会人としての素養を身に付ける 4月25日	大学生として学ぶための準備として、社会人としてのマナー(携帯電話・パソコン・コミュニケーション)に関する知識を学ぶ。
4	「つくる力」を育てる(1)ー情報を読む力・まとめる力 5月2日	講義から情報を読む力(聴く力・ノートにまとめる力)をトレーニングする。
5	「つくる力」を育てる(2)ー書く力・伝える力の育成 5月9日	レポートの書き方を手掛かりに事実と意見の違いや「きちんと考える」ことの必要性を確認する。
6	「つくる力」を育てる(3)ー仕事でのパソコン活用マナー 5月16日	メール作成の方法、添付ファイルの方法、パソコンによるレポート作成の方法を基礎から学ぶ。
7	「かかわる力」を育てる(2)ー働くことを考える 5月23日	職業選択理論(マッチング理論・ライフキャリアの虹など)を解説し、職業レディネステストを実施して分析する。
8	「かかわる力」を育てる(3)ー仕事を考える 5月30日	前回の職業レディネステストを踏まえたフォローワークを実施する。個人とグループでさまざまな職業を知り、業種・職種の違いなど仕事を考えるワークを実施する。
9	「かかわる力」を育てる(4)ー女性のライフコースの多様化 6月6日	女性のライフコースの多様な選択肢をワークライフバランスに着目して考える。
10	「かかわる力」を育てる(5)ー働くためのルール 6月13日	労働法の基礎知識から働く上での諸問題への対応方法を考える。
11	「かかわる力」を育てる(6)ーアサーショントレーニング① 6月20日	堂々と自分の意見を述べるために必要なアサーションの考え方の基本を学ぶ。
12	「かかわる力」を育てる(7)ーアサーショントレーニング② 6月27日	アサーションの技術を向上させる。I・Youメッセージを学ぶ。
13	総合演習(1)ー女性と就業について① 講演 7月4日	外部講師による講演を実施する。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
14	総合演習(2) 女性と就業について② グループ討論 7月11日	前回の外部講師の講演を踏まえて討論し、レポートを作成する。
15	まとめ ー自分のキャリアを創ろう！ 7月18日	自己評価票の記入・授業アンケート、フリートークによる振り返りなどを実施する。

科目名	キャリアデザインⅠ		対象 単位数 必選	短期大学部 文化学科 1年 2単位 選択/短期大学部 家政科福祉情報専攻 1年 2単位 選択/短期大学部 家政科食物栄養専攻 1年 2単位 選択/短期大学部 幼児教育学科 1年 2単位 選択/短期大学部 音楽科 1年 2単位 選択/短期大学部 生活芸術科 1年 2単位 選択
担当教員	i			
開講期	I			
授業概要	「キャリア」(人生・生涯)は、選択および選択の結果生じる役割の連鎖によって形成されますが、それをコントロールするためには、自分自身と自分がこれから進む世界を正しく認識し、望ましい職業観・勤労観に基づいて進路選択を行う必要があります。特に女性の場合は、男女共同参画社会においてライフ・ワークバランスの舵取りをすることが、キャリア形成にとって重要な意味をもつようになってきました。これらのことを踏まえつつ、本講義では、まず自分の進路に対する意識を高めるための動機づけを行い、さらに進路情報の理解、および自己情報の理解を試みます。最後に、職業と労働に焦点を絞り、具体的な進路選択に向けた準備を実施します。			
達成目標	<p>本学におけるキャリア教育は、「一人一人の社会的自立に向け、生涯を通して自己を磨き続けることができる能力を育成するための教育」と定義されます。本授業では、このようなキャリア教育の一環として、就職や労働に限定しない幅広い視点から自己の進路について考えることで、「つくる力」(創造力、論理的思考力、表現力)と「かかわる力」(主体的行動力、コミュニケーション能力、倫理・道徳観)を身に付け、主体的にライフキャリアを構築できるようにします。</p> <p>授業終了時の達成課題は、自分の夢を実現するための具体的な目標を自主的にレポートにまとめることができる、です。</p>			
受講資格	特になし	成績評価 方法	出席状況(2/3以上)と提出物(第6回授業の課題レポートと第14回授業のレポートなど)から「認」評価を判定する。	
教科書	教材集(『キャリアデザイン』)を配布			
参考書	授業中に適宜提示する。			
学生への要望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新聞やインターネットなどのメディアには、有益な進路情報がたくさん掲載されています。定期的に目を通すことで、労働環境や職業社会の実態を把握し、自分の意見を整理してみましょう。</li> <li>・自分自身の進路について、周囲の友人や家族と日常的に話してみましょう。また、身近にいる社会人から仕事や家庭生活に関する話を聞いてみることも、進路を考える上でヒントになります。</li> </ul>			
オフィスタイム	桑野は、火曜・水曜のⅡ時限目(10:30~12:00)考古学研究室 その他の担当教員については、各人の指示に従ってください。			
自学自習	半期15回全体のスケジュールを把握し、今自分が何をすべきなのかを考えることが大事です。予習として教材集をよく読み、授業時に配布された資料や提出物をきちんとファイリングすることに気を付けましょう。そして、成績評価に必須の二つのレポートをはじめとする課題の提出期日と提出の際のマナーに気を配りましょう。			

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション・キャリアデザインの意義と目的 4月11日	本講義の目的・意義・内容・計画を理解した上で、「キャリア」とは何か、「キャリアをデザインする」とはどういうことかを考える。
2	郡山女子大学を知ろうー建学の精神と学園の歴史 4月18日	学園の歴史と建学の精神の基本的な考え方を解説する。
3	「かかわる力」を育てる(1)ー社会人としての素養を身に付ける 4月25日	大学生として学ぶための準備として、社会人としてのマナー(携帯電話・パソコン・コミュニケーション)に関する知識を学ぶ。
4	「つくる力」を育てる(1)ー情報を読む力・まとめる力 5月2日	講義から情報を読む力(聴く力・ノートにまとめる力)をトレーニングする。
5	「つくる力」を育てる(2)ー書く力・伝える力の育成 5月9日	レポートの書き方を手掛かりに事実と意見の違いや「きちんと考える」ことの必要性を確認する。
6	「つくる力」を育てる(3)ー仕事でのパソコン活用マナー 5月16日	メール作成の方法、添付ファイルの方法、パソコンによるレポート作成の方法を基礎から学ぶ。
7	「かかわる力」を育てる(2)ー働くことを考える 5月23日	職業選択理論(マッチング理論・ライフキャリアの虹など)を解説し、職業レディネステストを実施して分析する。
8	「かかわる力」を育てる(3)ー仕事を考える 5月30日	前回の職業レディネステストを踏まえたフォローワークを実施する。個人とグループでさまざまな職業を知り、業種・職種の違いなど仕事を考えるワークを実施する。
9	「かかわる力」を育てる(4)ー女性のライフコースの多様化 6月6日	女性のライフコースの多様な選択肢をワークライフバランスに着目して考える。
10	「かかわる力」を育てる(5)ー働くためのルール 6月13日	労働法の基礎知識から働く上での諸問題への対応方法を考える。
11	「かかわる力」を育てる(6)ーアサーショントレーニング① 6月20日	堂々と自分の意見を述べるために必要なアサーションの考え方の基本を学ぶ。
12	「かかわる力」を育てる(7)ーアサーショントレーニング② 6月27日	アサーションの技術を向上させる。I・Youメッセージを学ぶ。
13	総合演習(1)ー女性と就業について① 講演 7月4日	外部講師による講演を実施する。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
14	総合演習(2) 女性と就業について② グループ討論 7月11日	前回の外部講師の講演を踏まえて討論し、レポートを作成する。
15	まとめ ー自分のキャリアを創ろう！ 7月18日	自己評価票の記入・授業アンケート、フリートークによる振り返りなどを実施する。

平成29年度

科目名	キャリアデザインⅡ	対象 単位数 必選	短期大学部 文化学科 1年 1単位 選択/短期大学部 家政科福祉情報専攻 1年 1単位 選択/短期大学部 家政科食物栄養専攻 1年 1単位 選択/短期大学部 幼児教育学科 1年 1単位 選択/短期大学部 音楽科 1年 1単位 選択/短期大学部 生活芸術科 1年 1単位 選択
担当教員	森 みい		
開講期	I		
授業概要	<p>【授業のねらい】 将来の社会生活や職業生活に向けて、自らの資質を向上させ、社会的職業的自立を図るために必要な能力を培い、幅広い人間形成を図ることを目的としています。社会人としての自覚と行動を視野に入れて、主体的にキャリア形成能力を育成します。働くことの実態、意義、面白みを体感していきます。インターンシップを推進して、学生の自己認識、社会・職業認識の深化を促し、就職意欲のある学生に対して、豊富かつ適切な就職情報を提供するとともに希望に添った就職活動が行えるよう支援します。</p> <p>【授業の概要】 インターンシップ（就業体験）を通じ、自らの専門や将来希望する職業の関連した職場での体験で、学んでいる内容と社会との関連性を認識し、今後の主体的な学修への動機付けを強め、職業を具体的に理解することで仕事の奥深さを実感して、勤労について総合的に理解や仕事をする達成感、充実感、社会貢献を体得します。前期7回の講義、夏休み期間中のインターンシップ（5日間）、および、受け入れ企業のご担当者を招いた報告会から構成されています。インターンシップ終了後報告書を作成することで成果と課題を理解します。</p>		
達成目標	<p>【授業終了時の達成目標】 インターンシップを通して、社会人として必要な能力と知識を学び、それを今後の学生生活の中に活かしていくことで新たな学習意欲の契機となることを目標とします。</p>		
受講資格	特になし	成績評価方法	就業体験50%・授業参加30%・報告会20%から「認」評価判定
教科書	なし		
参考書	なし		
学生への要望	インターンシップから学習への喚起となり、課題発見力を身に付けましょう。自分の変化や成長を実感できる機会です。新たな挑戦で、自らの可能性の枠を広げてみてはどうでしょう。		
オフィスタイム	月曜日9:00~12:30 水曜日9:00~12:30 事前にご相談いただければそれ以外でも対応します。		
自学自習	事前学習のビジネスマナーは練習を繰り返し、実践を通して活用できるようにして下さい。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ガイダンス・企業研究 4/22(Ⅲコマ目) 642 教室	インターンシップの概要説明で理解を深める。それぞれの業界・職業の今後の発展方向をみる。就業体験先の希望調査。「インターンシップ希望調査票」「志望理由」の提出。
2	インターンシップの心構え 4/22(Ⅳコマ目) □	インターンシップの取り組みを画像で見て、ワークを実施しながらインターンシップの考えを深化させていく。 (ムビケーションの実施)
3	企業を知るⅠ(求められる人材)講演 6/20(Ⅵコマ目)	身近な経営者の講演を実施する。変化を受け入れ、新しいマーケティングアイデアを考える姿勢から、今 企業で求められる人材を考えていく。
4	事前学習 マナー講座 7/24(Ⅰコマ目) □	マナー講座実施を通して、言葉遣い、立ち居振る舞い、挨拶等、円滑な人間関係を築くための基礎を身に付ける。また、就業体験先の決定をする。
5	事前指導 ビジネス文書作成 7/24(Ⅱコマ目) □	メールと封書でのお礼状の書き方・履歴書の書き方を理解して実践できる。
6	インターンシップ(就業体験)	各企業において、夏季休業中に3日間インターンシップ(就業体験)を行います。
7	インターンシップ報告会 9/6(Ⅰコマ目)	事後報告会として、企業の方をお招きして報告会を実施する。
8	インターンシップ報告会 9/6(Ⅱコマ目)	事後報告会として、企業の方をお招きして報告会を実施する。実習日誌を提出する。

## 授業計画書 (Syllabus)

科目名	芸術鑑賞講座・教養講座		必修 選択	担当教員氏名		研究室	
対象	学科名	全学科		開講期	通年・前期・後期	単位数	0.5単位
授業目標	<p>〔授業の目的・ねらい〕</p> <p>芸術は人間存在や世界の真相をありありと感じさせるものである。高度な芸術に接して感動することにより、人間として最も大切な感性を磨き、豊かな人間性を育てる。</p> <p>教養は個々の専門知識を縦横に関連づけ、創造的な思考を導くものである。一流の文化人の講演を聴き、個々の人生について深く思考する力をつける。</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕</p> <p>芸術鑑賞講座として、年に4回、一流のアーティストや作品を学内に招き、全学で感動を共有する。</p> <p>教養講座として、年に3回、一流の文化人を招き、全学で講演を聴く。</p> <p>〔授業修了時の達成課題（到達目標）〕</p> <p>心豊かな、人の役に立つ人生について、考えを深める。</p>						
(教職課程)	<p>「日本国憲法」「体育(理論・実技)」「外国語コミュニケーション」「情報機器の操作」「教科に関する科目」「教職に関する科目」のいずれかに該当する科目については、評価項目を記載して下さい。</p> <p>〔履修カルテの評価項目〕</p> <p>①</p> <p>②</p> <p>③</p>						
受講資格	本学の全学生			成績評価方法	レポート		
教科書	リーフレット、講演資料			学生への要望	自分でも積極的に調べ、毎回きちんと感動および考えを文章にすること		
参考書	図書館で関連図書を展示する						
オフィスアワー							

## 〔授業内容とスケジュール〕

回数	タイトル	授業内容
1	芸術鑑賞講座	野口勝宏氏 写真展「福島の花／東北の花」(4月3日～4月12日)
2	教養講座	矢部洋三氏(元日本大学教授) 講演「中条家三代一安積開拓への想い」(4月22日)
3	芸術鑑賞講座	桂歌丸師匠 in 郡山女子大学(5月16日)
4	教養講座	新美昌道氏(裏千家淡交会) 講演「演題未定」(6月28日)
5	教養講座	尾関宗園氏(大仙院住職) 講演「演題未定」(9月22日)
6	芸術鑑賞講座	「琳派絵画作品展」(10月3日～10月8日)
7	芸術鑑賞講座	人形劇団ひとみ座「リア王」(10月31日)
8		
9		
10		
11		
12		

13		
14		
15		